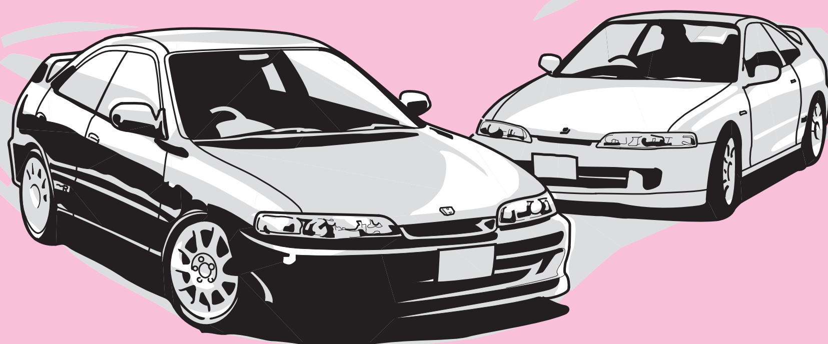
このたびはホンダ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この本は INTEGRA TYPE R の取り扱いについて
必要事項を説明しています。
安全で快適なドライブをお楽しみいただくために、
ご使用前に必ずお読みください。



●運転はルールを守り、マナーよく。 ・シートベルトを着用しましょう。 ・法定速度を守りましょう。 ・子供やお年寄りをいたわりましょう。 ・駐停車は、ルールに従いましょう。 ・迷惑運転はやめましょう。 ・自然環境保護に気をくばりましょう。	●取扱説明書はメンテナンスノートと共に、いつもお車に保管してください。 ●お車をゆずられるときは、つぎに所有されるかたのためにこの取扱説明書およびメンテナンスノートを車につけておいてください。
●保証や点検整備に関することはメンテナンスノートに記載しておりますので、ご使用前に必ずお読みください。	●ご不明な点は、担当セールスマンにおたずねください。

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。

本書の読みかた

この本はドライバーの動作に沿って各部の取り扱いを説明しています。
また、装備、万一のときの応急処置、お車の手入れなど、必要な情報を説明しています。

「安全ドライブのための必読 5 ポイント」

重要ですので、しっかりお読みください。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

お車に関することや、その他のアドバイスは下記の表示を使って記載しています。

アドバイス

お車のために守っていただきたいこと
（車が故障・破損するのを防ぐためのアドバイス、異常事態の処置方法を記載しています）

知　識

知っておいていただきたいこと
知っておくと便利なこと

タイトル
階層ごとにデザインを
変えてあります

ヘッダー
ページの内容を
示しています

**ページ
インデックス**
（→4ページ）



**●長期間使わないで
屋外におくとき**

塗装面の保護とドアまわりの凍結を防ぐために、ボディカバーを使ってください。

⚠注意
●格納するとき、エンジン部を毛布で覆ったり、ラジエーターのまわりに段ボールや新聞紙をはさみ込んだりしないでください。そのまま走行すると、火災のおそれがあります。

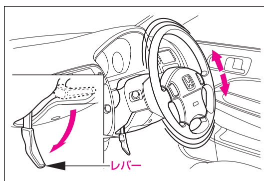
ハンドル・バックミラーの調節

チルトステアリング

ハンドルの高さを適切な位置に変えることができます。



レバーを押し下げ、ハンドルの高さを適切な位置にして、レバーを元の位置まで確実に引き上げて固定します。



⚠注意
●走行中に調節するとハンドルが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行する前に行い、ハンドルに上下方向の力を加え固定されていることを確認してください。

ルームミラー

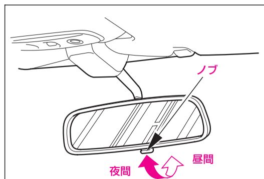
知　識
●走行中はミラーの調節を行わないでください。

●防眩式ルームミラー

夜間走行時、後続車のライトがまぶしいときにライトの反射を弱くできます。



ノブを動かして切り換えます。



角度調節はノブを昼間の位置にして行ってください。

説明文
装置／機構について

解説
▼
操作方法



に分けて記載しています。

安全に関する表示

※このページはサンプルページですので、記載されている内容と実車は異なります。

本書の上手な使いかた

知りたい項目の説明がすぐ探せるように、いろいろな引きかたが用意されています。



タイトルから探すとき



目次(P.5)

ページインデックス:
目次と対応しているので、目的のページが辞書を引くように探せます。



スイッチ類などの名称が
わからないとき



ビジュアル目次
(P.6～10)



名称から探すとき

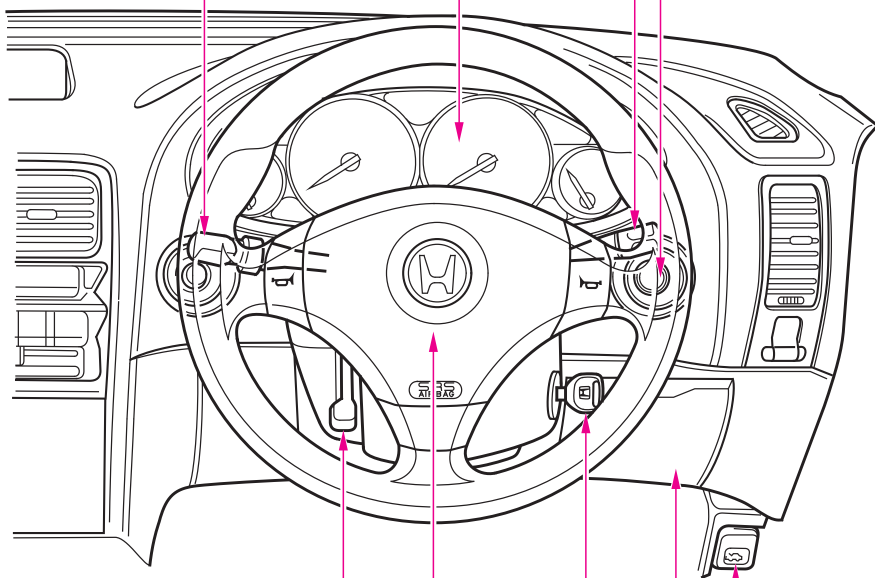


さくいん
(P.174～182)

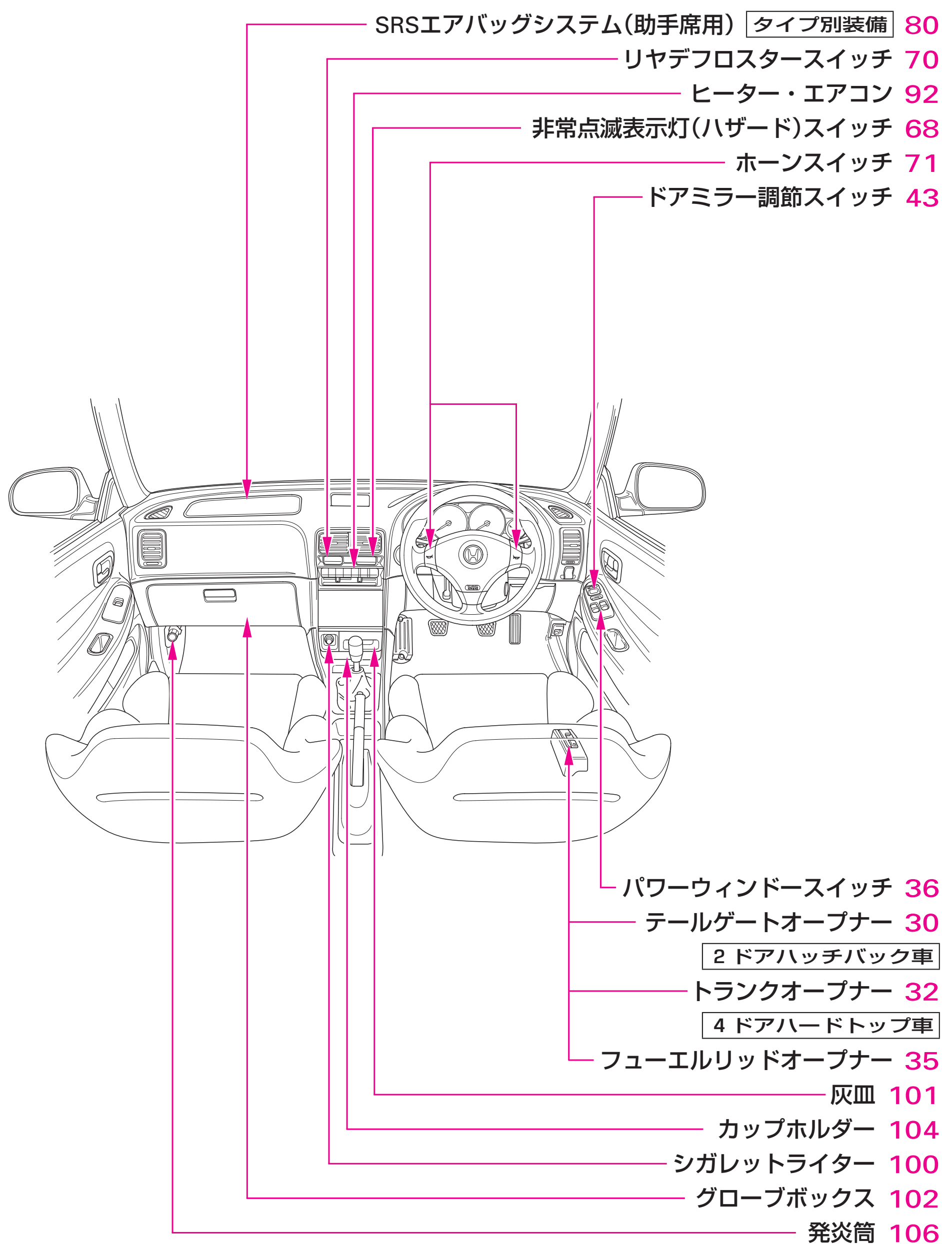
目　次

ビジュアル目次

フォグライトスイッチ 71
ライト／方向指示器（ウィンカー）スイッチ 66、67
メーター 54
表示灯 56
警告灯 58
ワイパー／ウォッシャースイッチ 68

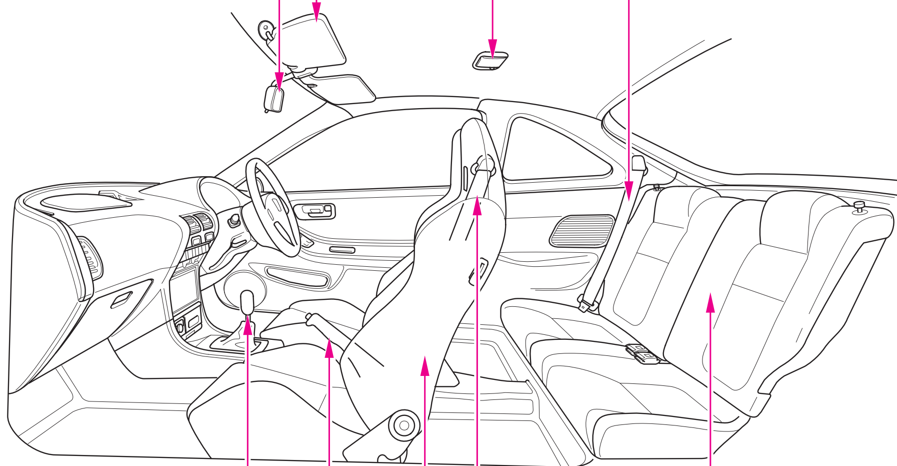


チルトステアリングレバー 42
SRSエアバッグシステム（運転席用） タイプ別装備 80
エンジンスイッチ 64
ドライバーズポケット 103
ヒューズボックス 128
ボンネット解錠ノブ 28

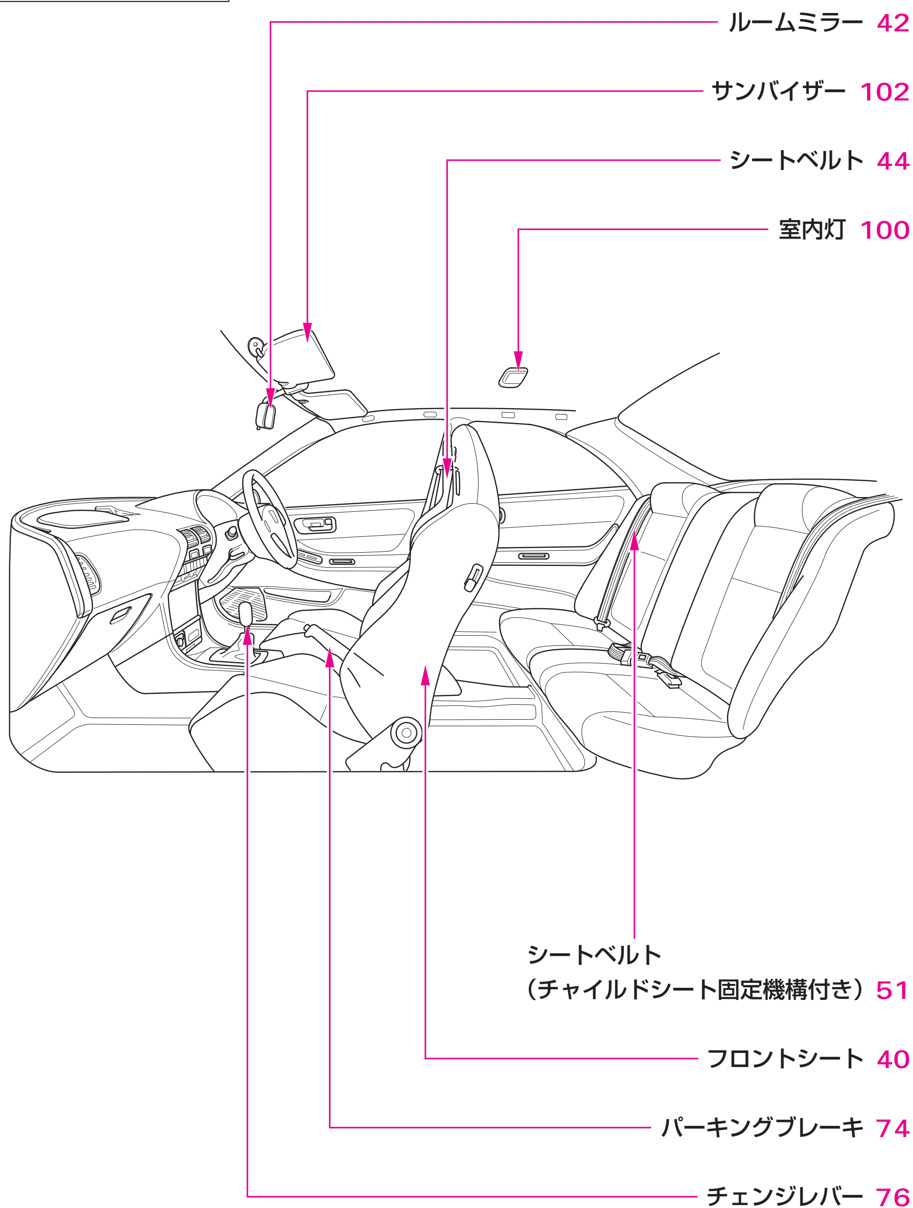

SRSエアバッグシステム(助手席用) タイプ別装備 80
リヤデフロスタースイッチ 70
ヒーター・エアコン 92
非常点滅表示灯(ハザード)スイッチ 68
ホーンスイッチ 71
ドアミラー調節スイッチ 43
パワーウィンドースイッチ 36
テールゲートオープナー 30
2 ドアハッチバック車
トランクオープナー 32
4 ドアハードトップ車
フューエルリッドオープナー 35
灰皿 101
カップホルダー 104
シガレットライター 100
グローブボックス 102
発炎筒 106

ビジュアル目次

2 ドアハッチバック車



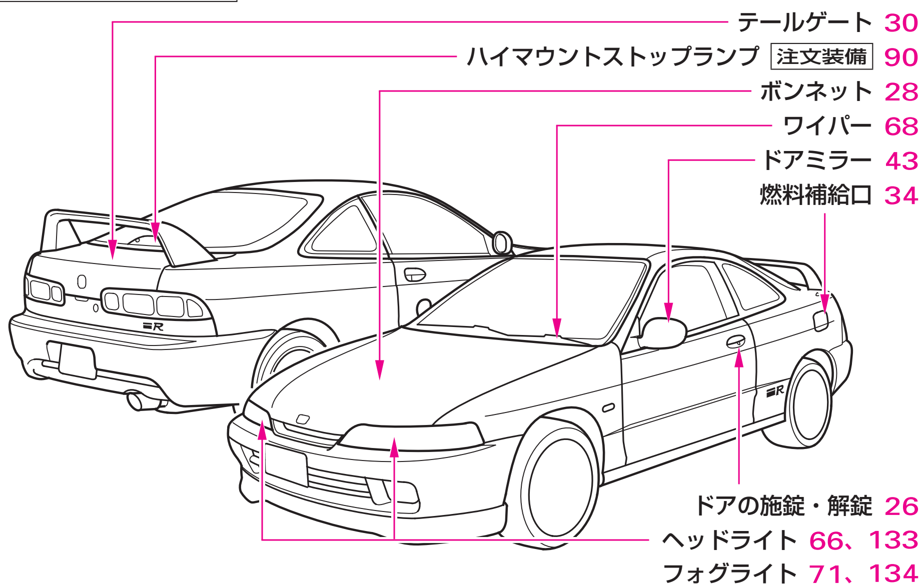
4 ドアハードトップ車



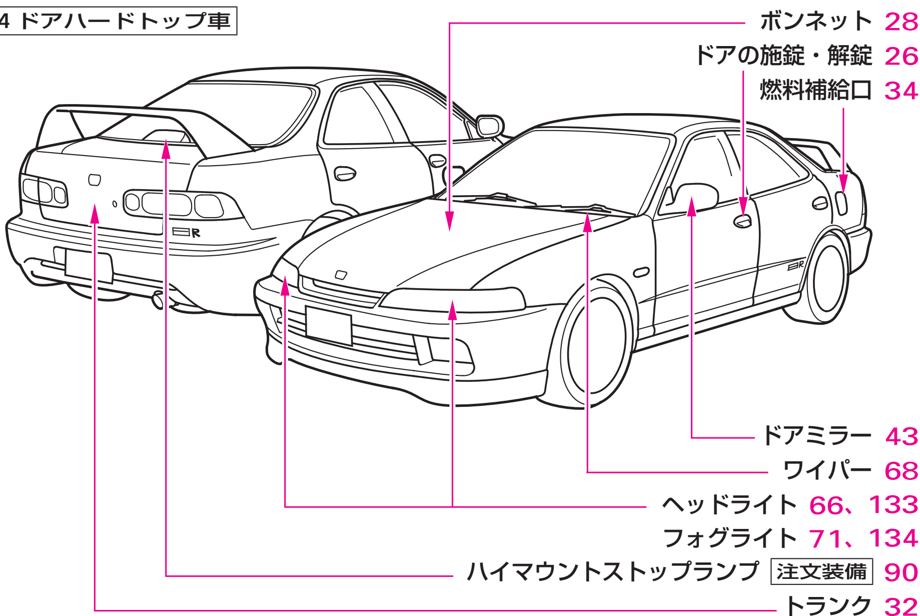
ルームミラー 42
サンバイザー 102
シートベルト 44
室内灯 100
シートベルト
（チャイルドシート固定機構付き）51
フロントシート 40
パーキングブレーキ 74
チェンジレバー 76

ビジュアル目次

2 ドアハッチバック車



4 ドアハードトップ車



安全ドライブのための
必読5ポイント

ご使用の前に知っておいていただきたいこと、
守っていただきたいことをまとめてあります。



1

お出かけまえに･･･

点検をわすれずに。
＜メンテナンスノート参照＞

- 道路運送車両法により、法定定期点検と日常点検が義務づけられています。
  安全・快適にお使いいただくために、ホンダの点検要領に従って必ず点検してください。
  日常点検は車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検で、お客様自身で実施が可能な項目となっています。
- 普段と違う点に気づいたら、ホンダベルノ店で点検を受けてください。（音、におい、ブレーキ液の不足、地面に油のあとが残っている時･･･）
- 走行中も車の状態に気を配り、いつもと違う音やにおい、運転感覚などを感じたら早めに点検しましょう。

シートベルトを正しく着用。
＜44ページ参照＞

- 運転する人はもちろん、同乗する人にも必ず着用させてください。
- シートに深く腰かけ、背もたれは必要以上に倒さないでください。
- 腰骨のできるだけ低い位置に着用してください。



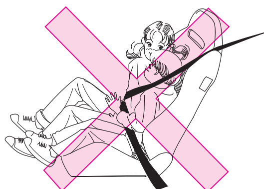
- ベルトにねじれがないか確かめてください。



- ベルトがくび、あご、顔などに当たらないようにしてください。



- 一本のベルトを二人以上で使用しないでください。



燃料の入った容器やスプレー缶などはのせないで。

引火、爆発のおそれがあります。



運転のさまたげになるものには注意を。

● **運転者の足もとに、物を置かないでください。**

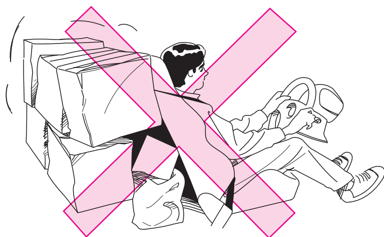
● **フロアマットが、ペダルに引っかからないように注意してください。**

ブレーキやアクセルのペダル操作が、確実にできないおそれがあります。



● **手荷物はシートの高さを越えないようにしましょう。**

後方視界をさまたげたり、急ブレーキのときなどに荷物がとび出すおそれがあります。

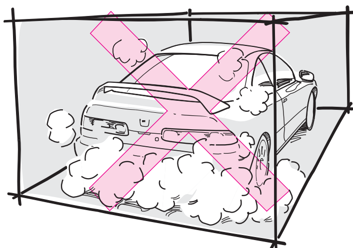


排気ガスには十分に気をつけて。

● **排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、吸い込むと一酸化炭素中毒のおそれがあります。**

● **車庫や屋内などの換気の悪いところでは、エンジンをかけたままにしないでください。**

車内や屋内などに排気ガスが侵入し一酸化炭素中毒のおそれがあります。



● **排気管に穴や亀裂があったり、排気音の異常に気づいたらホンダベルノ店で点検を受けてください。**

車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

2 お子さまに思いやりを

お子さまは、うしろの席に。

● **助手席にのせるのは避けましょう。**

・不意の動作が気になったり、スイッチ・レバー類のいたずらなど運転のさまたげになるおそれがあります。また、事故が起きた場合、後席のほうが安全といわれています。

・助手席用SRSエアバッグシステム装備車では、インストルメントパネルに手をついたり、顔や胸を近づけた状態での乗車は、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受けるおそれがあり危険です。

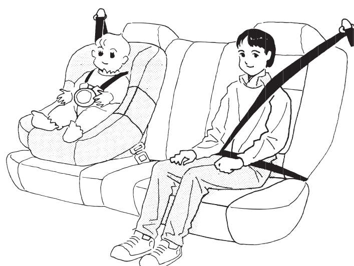
● **4 ドアハードトップ車**

チャイルドプルーフをお使いください。**<28ページ参照>**

お子さまにもシートベルトを。

● **お子さまにも必ずシートベルトを着用させるか、チャイルドシートなどをお使いください。**

お子さまを抱いていても、衝突したときなどに支えることができず危険です。



● **お子さまの首やあごにシートベルトがあたる場合や腰骨にかからない場合は、チャイルドシートやジュニアシートを使用してください。**

シートベルトをそのまま使うと衝突のときに腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。

また、ひとりですわることのできない小さなお子さまはベビーシートを使用してください。

ご購入、ご使用に際してはホンダベルノ店にご相談ください。

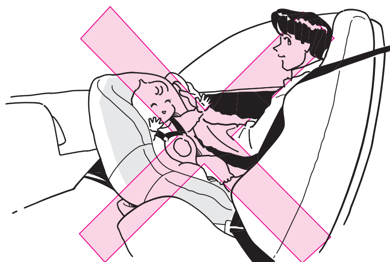
《選択の目安》

	体重(kg)	身長(cm)	参考年令
ベビーシート	～10	～75	～12か月
チャイルドシート	7～18	65～100	4か月～4才
ジュニアシート	15～32	100～135	4才～10才

●**助手席用SRSエアバッグシステム装備車の助手席には、ベビーシートを取り付けないでください。また、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。**

・SRSエアバッグが膨らむ際、ベビーシートや、チャイルドシートの背面に強い衝撃を受け危険です。

・やむをえずチャイルドシートを前向きに取り付ける場合は、SRSエアバッグから遠ざけるため、シートを一番後ろに下げてください。



ドア、ウィンドー、シートの操作は必ず大人が。

●**手、足、くびなどをはさまないよう、気をつけてください。**

●**パワーウィンドーのメインスイッチは、"OFF"にしておきましょう。**
<36ページ参照>

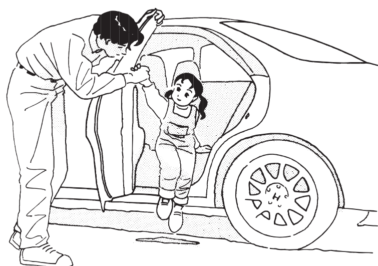
●**走行中、一時停止のときなど、窓から手や頭、物などを出さないよう、注意してください。**
思わぬ障害物で事故のおそれがあります。

車から離れるときは、お子さまも一緒に連れて。

●**お子さまだけを車内に残さないでください。**

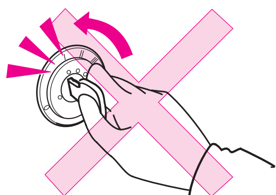
・炎天下の車内は、高温になり危険です。

・お子さまのいたずらにより車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。



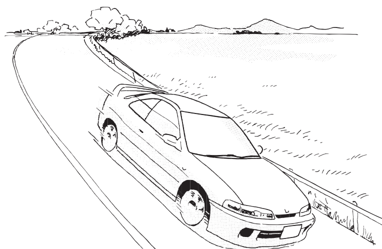
3 正しい知識で最適運転

- **走行中ハンドルの中に手を入れて、スイッチを操作しないでください。**
  ハンドル操作のさまたげになり大変危険です。
- **走行中はエンジンを止めないでください。**
  ・ブレーキ倍力装置が作用しないため、ブレーキのききが悪くなります。
  ・パワーステアリング装備車は、パワーステアリングのパワー装置がはたらかなくなり、ハンドル操作が重くなります。
  ・エンジンスイッチを“0”にすると、キーが抜けることがあり、ハンドルがロックされ危険です。



長い下り坂ではエンジンブレーキを。

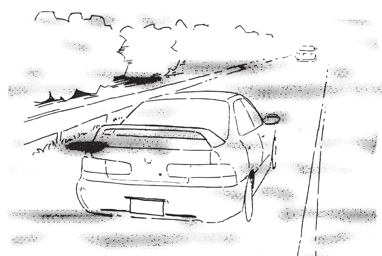
- **ブレーキペダルを踏み続けて走行するとブレーキが過熱して、ききが悪くなることがあります。**
- **長い下り坂では、走行速度に合わせ、ギヤを一段ずつ落として、エンジンブレーキを併用してください。**



エンジンブレーキ：
走行中アクセルペダルを戻したときにかかるブレーキ力のことで、低速ギヤほどよくききます。

霧が出たときは。

- **霧が出たときは、視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレールや前の車の尾灯などをめやすにして、速度を落として運転してください。**



横風の強い日は。

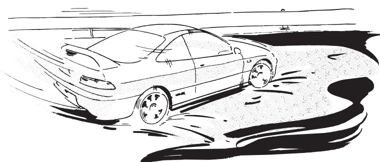
● **横風を受け、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、スピードを徐々に下げて進路を立て直してください。**
トンネルの出口、橋・土手の上、山を削った切り通し、大型トラックを追い越したり、追い越されたりするときなどには、特に横風の影響を受けやすいので十分注意してください。



雨天時の走行には注意を。

● **雨天時やぬれた道路では、路面が滑りやすくなっておりタイヤのグリップ力が低下するため、通常より注意深い運転が必要です。**
急加速、急ブレーキや急ハンドルを避け、スピードを落として安全運転に心がけてください。

● **わだちなどの水のたまりやすい場所では、ハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。**
ハイドロプレーニング現象とは
→164ページ



水たまりに入ったあとはブレーキのきき具合を確認。

● **水たまり走行後や洗車後は、低速で走行しながらブレーキペダルを軽く踏んできき具合を確認してください。**
ぬれたブレーキはききが悪かったり、ぬれていない片側だけがきいてハンドルをとられることがあります。

● **ブレーキのききが悪いときは、前後の車に十分注意しながら低速で走行し、ブレーキのききが回復するまで、繰り返しブレーキペダルを踏んでください。**

走行中異常があったら。

● **警告灯が点灯したら、ただちに安全な場所に停車し処置をしてください。**
<58ページ参照>
点灯したまま走行を続けると、思わぬ事故のもとになったり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。

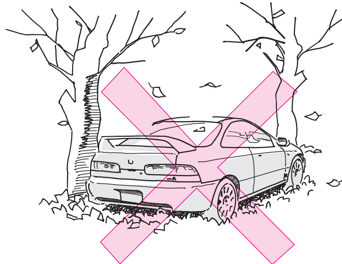
● **走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）してもあわてずに、ハンドルをしっかり握り、徐々にブレーキをかけてスピードを落とし、安全な場所に停車してください。**
急ブレーキや急ハンドルは車のコントロールを失うことがあり危険です。

● **床下に強い衝撃を受けたときは、ただちに車を止めて、ブレーキ液や燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。**
ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

4 駐車や停車はしっかりと

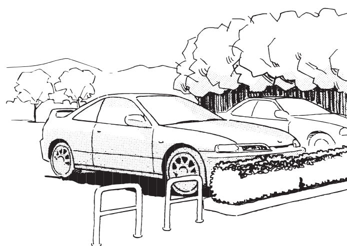
可燃物には注意を。

- **枯草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには、駐停車しないでください。**
  排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。



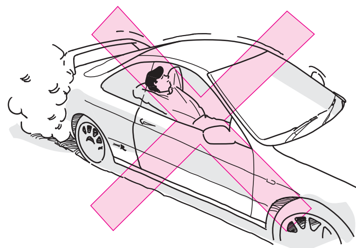
植込みなどにも注意して。

- **植込みなどの近くに駐停車するときには、排気ガスが当たらないように、車の向きを決めましょう。**



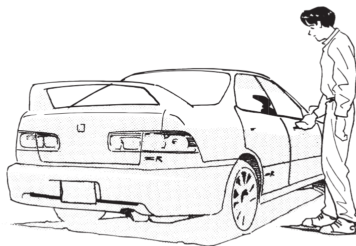
仮眠するときはエンジンを止める。

- **エンジンを必ず止めてください。**
  無意識にチェンジレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
  また、無意識にアクセルペダルを踏み続けたりした場合、オーバーヒートなどを起こしたり、エンジンや排気管などの異常過熱による火災事故が発生するおそれがあります。
  さらに風向や周囲の状況等によっては、車内に排気ガスが侵入し一酸化炭素中毒のおそれもあります。



車から離れるときには施錠を。

- **必ずパーキングブレーキをかけ、エンジンを止め、ドアを施錠してください。**
- **車内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。**
- **お子さまも連れていきましょう。**



車の移動はエンジンをかけて。

- **車を移動するときは、必ずエンジンをかけてください。**
  下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故を招くことがあります。

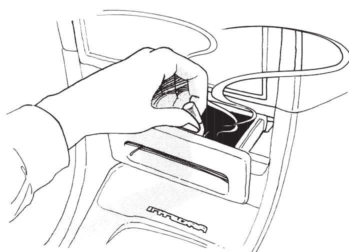
坂道での駐車は。

- **パーキングブレーキをかけ、チェンジレバーを平地や下り坂ではＲに、上り坂では１に入れてください。**
  さらに、タイヤに輪止めをすると効果があります。

5 こんなことにも注意をしよう

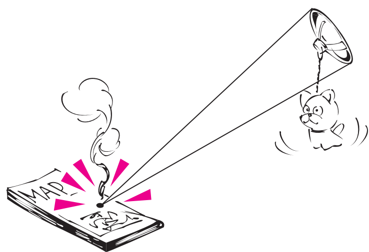
タバコの吸いがらは火を消して。

- **タバコ、マッチなどは、確実に火を消してから灰皿に捨て、灰皿は必ず閉めてください。**
- **灰皿の中に吸いがらをため過ぎたり、燃えやすいものを入れたりしないでください。**



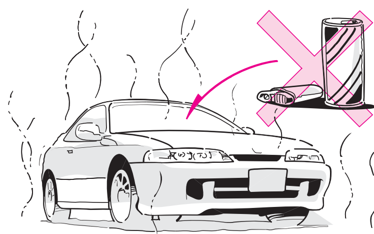
アクセサリーの取り付けには注意を。

- **ガラス面にアクセサリーなどを取り付けないでください。**
  視界をさまたげたり、吸盤がレンズのはたらきをして火災を起こしたり、思わぬ事故のもとになります。



車内にライターや炭酸飲料缶などを放置しないで。

炎天下での駐車などで車内温度が上昇すると、ライターなどの可燃物は自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。



ラジエーターキャップに気をつけて。

● **ラジエーターキャップが熱いときは、外さないでください。**
蒸気や熱湯が吹き出し危険です。



ハンドルをいっぱいに回した状態をつづけない。

● **パワーステアリング装備車は、ハンドルをいっぱいに回した状態から、さらに回そうとする力をかけつづけないでください。**
パワーステアリングポンプがオイル潤滑不良をおこし、損傷することがあります。

動物を乗せるときは、動きまわらないように注意して。

運転のさまたげになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあります。

携帯電話の使用は停車中に。

● **運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。**
運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

改造はしない。

● **ホンダ純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を、使用しないでください。**
・適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりすることがあります。
・ホンダが運輸省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

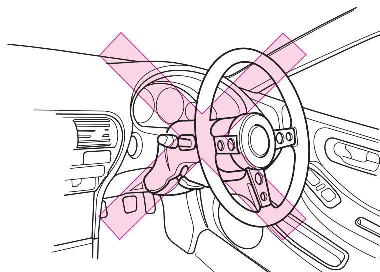
● **タイヤ、ホイールとも、INTEGRA TYPE R専用品をご使用ください。**
専用品以外のタイヤ、ホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすことがあります。
ホンダベルノ店にご相談ください。

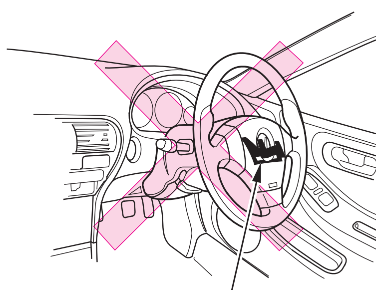
● **無線装置や自動車電話などの取り付けの際には、必ずホンダベルノ店にご相談ください。**
装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

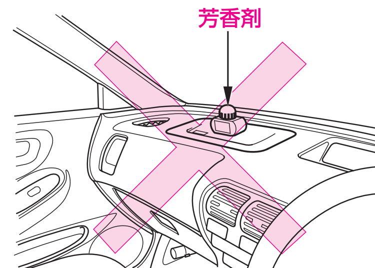


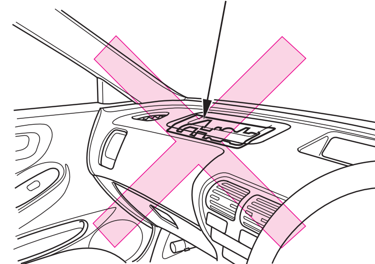
● **運転席用SRSエアバッグシステム装備車は、ハンドルを交換したり、パッドにステッカー類を貼ったりしないでください。**
助手席用SRSエアバッグシステム装備車については、インストルメントパネル上面にステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤など物を置かないでください。
また、フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。

・SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。
・作動時にこれらの物がとぶことがあり危険です。
・次の場合は、必ず、ホンダベルノ店にご相談ください。
①ハンドルまわりの修理
②センターコンソール付近の修理
③カーステレオ等用品の取り付け
④ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
⑤インストルメントパネルまわりの修理





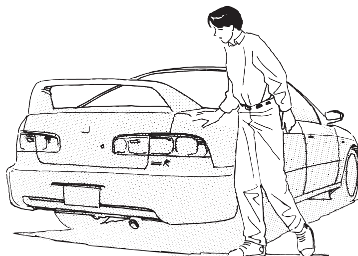




発進するときは、まわりの状況に十分注意して。

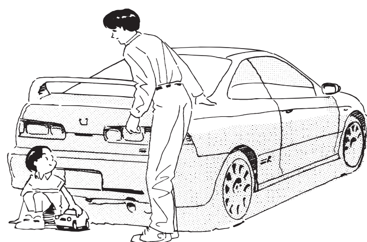
車のまわりには運転席から見えないところ(死角)があります。発進するときは子供や障害物など車のまわりの状況に十分注意してください。

- 駐車後に発進するときは、車のまわりの安全確認を十分に行ってください。



- 後退するときに十分な視界が得られない場合は、車から降りて後方を確認してください。

  バックミラーでは確認しきれない死角(車の直後など)があります。

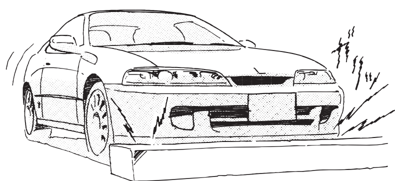


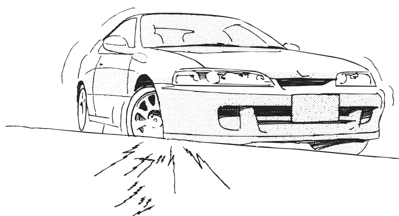
- 信号待ちなどの停車後に発進するときは、つねにまわりの状況に目を配り、安全確認を十分に行ってください。

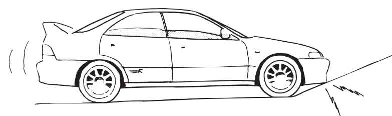


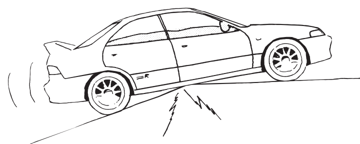
車止めなどに注意して。

- **この車は、最低地上高が低く設計され、タイヤも超偏平タイヤを装着しています。**
  次のような場合には、フロントアンダースポイラー、マフラー、床下やアルミホイールを損傷するおそれがありますので、十分に注意してください。
  - 車止めのある場所への駐車
  - 路肩に沿っての駐車
  - 平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂から平坦路への乗り入れ
  - 路肩等段差のある場所への乗り降り
  - 凹凸やわだちのある道路の走行
  - くぼみ(穴)のある個所の通過









1

車を運転する前に

●各部の開閉

●シートの調節

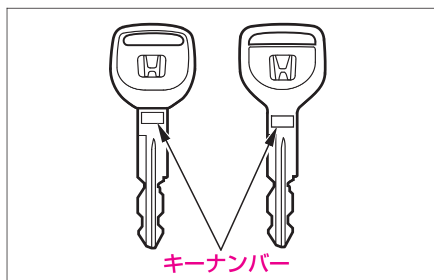
●ハンドル・バックミラーの調節

●シートベルト

各部の開閉

キー

キーは、エンジンの始動、停止のほかに、ドアの施錠・解錠、テールゲート・トランクの解錠に使えます。



知　識

- キーナンバーを控えておいてください。キーを紛失したときは、キーナンバーをホンダベルノ店へご連絡いただければ、購入することができます。

ドアの施錠・解錠

⚠注意

- ドアは確実に閉めてください。半ドアでは、走行中にドアが開き思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

知　識

- ドアは不用意に開けると後続車などがぶつかることがあるので周囲の安全を確かめてから開けてください。
- 強風時にドアを開閉するときは、風にあおられないよう注意してください。
- 車から離れるときは、エンジンを止めドアを必ず施錠してください。また、車内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。

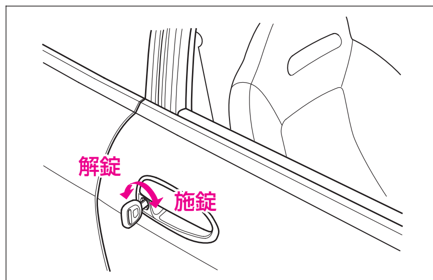
パワードアロック

運転席ドアを施錠（解錠）すると、他のすべてのドアも同時に施錠（解錠）します。



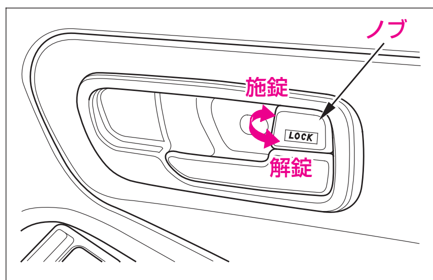
●車外から行う場合

キーを確実に差し込んで回します。



●車内から行う場合

ノブを矢印の方向に動かします。



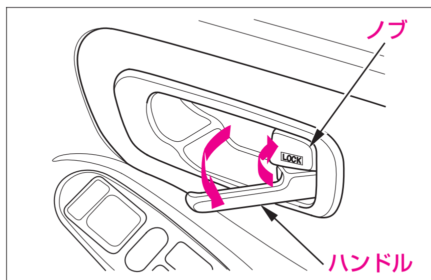
●キーを使わないで施錠する場合

知 識

● キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

運転席ドア

①ドアのハンドルを引いたままノブを施錠の方向に動かします。



②ドアを閉めます。

その他のドア

ノブを施錠の方向に動かしてドアを閉めます。

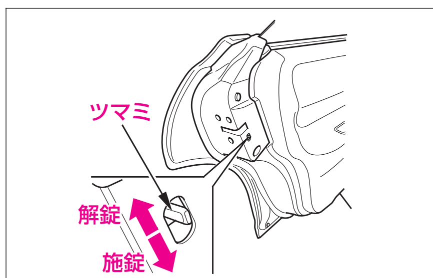
●チャイルドプルーフ

4ドアハードトップ車

ノブの位置に関係なく、後席ドアが車内から開かなくなります。お子さまを乗せるときなどにお使いください。



ツマミを施錠の位置にしてドアを閉めます。



ドアを開く場合は、外側のドアハンドルで開けます。

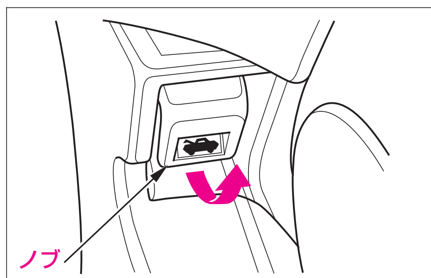
知　識

- 車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

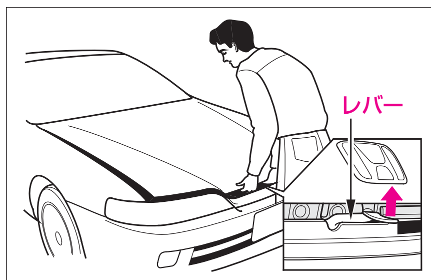
ボンネット

●開けかた

①運転席足元のノブを引きます。



②ボンネット前部が少し浮き上がるので、レバーを押しながら開けます。

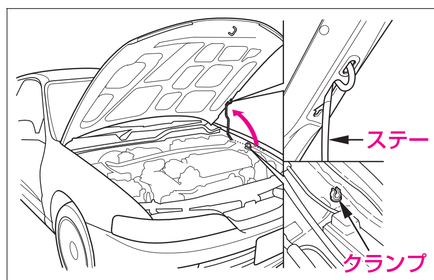


知　識

- ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けないでください。ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷します。

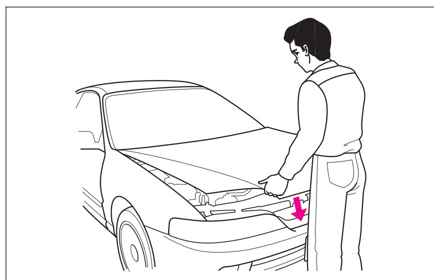


③必ずステーを確実にかけ、固定します。



●閉めかた

ステーを外し、クランプに納めます。
ボンネットを静かに下げ、手を離します。



ボンネットが完全に閉まっていることを確認します。

⚠注意

- ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。

知　識

- ボンネットを開けているときに、風にあおられてステーが外れることがあります。特に風の強いときは、ご注意ください。
- ボンネットが完全に閉まっていないままで走行すると開くことがあります。走行前に必ず確認してください。

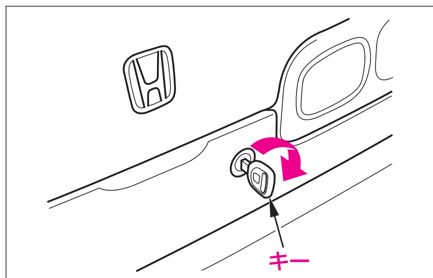
テールゲート

2 ドアハッチバック車

●解錠

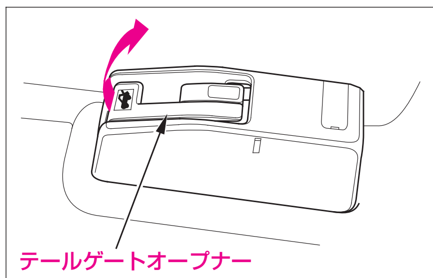
車外から行う場合

キーを確実に差し込んで右に回します。



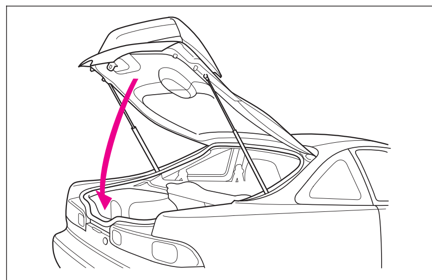
車内から行う場合

運転席右下にあるテールゲートオープナーを引き上げます。



●施錠

テールゲートを閉めれば施錠できます。





⚠注意

- テールゲートを閉めるときは手などをはさまないように注意してください。
- エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないでください。
  やけどなど思わぬけがをすることがあります。
- トランクルーム内には人を乗せないでください。
  ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

知　識

- テールゲートを開けたまま走行しないでください。車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

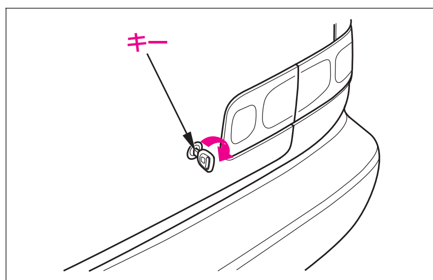
トランク

4 ドアハードトップ車

●解錠

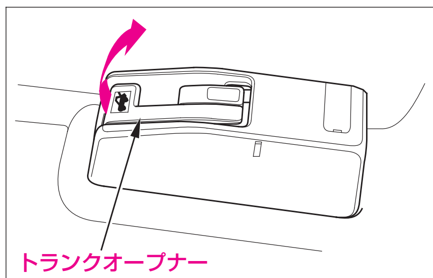
車外から行う場合

キーを確実に差し込んで右に回します。



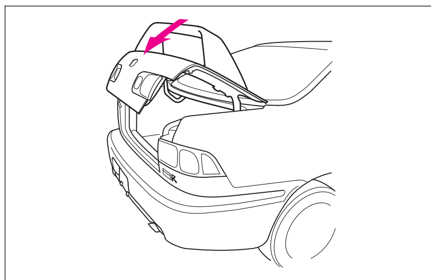
車内から行う場合

運転席右下にあるトランクオープナーを引き上げます。



●施錠

トランクを閉めれば施錠できます。





⚠注意

- トランクを閉めるときは手などをはさまないように注意してください。
- エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないでください。
  やけどなど思わぬけがをすることがあります。
- トランクルーム内には人を乗せないでください。
  ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。
- トランクは中から開けることはできません。お子さまが入らないよう注意してください。

知　識

- トランクは途中までしか開けていないと自重で閉まることがあります。
- 風にあおられて閉まることがあります。特に風の強いときは、ご注意ください。
- トランクを開けたまま走行しないでください。
  車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。
- トランクを閉めるときは次のことに気をつけてください。
  - ・キーをトランク内に置き忘れないようにしてください。
  - ・トランク上面を強く押さえないでください。
- 差し込んだキーを持ってトランクを開閉しないでください。
  キーシリンダーを破損するおそれがあります。

燃料補給口

燃料補給口は車の左側後方にあります。

使用燃料：無鉛プレミアムガソリン
（無鉛ハイオク）

タンク容量：50 ℓ

⚠警告

●燃料補給時は火気厳禁です。
燃料は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。
・エンジンは必ず止めてください。
・タバコなどの火気を近づけないでください。

アドバイス

●有鉛ガソリンを使うと、触媒装置などを損ないます。また、粗悪ガソリンや不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響を与えます。

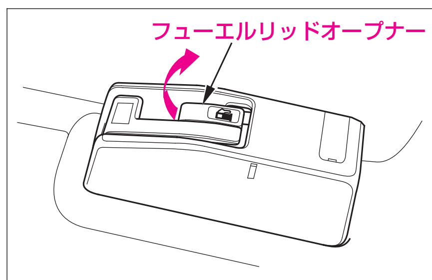
知　識

●無鉛プレミアムガソリンが入手できない場合には、無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできますが、この場合エンジン性能を十分に発揮できません。

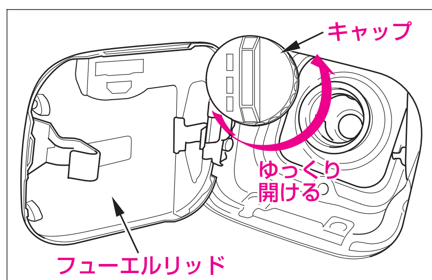


●開けかた

①運転席右下にあるフューエルリッドオープナーを引き上げてリッドを開けます。



②キャップをゆっくり回して開けます。



⚠注意

●キャップはゆっくり開けてください。
急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

●閉めかた

キャップを"カチッ"という音が2回以上するまで締め付けます。フューエルリッドは手で押さえつければ閉まります。

⚠注意

●キャップが確実に閉まっていることを確認してください。
確実に閉まっていないと走行中に燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

パワーウィンドー

エンジンスイッチが“II”のとき、ウィンドーの開閉ができます。

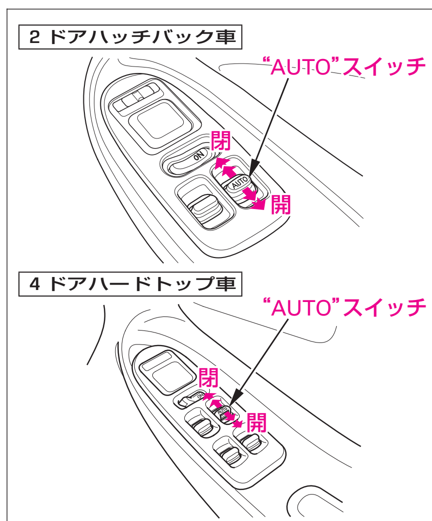


開閉は、それぞれのドアにあるスイッチで操作します。

・運転席スイッチは、助手席ウィンドーおよび後席ウィンドー（4ドア車）も操作できます。

●運転席ウィンドーの開閉

スイッチを軽く操作している間、作動します。
強く操作すると、自動で全開（全閉）します。

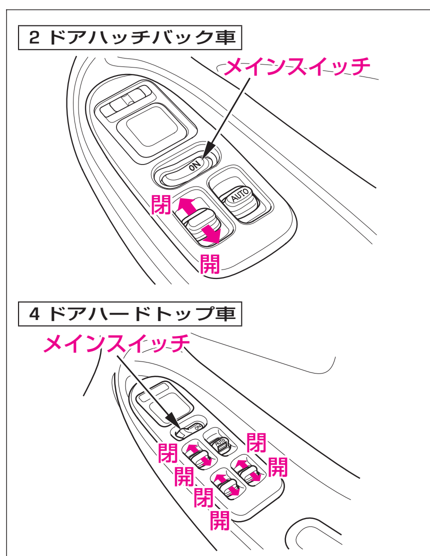


自動開閉中にウィンドーを停止させるときは、スイッチを作動方向とは逆へ軽く操作します。

●運転席以外のウィンドーの開閉

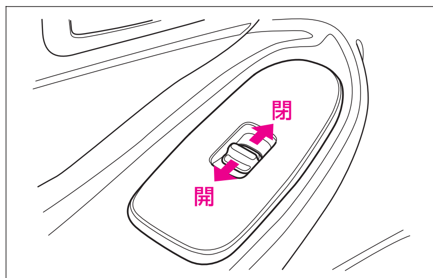
メインスイッチを“ON”にしてから、スイッチを操作します。
スイッチを操作している間、作動します。

・**運転席ドアスイッチ**



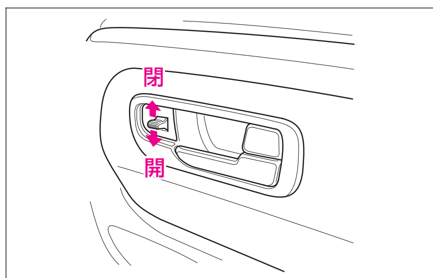


・助手席ドアスイッチ



・後席ドアスイッチ

4 ドアハードトップ車



運転席以外のウィンドーを動かなくしたいとき(メインスイッチ)

メインスイッチを“OFF”にしておけば、運転席以外のウィンドーは作動しません。

⚠警告

● パワーウィンドーを閉めるときは、手やくびなどをはさまないようにしてください。
ドアガラスにはさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

● 車から離れるときはキーを抜き、お子さまも一緒に連れて行ってください。
いたずらなど誤った操作をして思わぬ事故につながるおそれがあります。

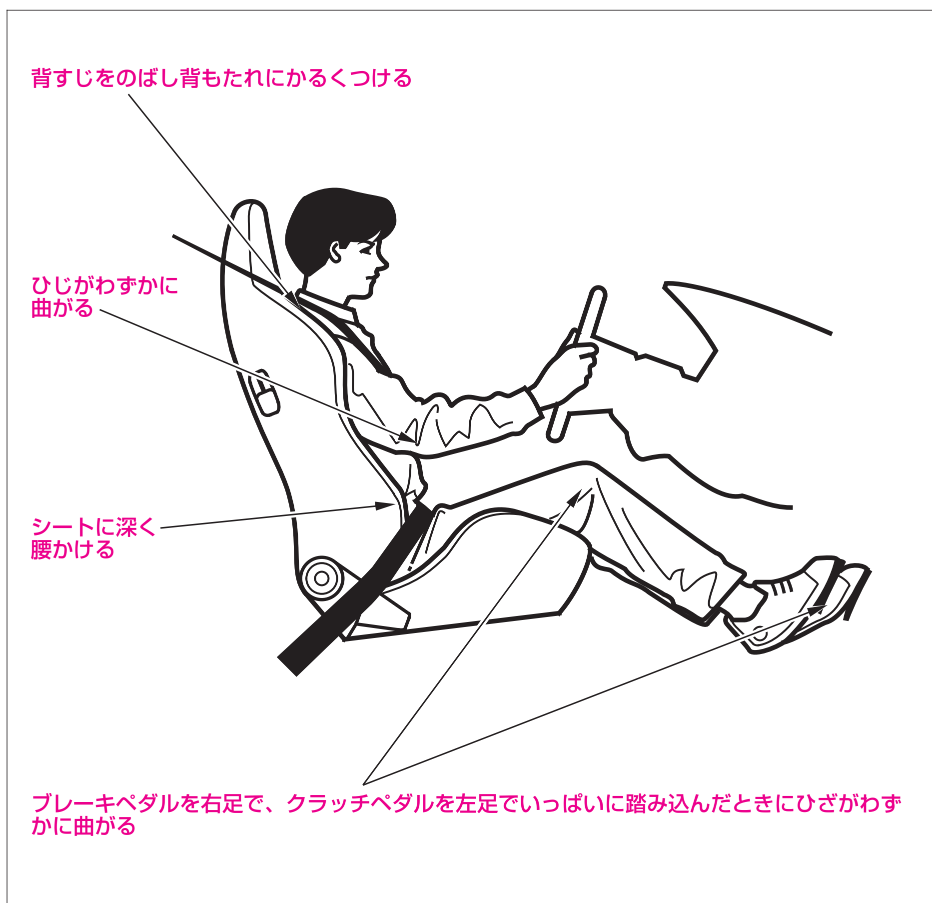
知　識

● ウィンドーの開閉はお子さまではなく大人が操作するようにしてください。
● 小さなお子さまが同乗しているときは、お子さまが誤って操作しないよう、メインスイッチを“OFF”にしておきましょう。
● 4 ドアハードトップ車
後席(左、右)のウィンドーは、全開しません。

シートの調節

正しい運転姿勢

運転者は正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドルが楽に操作できる姿勢をいいます。



同乗者も、シートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。
助手席同乗者はインストルメントパネルに顔や胸が必要以上に近づかないように、シートを後ろに下げます。



⚠警告

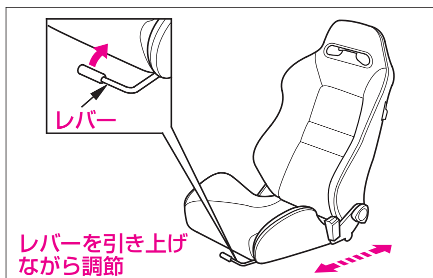
- シートに深く腰かけてください。
また、背もたれは必要以上に倒さないでください。
寝そべった姿勢では、衝突したときなどにシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- SRSエアバッグシステム装備車
SRSエアバッグに必要以上に近づくと、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、重大な傷害を受けるおそれがあります。
  - ・運転者は正しい運転姿勢がとれる範囲で、シートを後ろに下げてください。
  - ・助手席同乗者はインストルメントパネルに近づかないように、シートを後ろに下げてください。

⚠注意

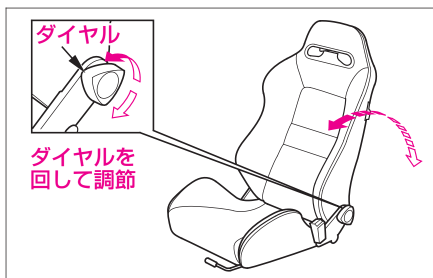
- 走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
調節は走行する前に行い、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- 背もたれと背中の間にクッションなどをいれないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、シートベルトなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- シートを操作するときは、操作する人やまわりの人の手や足などをはさまないように十分注意してください。
- フロントシートの下に物を置かないでください。
物がはさまってシートが固定されず思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシート

●前後位置の調節



●背もたれの調節

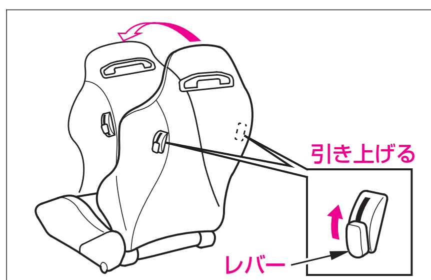


●後席への乗り降り

2 ドアハッチバック車

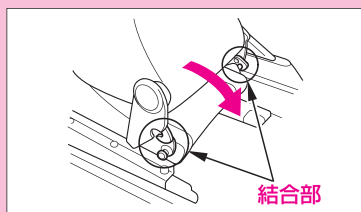
乗り降りの際はシートベルトに足を引っかけないようにしてください。

レバーを引き上げると、背もたれが前へ倒れます。



⚠注意

- 背もたれをもどすときに、図の部分(結合部)に手や足などをはさまないようにしてください。
  はさまれるとけがをするおそれがあります。



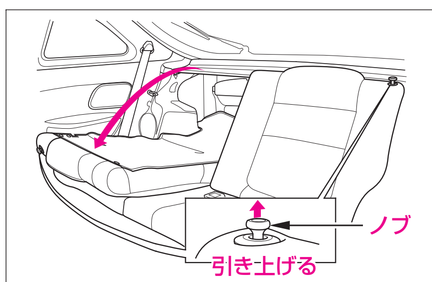


リヤシート

2 ドアハッチバック車

●背もたれの倒しかた

ノブを引き上げ、背もたれを前に倒します。
片側ずつ独立して行えます。



●起こしかた

後ろへ押しつけて固定します。

⚠注意

- 倒した背もたれの上や荷室には人を乗せて走行しないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

知　識

- 背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれではさみ込まないようにしましょう。はさまれると正しく着用できません。
- 背もたれを起こしたときは、背もたれを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。

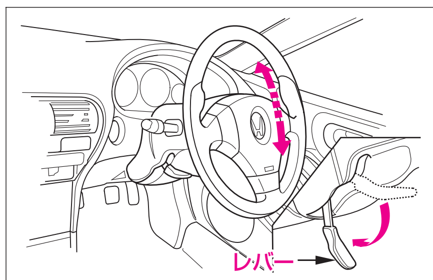
ハンドル・バックミラーの調節

チルトステアリング

ハンドルの高さを適切な位置に変えることができます。



レバーを押し下げ、ハンドルの高さを適切な位置にして、レバーを元の位置まで確実に引き上げて固定します。



⚠注意

- 走行中に調節するとハンドルが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行する前に行い、ハンドルに上下方向の力を加え固定されていることを確認してください。

ルームミラー

知　識

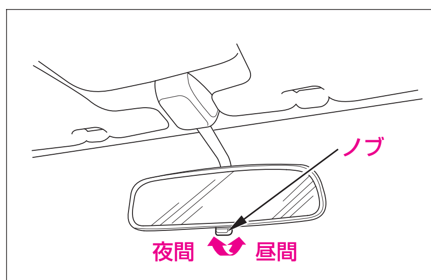
- 走行中はミラーの調節を行わないでください。

●防眩式ルームミラー

夜間走行時、後続車のライトがまぶしいときにライトの反射を弱くできます。



ノブを動かして切り換えます。



角度調節はノブを昼間の位置にして行ってください。



ドアミラー

知　識

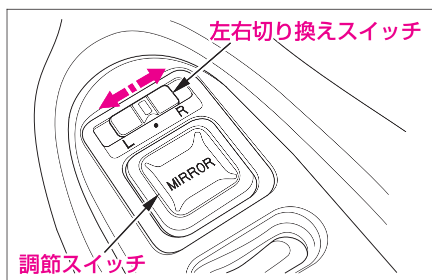
- ミラーを格納したまま走行しないでください。また、走行中はミラーの調節を行わないでください。
- ミラーを格納するときは、周囲の人の手などをはさまないようにしてください。

●角度調節のしかた

エンジンスイッチが“II”のときスイッチを操作すると、ミラーの角度調節ができます。

▼

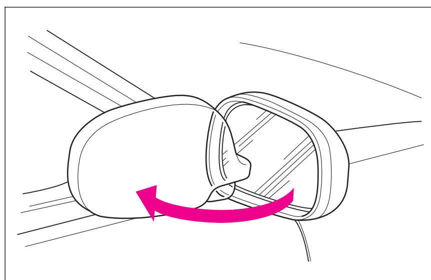
①左右切り換えスイッチを調節したい方に動かします。
②調節スイッチで角度を調節します。



直接手で鏡面を動かして角度を調節することもできます。

●格納のしかた

ミラーを折りたたむことができます。狭い所へ駐車をするときに便利です。
走行するときは、必ず元に戻してください。



シートベルト

シートベルト

シートベルトは、車を運転するまえに運転者は正しい運転姿勢で着用し、同乗者にも必ず着用させてください。
特に前席は、法律でも義務づけられています。





⚠警告

● シートベルトは全員が着用してください。
着用しないと、衝突したときなどに重大な傷害を受けたり死亡することがあります。

● シートに深く腰かけてください。
また、背もたれは必要以上に倒さないでください。
寝そべった姿勢では、衝突したときなどにシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。

● お子さまにもシートベルトを着用させるか、チャイルドシートなどをお使いください。
お子さまを抱いていても、衝突したときなどに支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けたり死亡するおそれがあります。

⚠注意

● シートベルトを正しく着用していないと本来の機能をはたさず、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。
- ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用してください。
ベルトが腰骨からずれていると腹部などに強い圧迫を受けます。
- ベルトはねじれがないように着用してください。
ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、局部的に強い力がかかります。
- ベルトがくび、あご、顔などに当たらないように着用してください。
- 一本のベルトを二人以上で使用しないでください。
- 三点式シートベルトは腕の下に通して着用しないでください。
ベルトが肩に十分かかっていないと前方に投げ出されるおそれがあります。
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけないでください。

● 妊娠中の女性や疾患のあるかたのベルトの着用は、万一のとき腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがありますので、医師にご相談ください。

●三点式シートベルト

体の動きにあわせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。

シートベルト警告灯

エンジンスイッチを“II”にすると、運転席シートベルトを着用するまでメーター内のシートベルト警告灯が点灯し続けます。

チャイルドシート固定機構(後席)

→51ページ

知 識

● 後席シートベルトを着用した状態で上体を大きく動かしたときに、シートベルトがすべて引き出されてチャイルドシート固定機構が作動することがあります。
このときは、チャイルドシート固定機構を解除してから再度シートベルトを着用してください。

解除のしかた →52ページ

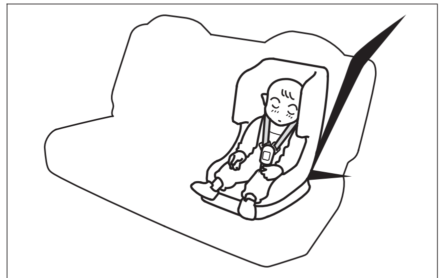
●二点式シートベルト

4 ドアハードトップ車

体にあわせてベルトの長さを調節します。

●お子さまを乗せるときは

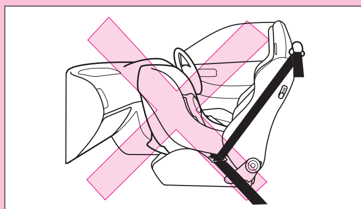
お子さまは、後席に乗せシートベルトを着用させてください。
ただし、装備されているシートベルトは大人用ですので、ベルトがくびやあごに当たる場合や腰骨にかからない場合は、チャイルドシートやジュニアシートを使用してください。シートベルトをそのまま使うと、衝突のときに腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
また、ひとりですわることのできない小さなお子さまはベビーシートを使用してください。





⚠警告

● 助手席用SRSエアバッグシステム装備車の助手席には、ベビーシートを取り付けないでください。また、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。SRSエアバッグが膨らむ際、ベビーシートや、チャイルドシートの背面に強い衝撃を受け、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。
また、やむをえず前向きに取り付ける場合は、SRSエアバッグから遠ざけるため、シートを一番後ろに下げてください。



知　識

● ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートは、お子さまの体重や身長によりお使いになれるタイプや取り付け方法が異なります。ご購入、ご使用に際してはホンダベルノ店にご相談ください。

《選択の目安》

	体重（kg）	身長（cm）	参考年令
ベビーシート	～10	～75	～12か月
チャイルドシート	7～18	65～100	4か月～4才
ジュニアシート	15～32	100～135	4才～10才

●シートベルトの取り扱い、手入れ

・ベルトを着用した状態で万一、事故にあった場合は機能を損なっている可能性があるため、ベルト一式を交換してください。
　また、ベルトにほつれ、すりきれ、破れなどができたときも交換してください。
・シートベルトを十分に機能させるために、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。
・ベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯に布をひたしてふき取り乾かしてください。薬剤を使ったり漂白や染色は絶対しないでください。ベルトを弱めます。

着用のしかた

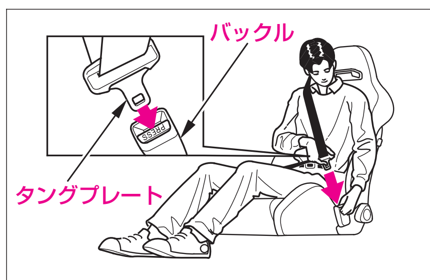
●三点式シートベルト

①正しい運転姿勢でシートにすわります。
（→38ページ）

②タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出します。



③ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中へ“カチリ”と音がするまで差し込みます。



④ベルトがねじれたり、引っかかったりしていないかを確認します。



⑤ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるように引き、たるみがないように身体に密着させます。



⑥外すときはバックルの“PRESS”ボタンを押します。
ベルトが自動的に収納されますので、ひっかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。

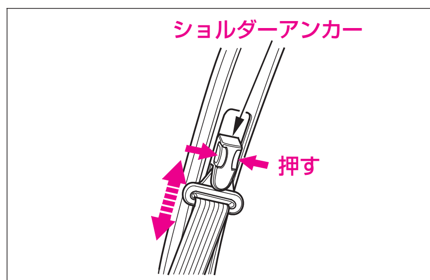


ショルダーアンカーの高さ調節（前席のみ）　4ドアハードトップ車

座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節できます。



通常はベルトが肩から外れないように最上段で使いますが、ベルトがくびに当たるときは、一段ずつ下げて調節してください。



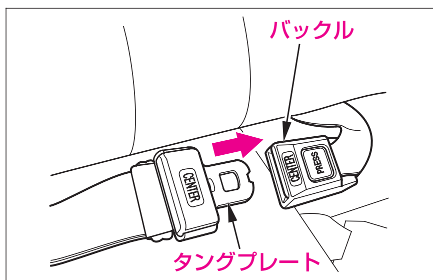
⚠注意

- 調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されていることを確認してください。

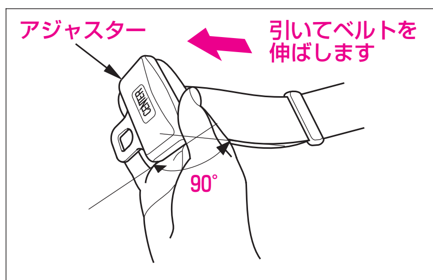
●二点式シートベルト

4 ドアハードトップ車

タングプレートは差し込む相手を間違えないようにしてください。タングプレートとバックルに“CENTER”(センター)の表示があります。



①アジャスターを図のようにし、ベルトを引いて必要な長さより少し長めにします。



②ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中へ“カチリ”と音がするまで差し込みます。



③腰骨にかかるようにベルトを図のように引き、腰部に密着させます。



④外すときはバックルの“PRESS”ボタンを押します。
外したベルトはタングプレートとバックルを結合しておきます。

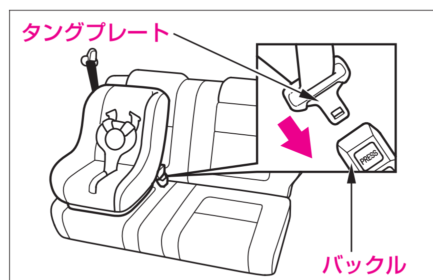


チャイルドシート固定機構（後席）

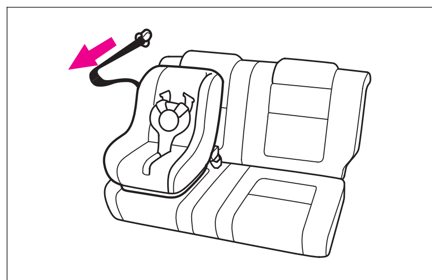
後席のシートベルトには、チャイルドシート固定機構がついています。
シートベルトを引き出し方向に動かないようにできるため、チャイルドシートなどを固定するのに便利です。

後席にチャイルドシートなどを取り付けるとき

①チャイルドシートなどをシートメーカーの取扱説明書にしたがって取り付けます。（ベルトにねじれがないことを確認します。）
②タングプレートをバックルの中へ“カチリ”と音がするまで差し込みます。



③ベルトをゆっくりと引き出します。すべて引き出すと、チャイルドシート固定機構が作動します。

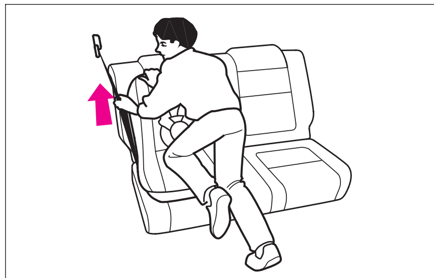


④ベルトを少し巻き取らせます。“カチカチ”と音がしますが、これはチャイルドシート固定機構の作動音です。このとき、ベルトが引き出し方向に動かないことを確認します。ベルトが引き出し方向に動く場合は、再度ベルトをすべて引き出してください。

⚠注意

- 必ずベルトが引き出し方向に動かないことを確認してください。
  ベルトが引き出し方向に動く状態では、チャイルドシート固定機構が作動していないので、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートなどがとび出し傷害を受けるおそれがあります。

⑤チャイルドシートなどに体重をかけてリヤシートに押しつけながら、ベルトを巻き取らせ、しっかりと固定します。



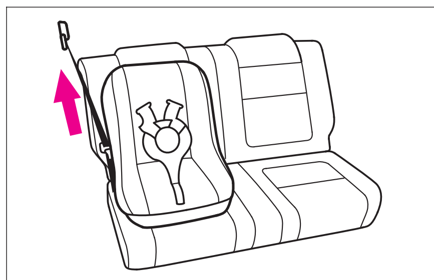
⚠注意

- チャイルドシートなどを前後左右にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
  確実に固定されていないとブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートなどがとび出し傷害を受けるおそれがあります。

解除のしかた

①チャイルドシートなどからベルトを外します。

②ベルトをいっぱいまで巻き取らせると、チャイルドシート固定機構は解除されます。

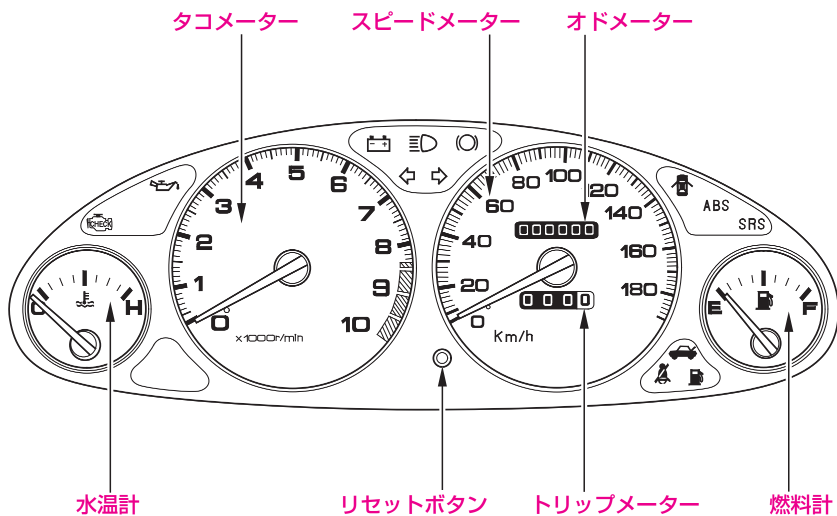


2

車を運転するときに

メーター

イラストは代表例を掲載しています。





スピードメーター
走行速度をkm/hで示します。

タコメーター
１分間あたりのエンジン回転数を示します。


アドバイス

● エンジン故障の原因となりますので、限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないように運転してください。特に高速走行時、変速(シフトダウン)するときには注意してください。
　限界回転数･････････8,400rpm

オドメーター
走行距離の累計をkmで示します。

トリップメーター
区間距離(km)を知りたいときは、リセットボタンを押して“0”に戻して使います。
右端の数字は100mの単位です。

燃料計
エンジンスイッチの位置に関係なく常に燃料の残量を示します。
“E”に近づいたら早めに補給してください。

燃料補給について　→34ページ


知　識

● 燃料補給後、エンジンスイッチを“II”にしてから正しい量を示すまで、しばらく時間がかかります。

水温計
エンジン冷却水の温度を示します。
走行中は“H”の目盛より下側をさすのが正常です。

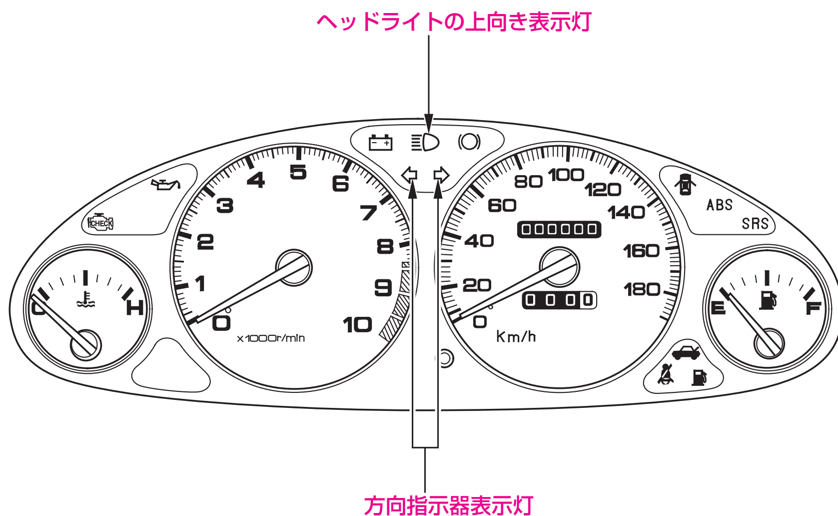

アドバイス

● 針が“H”の目盛に入った場合はオーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停めてエンジンを冷やしてください。
そのまま走行を続けるとエンジン故障の原因となります。

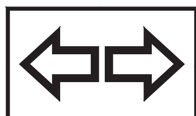
オーバーヒートしたとき
→124ページ

表示灯

イラストは代表例を掲載しています。







方向指示器表示灯

方向指示器のランプの点滅状態を表示します。

知　識

- 電球が切れたときや、ワット(W)数の違ったものを使ったときは、表示灯の点滅周期が異常になります。

電球(バルブ)の交換　→131ページ
電球(バルブ)のワット数
→170ページ

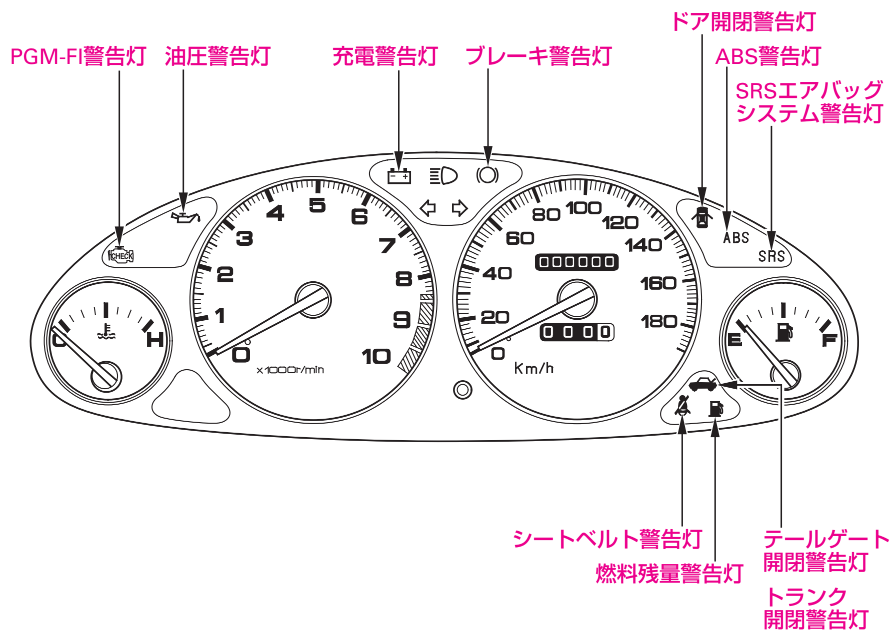


ヘッドライトの上向き(ハイビーム)表示灯

ヘッドライトが上向きのときに点灯します。

警告灯

イラストは代表例を掲載しています。

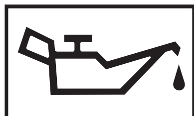




警告灯はタイプ等により、装備の有無があります。下表の装備一覧をご覧ください。

警告灯	タイプ		
	2ドアハッチバック		4ドアハードトップ
	TYPE-R	レースベース車	TYPE-R
油圧警告灯	○	○	○
ブレーキ警告灯	○	○	○
充電警告灯	○	○	○
PGM-FI警告灯	○	○	○
シートベルト警告灯	○	○	○
燃料残量警告灯	○	○	○
ドア開閉警告灯	○	○	○
テールゲート開閉警告灯	○	○	
トランク開閉警告灯			○
SRSエアバッグシステム警告灯	△		△
アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯	△		△

○：標準装備
△：注文装備



油圧警告灯

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯します。



点灯したときは

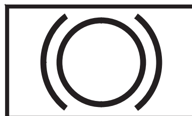
エンジン回転中に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車してエンジンを止め、エンジンオイル量を点検してください。

エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、ただちにホンダベルノ店へご連絡ください。



アドバイス

- 点灯したまま走行しないでください。エンジンが破損するおそれがあります。



ブレーキ警告灯

パーキングブレーキレバーが完全に戻っていないときやブレーキ液量がいちじるしく減少しているときに点灯します。

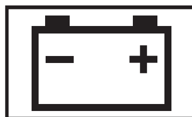


点灯したときは

走行中点灯したときやパーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、

①ブレーキ液量を点検します。

②下限より下がっていたらただちにホンダベルノ店へご連絡ください。
ブレーキ液量が下限以下になっていないのに点灯するときや、パーキングブレーキをかけても点灯しないときは、お早めにホンダベルノ店で点検を受けてください。



充電警告灯

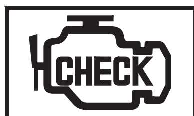
充電系統が異常のときに点灯します。



点灯したときは

運転中に点灯した場合は、電気の消費を減らすため、ヒーター・エアコンスイッチ、リヤデフロスタースイッチを“OFF”にして、ただちにホンダベルノ店で点検を受けてください。





PGM-FI警告灯

エンジン制御システムが異常のときに点灯します。



点灯したときは

運転中に点灯した場合は、高速走行を避けて、ただちにホンダベルノ店で点検を受けてください。



シートベルト警告灯

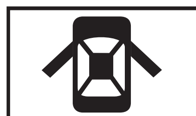
エンジンスイッチを“II”にすると、運転席シートベルトを着用するまで点灯し続けます。



燃料残量警告灯

燃料タンク内のガソリン残量が８ ℓ 前後になったときに点灯します。

燃料の補給　→34ページ

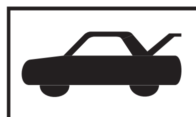


ドア開閉警告灯

ドアが完全に閉まっていないときに点灯します。



ドアを完全に閉めてください。



テールゲート開閉警告灯

２ドアハッチバック車

テールゲートが完全に閉まっていないときに点灯します。



テールゲートを完全に閉めてください。

トランク開閉警告灯

４ドアハードトップ車

トランクが完全に閉まっていないときに点灯します。



トランクを完全に閉めてください。



SRSエアバッグシステム警告灯

SRSエアバッグシステム装備車

SRSユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。

→87ページ



アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯

ABS装備車

ABSが異常のときに点灯します。

→89ページ

警告灯の電球切れの点検

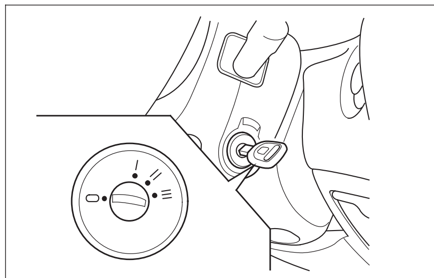
エンジンスイッチを"II"にしたとき、下記の警告灯類が点灯するのが正常です。点灯しないときは、ホンダベルノ店へご連絡ください。

- **油圧警告灯**
  (エンジン始動後消灯)
- **ブレーキ警告灯**
  (パーキングブレーキレバーを完全に戻すと消灯)
- **充電警告灯**
  (エンジン始動後消灯)
- **PGM-FI警告灯**
  (数秒後消灯)
- **SRSエアバッグシステム警告灯**
  (約6秒後消灯)
- **アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯**
  (数秒後消灯)



スイッチの使いかた

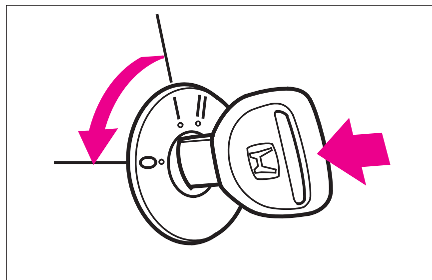
エンジンスイッチ



0	キーを抜き差しする位置です。
I	エンジンをかけずにラジオなどのアクセサリーを使用するときの位置です。
II	運転するときの位置です。
III	エンジン始動位置です。始動したら、キーから手を離してください。自動的に"II"に戻ります。

キーを抜くとき

"Ｉ"でキーを押し込んで"０"まで回してキーを抜きます。



知　識

● キーを抜くとハンドルがロックされます。

"０"から"Ｉ"にキーが回らないとき

ハンドルを左右に回しながらキーを回せば容易に回ります。



⚠警告

- 走行中はエンジンを止めないでください。
  エンジンスイッチを“0”にするとキーが抜けることがあり、ハンドルがロックされ、思わぬ事故につながります。

知　識

- エンジンを止めた状態で“II”のまま、長時間放置しないでください。バッテリー容量が低下し、エンジンがかからなくなることがあります。
- 車から離れるときは、バッテリー保護のため必ず“0”にしてください。

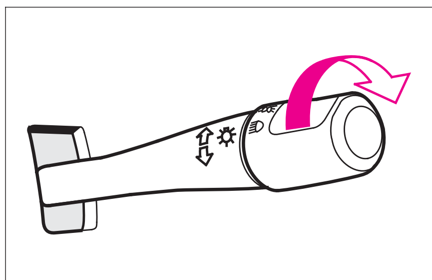
●キー抜き忘れ警告ブザー

エンジンスイッチが“I”または“0”でキーを差し込んだまま車を離れようとしたとき（運転席ドアを開けたとき）、ブザーが鳴りキーの抜き忘れを知らせます。

ライトスイッチ

●ライトの点灯・消灯

エンジンスイッチの位置に関係なく次のように点灯、消灯します。



スイッチの位置		
ヘッドライト	—	点灯
計器類照明灯 車幅灯・尾灯 番号灯	点灯	点灯

知　識

- エンジンが止まっている状態で、ライト類を点灯したままにしないでください。バッテリーあがりの原因となります。

●ライト消し忘れ警告ブザー

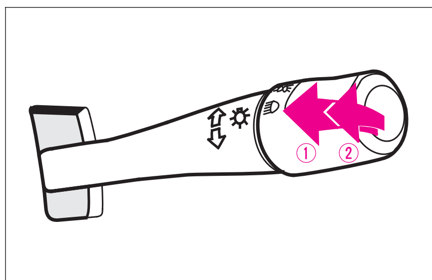
エンジンスイッチが“Ｉ”または“０”で、ライトを消し忘れたまま車を離れようとしたとき（運転席ドアを開けたとき）、ブザーが鳴りライトの消し忘れを知らせます。



●ヘッドライトの上向き（ハイビーム）と下向き（ロービーム）の切り換え

レバーを①の位置まで引くと上向き下向きの切り換えができます。
上向きのときは、メーター内の表示灯が点灯します。

ヘッドライトの上向き（ハイビーム）表示灯 →57ページ



知　識

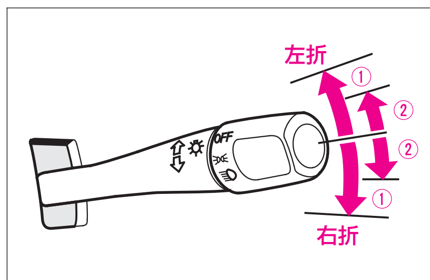
●対向車のあるときや市街地走行など、上向きが不適切なときは下向きにします。

●追越合図（パッシング）

レバーを軽く②の位置まで引いている間、上向きが点灯します。

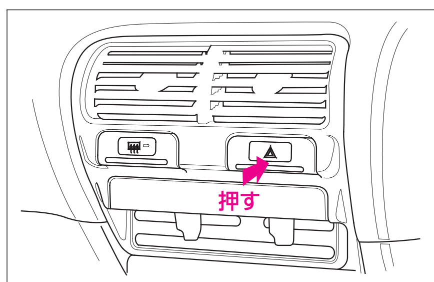
方向指示器（ウィンカー）スイッチ

エンジンスイッチが“II”のとき使えます。
ふだんは①の位置で使います。
この位置ではハンドルの切り角が小さいときには戻らない場合もあります。戻らないときは手で戻してください。
車線変更などでは②の位置に軽く手で押さえながら使います。



非常点滅表示灯（ハザード）スイッチ

スイッチを押すとすべての方向指示器のランプが点滅します。
故障でやむをえず路上駐車するとき使います。



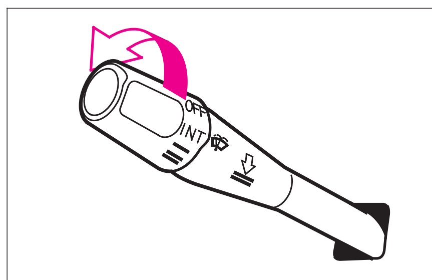
知　識

- 非常時にのみお使いください。
完全充電の新しいバッテリーでも約 2 時間以上使うとバッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

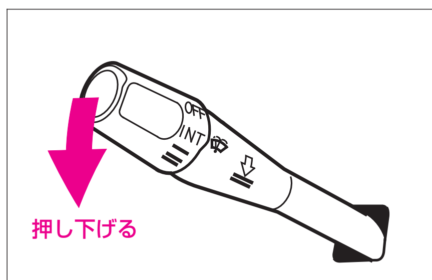
ワイパー／ウォッシャースイッチ

エンジンスイッチが“II”のとき使えます。

ワイパースイッチ



OFF ･･････････････ 停止
INT（間欠）･････････ 雨量の少ないとき
－（低速）･･････････ 普通雨量のとき
＝（高速）･･････････ 雨量の多いとき

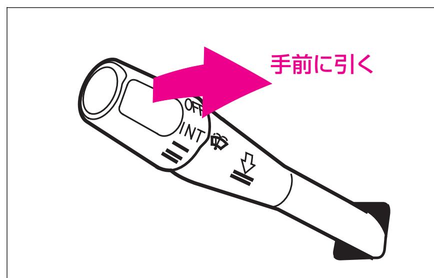


レバーを押し下げている間、高速で作動します。
霧や小雨のときなどに使うと便利です。



ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。



⚠注意

- 寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射しないでください。
  ウォッシャー液が凍りついて視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知　識

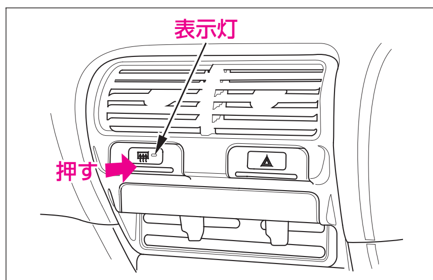
- 空ぶきをしないでください。ガラス面に傷をつけたり、ブレード(ゴム部)を傷めたりします。
- ウォッシャー液が出ないときはウォッシャースイッチを切ってください。
  ウォッシャー液がないままで動かすとポンプの故障の原因となります。
- 寒冷時、ブレード(ゴム部)がガラス面に張りつくことがありますのでヒーターでフロントガラスを暖めてください。
  凍りついたまま動かすとブレード(ゴム部)を傷めたり、ワイパーモーターの故障の原因となります。
  デフロスター　→97ページ

リヤデフロスタースイッチ

リヤガラスを暖め、曇りを取ることができます。

▼

エンジンスイッチが“II”のときスイッチを押すと“ON”になり、同時に作動表示灯が点灯します。もう一度スイッチを押すと“OFF”になり、作動表示灯は消灯します。



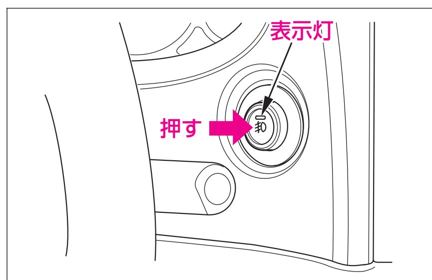
 知 識

- この装置は消費電力が大きいので曇りが取れたら“OFF”にしてください。“ON”のままであっても、約15分経過後自動的に“OFF”になります。また、エンジンの回転が低いとき長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。
- リヤガラスの内側に電熱線が装着されています。電熱線は傷つきやすいので清掃のときは電熱線に沿ってやわらかい布でふいてください。また、手荷物などで傷つけないようにしてください。



フォグライトスイッチ

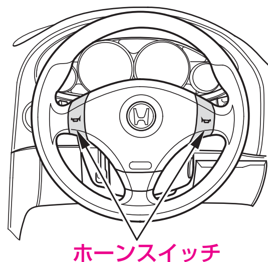
ライトスイッチが"OFF"以外のときスイッチを押すとフォグライトが点灯します。同時にスイッチ内の表示灯が点灯します。もう一度押すと消灯します。



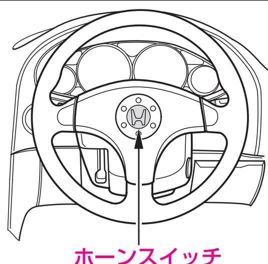
ホーンスイッチ

ハンドルにあるスイッチを押すとホーンが鳴ります。

SRSエアバッグシステム装備車



SRSエアバッグシステム非装備車



運転のしかた

エンジンのかけかた

⚠警告

- バッテリー液が不足しているときは、エンジンの始動をしないでください。
  バッテリーが破裂するおそれがあります。
- 車庫や屋内などの換気の悪いところではエンジンをかけたままにしないでください。
  車内や屋内などに排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

⚠注意

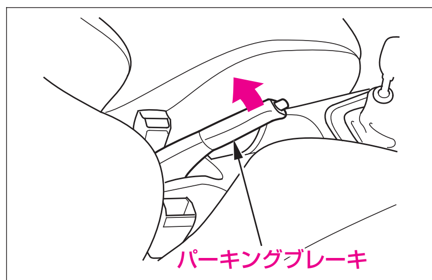
- エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。
- 窓越しにエンジンをかけないでください。
  チェンジレバーがN（ニュートラル）以外に入っていると車が急に動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えない場合は、排気系や燃料系の異常が考えられますので、必ずホンダベルノ店で点検を受けてください。

①パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

パーキングブレーキの操作　→72ページ



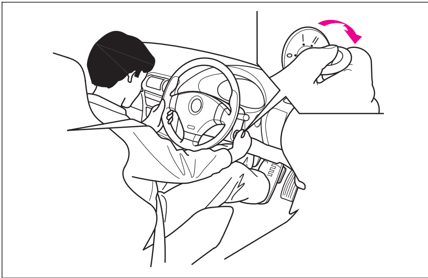
②チェンジレバーをN（ニュートラル）にしてください。

チェンジレバーの操作　→76ページ





③ブレーキペダルをしっかりと踏み、クラッチペダルもいっぱいに踏み込みます。
④アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回してください。



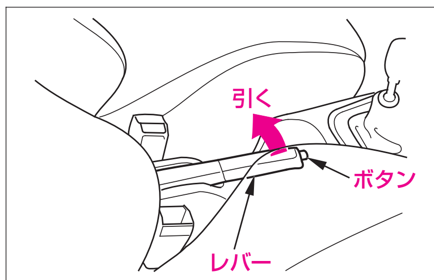
知　識

- 消費電力の大きいライト類、エアコン、リヤデフロスターのスイッチは“OFF”にした方が始動は容易になります。
- バッテリーあがりを防ぐため、スターターは連続して15秒以上回さないでください。15秒回してもエンジンが始動しなかったときは、一度キーを“Ⅰ”に戻して10秒以上待ってから再始動してください。
- エンジンがあたたまっていると始動に時間がかかることがあります。アクセルペダルを半分程度踏み込んだまま、スターターを回してください。エンジンが始動したらアクセルペダルを徐々に戻してください。
- エンジン始動後は、エンジン制御システムの働きによりエンジン回転が高くなりますが、自動的に適正回転に下がります。

パーキングブレーキ

かけるとき

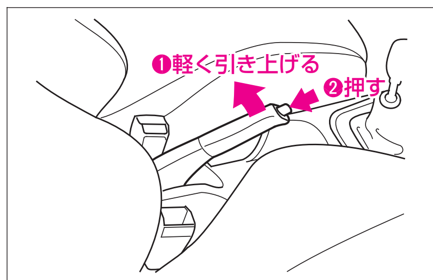
ボタンを押さずにレバーをいっぱいに引きます。



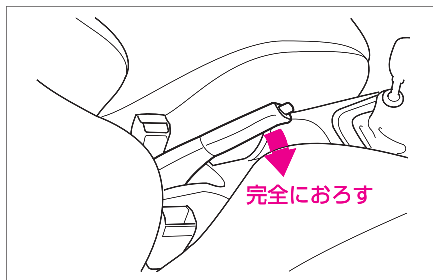
後輪ブレーキがききます。

解除するとき

①レバーを軽く引き上げながら、ボタンを押します。



②ボタンを押したまま、レバーを下に完全におろします。





⚠注意

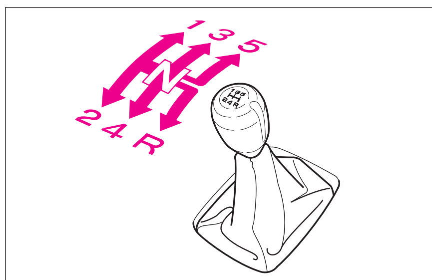
- パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。
  ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

知　識

- 駐車するときは、車が動き出さないように必ずパーキングブレーキをかけてください。
  寒冷時のパーキングブレーキの取り扱い　→161ページ

チェンジレバーの操作

●チェンジレバー



変速するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで、チェンジレバーを確実に操作します。

Rに入れるとき

誤操作を防ぐために、５からＲへは直接入れられません。一度Ｎへ戻してからＲに入れてください。

 **アドバイス**

● 車が完全に止まらないうちはＲに入れないでください。
トランスミッション破損の原因となります。

 **知　識**

● この車のシフトノブはチタン製です。
・炎天下に長時間駐車すると、シフトノブが熱くなることがあります。
・外気温が低いときは、シフトノブが冷たくなることがあります。

●速度範囲

エンジンを過回転させないために、下表の各チェンジレバー位置での速度範囲を参考に、シフトダウンしてください。

チェンジレバーの位置	速度範囲
1	0 ～55km/h
2	15～85km/h
3	20～130km/h
4	35km/h～
5	40km/h～



⚠注意

●滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。
シフトダウンする際の車速には十分注意してください。



アドバイス

●エンジン故障の原因となりますので、限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないように運転してください。特に高速走行時、変速(シフトダウン)するときには注意してください。
限界回転数・・・・・・・・・8,400rpm



知　識

●法定速度を守って走行してください。
●1,000km走行するまではエンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け控えめな運転をしてください。
●エンジンの回転をあやまって限界回転数以上(レッドゾーン)で運転した場合、エンジン保護装置により、燃料供給が停止されます。そのとき、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。

リミテッドスリップデフ(LSD)

LSDのしくみ

LSDは駆動力を左右輪に最適配分し、有効に伝達するための装置です。
このLSDは、ヘリカルギヤを使ったトルク感応型となっています。
トルク感応型LSDの特性として、加速時にハンドルが重くなったり、振動を感じることがあります。

取り扱いについて


アドバイス

- 前輪は左右共、同一サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用するとLSDに悪影響をあたえます。


知　識

- 前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した標準タイヤを前輪に取り付けてください。

3

安全装備

SRSエアバッグシステム（運転席／助手席用シートベルト補助乗員保護装置）

SRSエアバッグシステム装備車

SRSエアバッグシステムのしくみ

●SRSエアバッグシステムとは

前方向からの衝突により、SRSエアバッグが膨らんで運転者および助手席同乗者の顔面への衝撃を緩和する装置です。

SRSエアバッグシステムはシートベルトに代わるものではありません。必ず、シートベルトを着用してください。

⚠警告

- SRSエアバッグシステム装備車であっても、必ずシートベルトを着用してください。
  シートベルトを正しく着用し、正しい乗車姿勢をとらないと衝突などのときSRSエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

*SRS：サプリメンタルレストレイントシステム（Supplemental Restraint System）の略でシートベルトの補助拘束装置の意味

●どのように作動するか

エンジンスイッチが“II”のとき、前方向からの衝突により、センサーが一定以上の衝撃（正しくシートベルトを着用していてもハンドルに顔面があたり、けがをするような場合）を感知するとシステムが作動し、SRSエアバッグが膨らんで運転者および助手席同乗者の顔面への衝撃を緩和します。

⚠注意

- SRSエアバッグが膨らんだ直後は、SRSエアバッグ構成部品に触れないでください。
  構成部品が熱くなっているため、やけどなど思わぬけがをすることがあります。



知　識

- 車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。
- SRSエアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRSエアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。
- 膨らんだSRSエアバッグはすぐにしぼみます。視界をさまたげません。
- SRSエアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。ただし、残留物(カスなど)が目や皮膚などに付着したときには、できるだけ早く水で洗い流してください。
  皮膚の弱いかたなどは、まれに皮膚を刺激することがあります。
- SRSエアバッグは一度膨らむと再使用できません。
  ホンダベルノ店で交換してください。

運転席用SRSエアバッグシステム

作動時



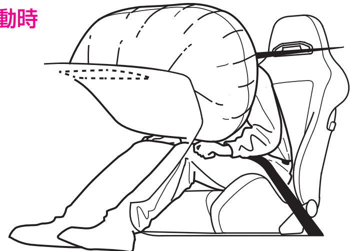
作動後



助手席用SRSエアバッグシステム

助手席用SRSエアバッグシステムは、同乗者がいなくても作動します。

作動時



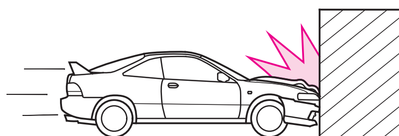
作動後



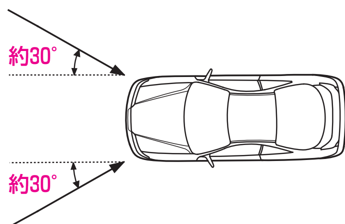
作動するとき

次のような場合に作動します。

20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき



車両の前方左右約30度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

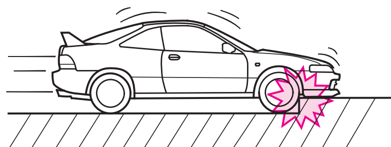


知　識

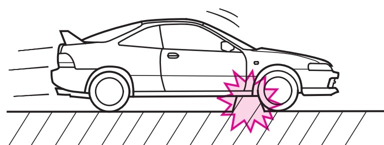
- 衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、SRSエアバッグが作動するときの速度(車速)は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受けたとき作動することがあります。車両に衝撃を受けないように十分に速度を落とし障害物をさけて走行してください。

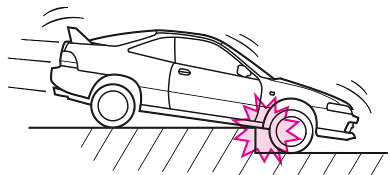
縁石などに衝突したとき



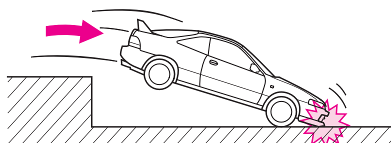
突起物などに衝突したとき



深い穴や溝などに落ちたとき



高いところから落ちたとき

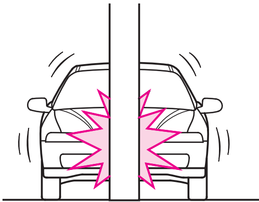




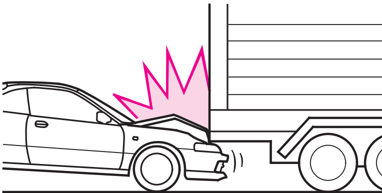
作動しないとき

衝突の位置、衝撃の度合い、角度によって、作動しないことがあります。

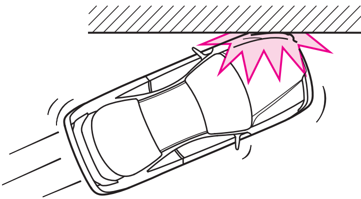
電柱、立木などへの衝突



トラックなどへの潜り込み



部分的な衝突や斜め方向からの衝突

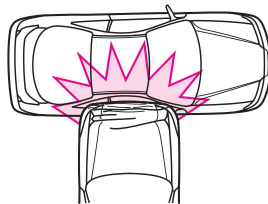


知　識

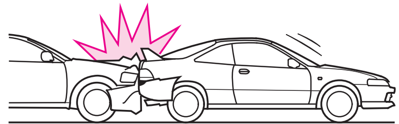
- 車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRSエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

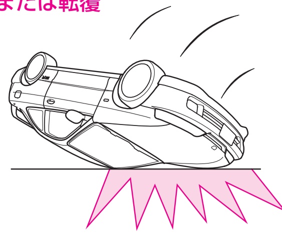
横方向からの衝突



後部からの衝突



横転または転覆



知　識

- 事故の状況、形態によっては、SRSエアバッグが作動することがあります。

SRSエアバッグシステムの効果を十分に発揮させるために

●正しい乗車姿勢で

運転席

正しい運転姿勢(シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドルが楽に操作できる状態)がとれる範囲で、シートを後ろに下げます。

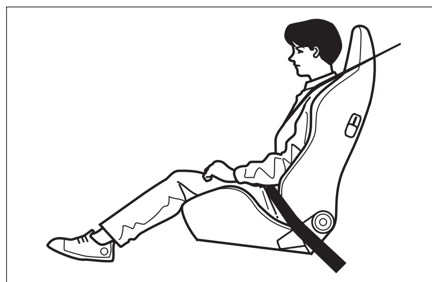


⚠警告

- ハンドルに顔や胸などを近づけていると、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、重大な傷害を受けるおそれがあります。

助手席

シートを後ろに下げて深く腰かけ、背中を背もたれから離さないようにします。



⚠警告

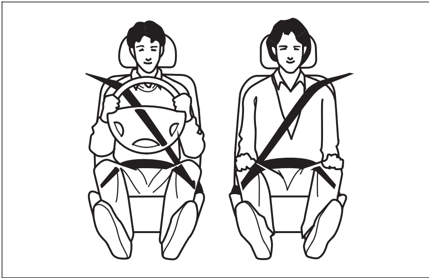
- インストルメントパネルに顔や胸などが近づかないようにシートを後ろに下げてください。また、インストルメントパネルに手や足などを置かないでください。
  SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、重大な傷害を受けるおそれがあります。



お子さまを乗せるときは

●シートベルトは必ず着用

このシステムは、シートベルトと併用することでその効果を発揮します。
必ず、シートベルトを着用してください。

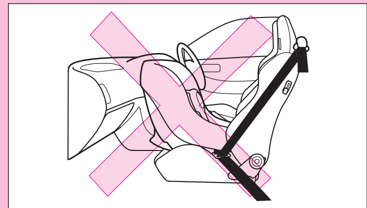


お子さまは、後席に乗せ必ずシートベルトを着用させてください。
正しく着用できない小さなお子さまは、体格に合わせてチャイルドシートなどをお使いください。

●チャイルドシートなどの取り付けについて

⚠警告

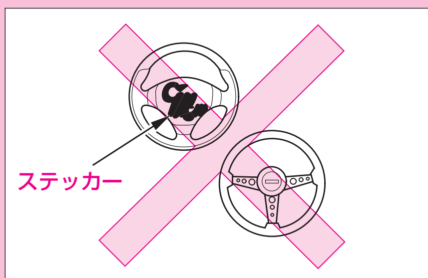
- 助手席にはベビーシートを取り付けないでください。また、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。SRSエアバッグが膨らむ際、ベビーシートや、チャイルドシートの背面に強い衝撃を受け、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。
また、やむをえず前向きに取り付ける場合は、SRSエアバッグから遠ざけるため、シートを一番後ろに下げてください。



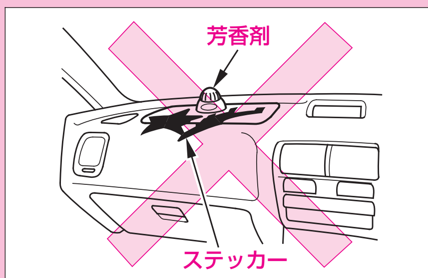
取り扱いについて

⚠注意

- SRSエアバッグの取り外し、分解などはしないでください。
  不適切に扱うと誤って作動したり、正常に機能しなくなります。
- ハンドルを交換したり、パッドにステッカー類を貼ったりすると正常に機能しなくなります。



- インストルメントパネル上面にステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤など物を置かないでください。
  フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。
  また、SRSエアバッグと乗員との間にテレビなどの用品を取り付けたり、物を置いたりしないでください。
  正常に機能しなくなったり、作動時にこれらの物がとぶことがあります。



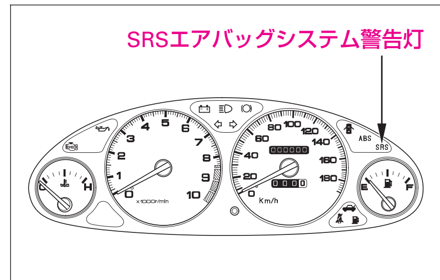


知 識

- ハンドルまわり、インストルメントパネルまわりやセンターコンソール付近の修理、オーディオ等用品の取り付けおよびダッシュボード周辺の板金塗装および修理をする場合は、SRSエアバッグシステムに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずホンダベルノ店にご相談ください。
- SRSエアバッグシステム装備車を廃棄するときは必ずホンダベルノ店にご相談ください。正しく取り扱わないとSRSエアバッグシステムが思いがけなく作動することがあります。
- サスペンションの改造をしないでください。車高やサスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグの誤作動につながります。(ホンダ純正品を除く)

●SRSエアバッグシステム警告灯

メーター内に組み込まれており、SRSユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。



エンジンスイッチを“II”にしたときに約6秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにホンダベルノ店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約6秒経過しても消灯しないとき

  必要なときにSRSエアバッグが膨らまないおそれがあります。

アンチロックブレーキシステム（ABS）

ABS装備車

ABSのしくみ

●ABSとは

急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとする装置です。

●作動について

・ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。これはABSが作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。



・低速（約10km/h以下）ではABSは作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。

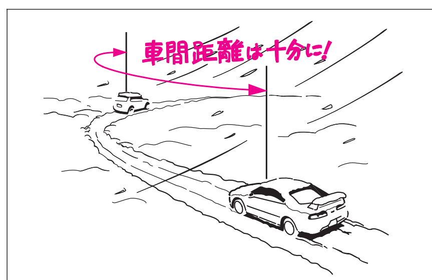
知 識

●エンジン始動時や、エンジンが冷えているときの発進時に、エンジンルームからモーター音等が聞こえることがありますが、これはシステムの動作チェックをしている音で異常ではありません。

運転のしかた

・この装置は制動距離を短くするためのものではありません。ABSを装備していない車両と同様に、路面が滑りやすくなるほど長い制動距離が必要になります。
また、ABSが作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、ハイドロプレーニング現象が起こりやすい雨天時の高速走行などにおいても過信せず、安全運転に心がけてください。

・悪路、砂利道、深い新雪などの路面では、ABSの装備されていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。
このような道路条件では速度は控えめにして車間距離を十分にとって運転してください。





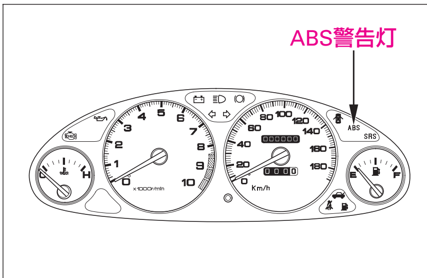
取り扱いについて

知　識

- タイヤは必ず四輪とも同一指定サイズのものをお使いください。サイズ(外径)の異なるタイヤを混用すると、ABSが正常に機能しなくなることがあります。

●アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯

メーター内に組み込まれており、ABSが異常のときに点灯します。



エンジンスイッチを“II”にしたとき点灯し、数秒後に消灯するのが正常です。
また、運転中に数秒間点灯してもすぐ消灯し、その後走行中に点灯しなければ正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにホンダベルノ店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき

  なお、この場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。（ABSとしての作動はしません）

その他の安全装備

ほかに、次のような安全装備を採用しています。

●ハイマウントストップランプ

注文装備

ストップランプを高い位置にも設置し、後方から見えやすくしています。

●後席三点式シートベルト

上半身も拘束する三点式シートベルトを後席にも採用しています。

(→46ページ)

●シートベルト警告灯

シートベルトの未着用をランプで知らせ、ベルトの着用を促します。

(→61ページ)

●ドアビーム

側面から外力が加わったときに、ドアの変形を抑える効果があります。

●ロールオーバーバルブ

車が転倒したとき、燃料タンクからの燃料流出を防止します。

●難燃性材料使用の内装

フロアカーペットやシートなどには、燃え広がりにくい素材を採用しています。

4

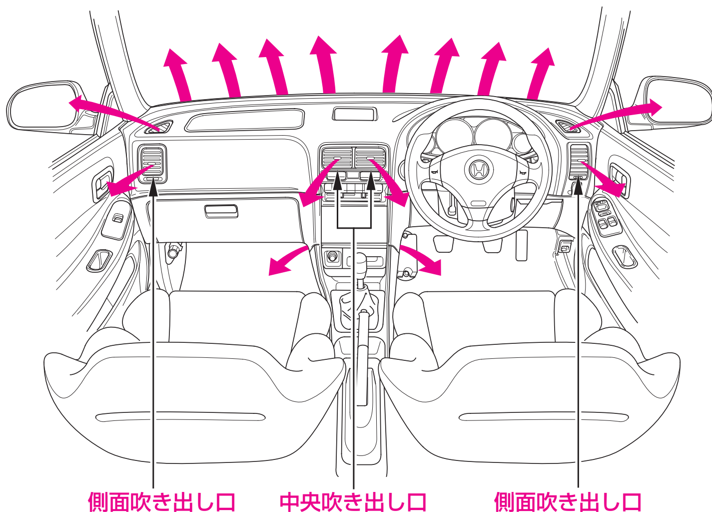
ドライブを快適にする装備

●エアコン

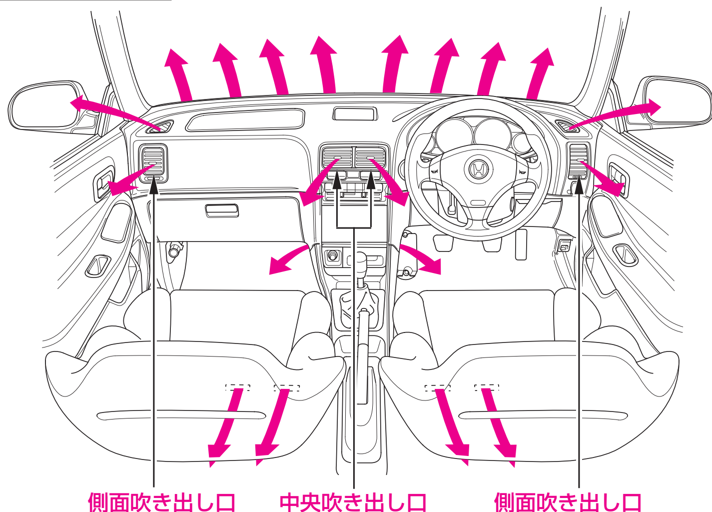
●室内装備品

エアコン

2 ドアハッチバック車



4 ドアハードトップ車

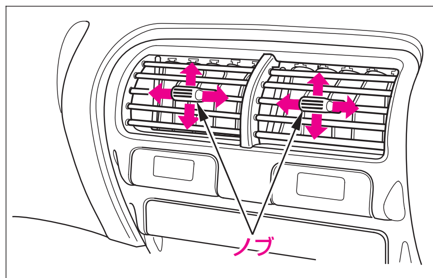




吹き出し風の調節

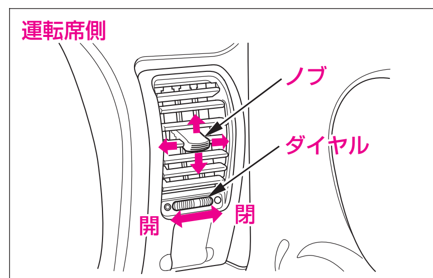
ノブを上下または左右に動かして、吹き出し風の向きを調節します。

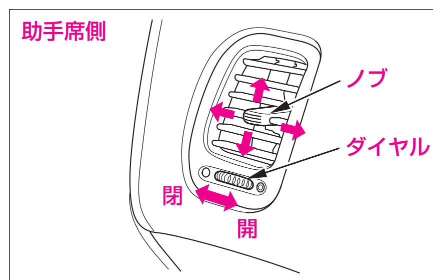
・中央吹き出し口



・側面吹き出し口

送風が必要なときは、ダイヤルを“開”のほうに回します。





知　識

●側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風がガラスに直接当たるよう両側の吹き出し口の向きを調節すれば、より早く曇りを取ることができます。

ヒーター・マニュアル式エアコン

エンジンをかけた状態で使います。

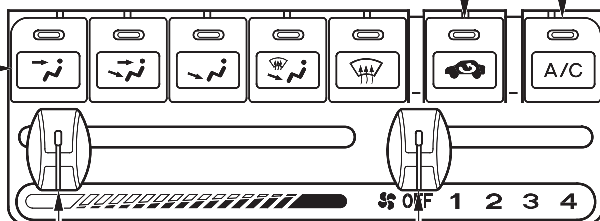
内外気切り換えボタン

通常の暖房時はガラスの曇りを防ぐため外気導入で使い、トンネルや渋滞地域などで外気が汚れているときは一時的に内気循環（表示灯点灯）にしてください。

エアコンスイッチ エアコン装備車

ファンスピード切り換えレバーが"OFF"以外のとき、エアコンが作動します。（表示灯点灯）

冷房や除湿暖房をするときに使います。



温度調節レバー

レバーを左右に動かして吹き出し風の温度を調節します。

ファンスピード切り換えレバー

OFF	停止
1	弱
2	中
3	強
4	最強

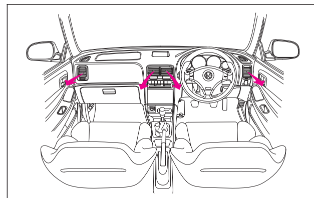
吹き出し口切り換えボタン



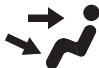
吹き出し口切り換えボタン

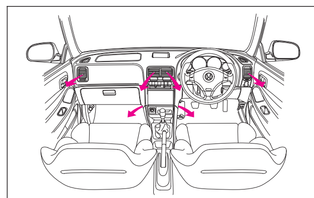
上半身に送風したいとき





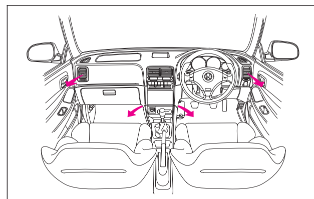
上半身、足元に送風したいとき



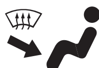


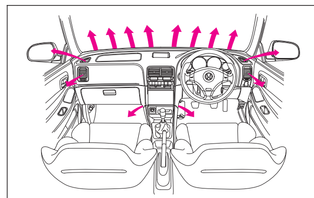
足元に送風したいとき





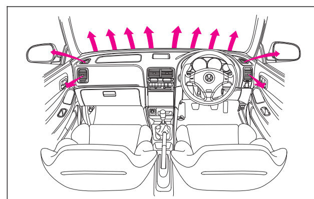
足元への送風と窓ガラスの曇りを取りたいとき



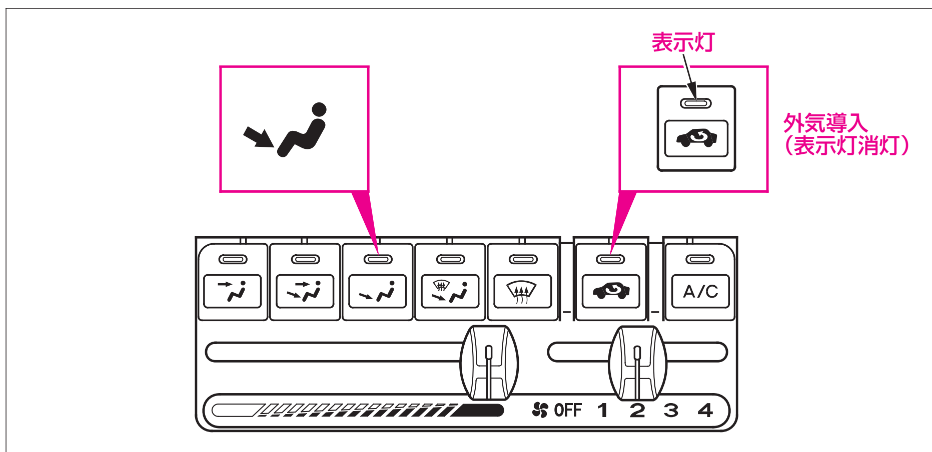


窓ガラスの曇りを取りたいとき

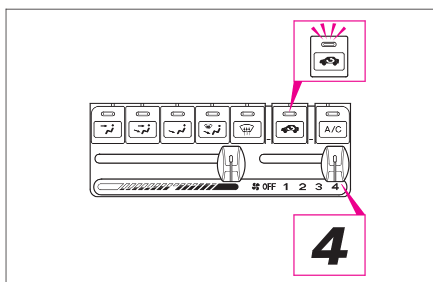




●暖房するとき



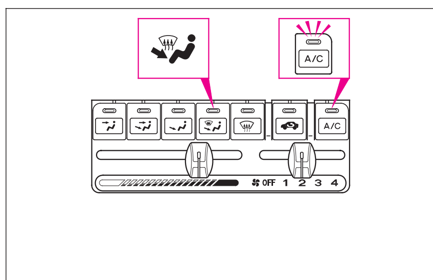
急速に車内を暖めたいとき



知　識

●内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界のさまたげになります。一度暖めた後は外気導入で使ってください。

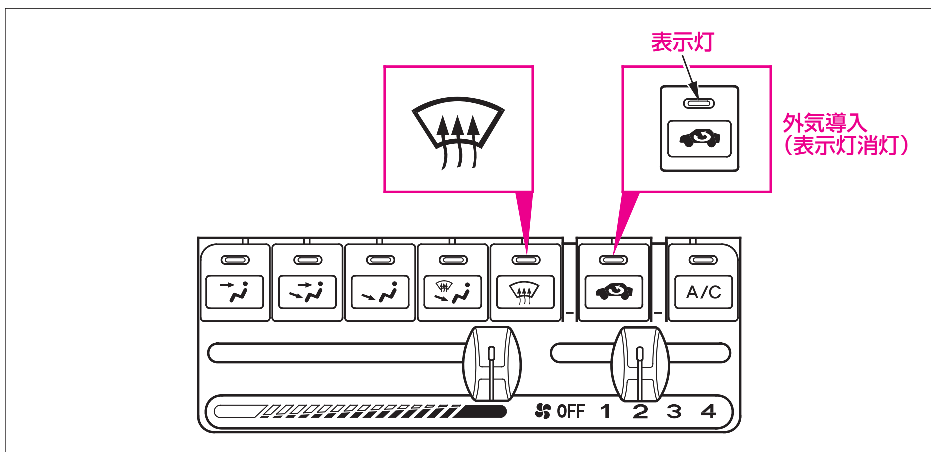
曇り止め暖房をしたいとき　エアコン装備車



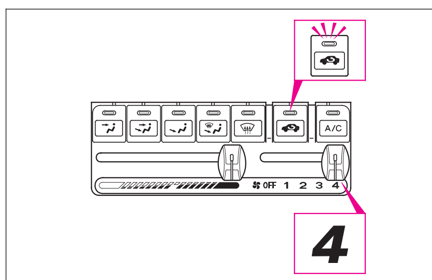
エアコンスイッチを入れると除湿暖房ができます。
春、秋などの雨天でガラスが曇りやすいときに使います。外気が除湿され、乾燥した空気で暖めますので、曇り止めに役立ちます。



●前面／側面ガラスの霜や曇りを取りたいとき（デフロスター）



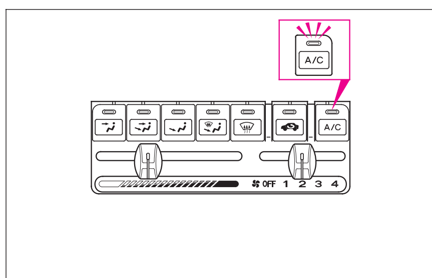
急速に霜を取りたいとき



知　識

●内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界のさまたげになります。一度霜を取った後は外気導入で使ってください。

梅雨時など湿度の高いとき　エアコン装備車

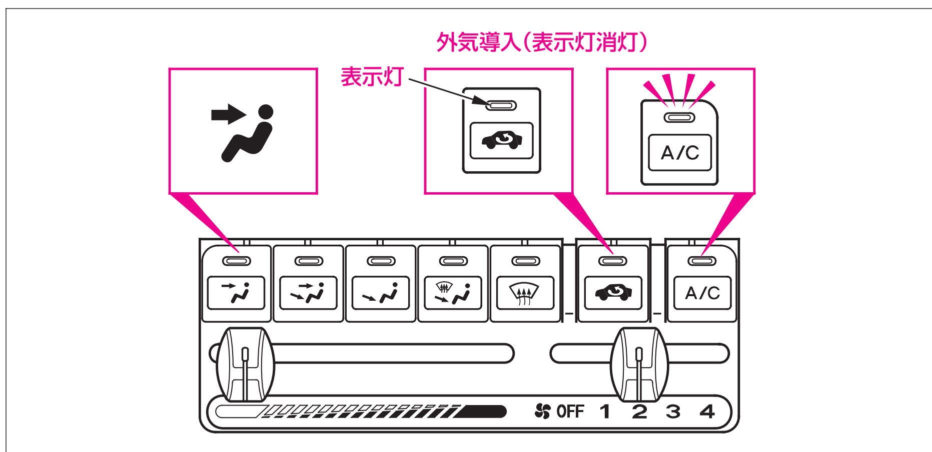


知　識

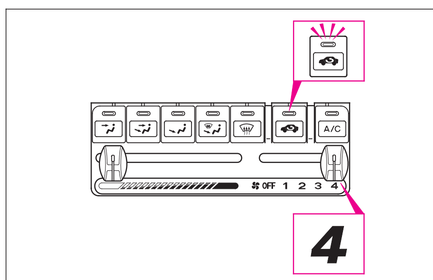
●エアコンスイッチを入れているときは、温度調節レバーを左端（最大冷房）付近にしないでください。冷風が前面ガラスにあたるとガラスの外側が曇り、視界のさまたげになります。

●冷房するとき

エアコン装備車



急速に車内を冷やしたいとき



知 識

●急速冷房で車内が冷えたら外気導入にしてください。内気循環のまま長時間使うと車内の空気が汚れます。

知 識

●炎天下に駐車していたときは、熱気を追い出すため窓を開け、冷房を開始してください。

●長時間、冷風を直接体に当てないでください。冷やしすぎは健康上良くありません。



●エアコンを常用しないとき

装置各部のオイルをきらさないために、ときどきエンジンを低回転させた状態で数分間冷房または除湿暖房をしてください。

知　識

- 室内の温度が低い場合は、エアコンが作動しないことがあります。このような場合には、内気循環で室内を暖めてからエアコンスイッチを入れると作動します。

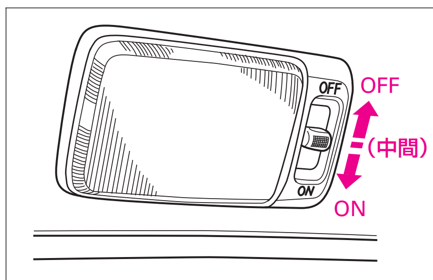
室内装備品

室内灯

"ON"
ドアの開閉に関係なく点灯します。

（中間）
ドアを開いたときのみ点灯します。

"OFF"
ドアの開閉に関係なく消灯します。

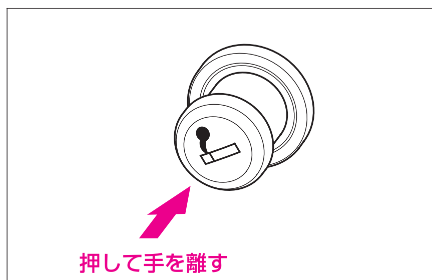


シガレットライター

エンジンスイッチが" I "または"II"のときだけ使えます。



ライターを押し込んで、手を離し、元の位置に戻るまで待ちます。
ヒーター部が赤熱すると自動的に戻ります。



ライター使用後は灰皿で灰を落としてからすみやかに元に戻してください。



⚠注意

● シガレットライターの金属部分には触れないでください。
やけどをするおそれがあります。

知 識

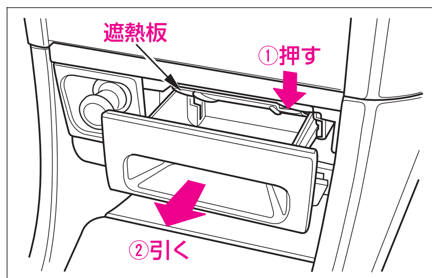
● シガレットライターの損傷を防ぐため、次のことをお守りください。
・ライターを押し込んだあと、押さえ続けないでください。
・ヒーター部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。
・ライターのさし込み口からは、ホンダ純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。

● 他の車のライターを使ったり、自車のライターを修正したりしないでください。戻らなかったり、とび出したりするおそれがあります。

● ライターを押し込んでから、30秒以上たっても戻らないときは故障のおそれがありますので手で引き出し、ホンダベルノ店で点検を受けてください。

灰皿

清掃するときは遮熱板を下に押さえながら外します。

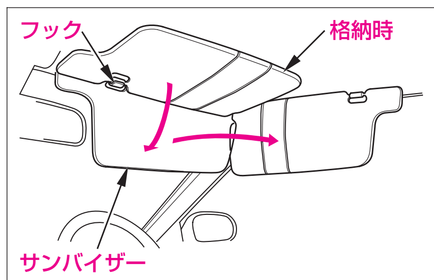


⚠注意

● タバコ、マッチなどは確実に火を消してから灰皿に捨て、灰皿は必ず閉めてください。
また、吸いがらをためすぎたり、紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。
タバコなどの火が燃え広がるおそれがあります。

サンバイザー

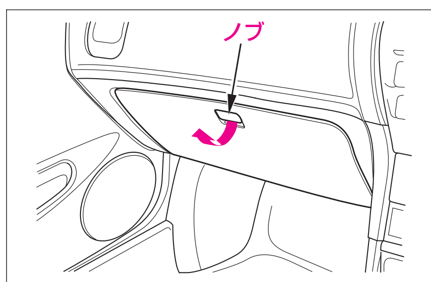
サンバイザーを横にするときは、フックから外して行います。



小物入れ

●グローブボックス

ノブを引くと開きます。
ライトスイッチが"OFF"以外のときグローブボックスのふたを開けると、照明灯が点灯します。

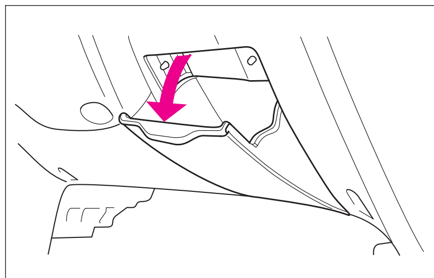


⚠警告

- 走行中は、グローブボックスのふたを必ず閉めてください。
  グローブボックスのふたが開いていると、衝突したときなどにふたにぶつかったり、内部の物がとび出したりして思わぬ事故につながります。



●ドライバーズポケット



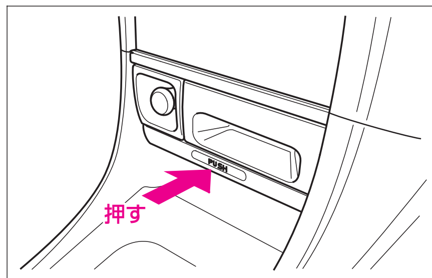
カップホルダー

カップなどを置くときに使います。

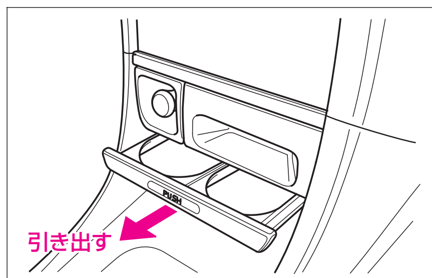
知 識

- ドアの開閉や走行中の振動、車の動きなどで飲み物がこぼれることがあります。
  熱い飲み物などはやけどのおそれがありますので注意してください。
- 飲み物がオーディオ等にかかると、故障の原因となりますので注意してください。

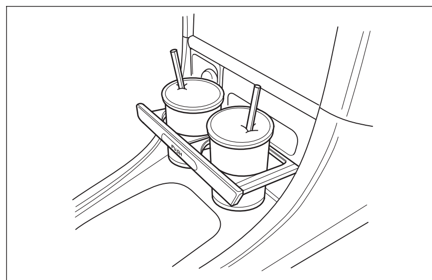
①カップホルダーは、押すと手前へ出てきます。



②完全に引き出します。



格納するときは、そのまま押し込みます。



5

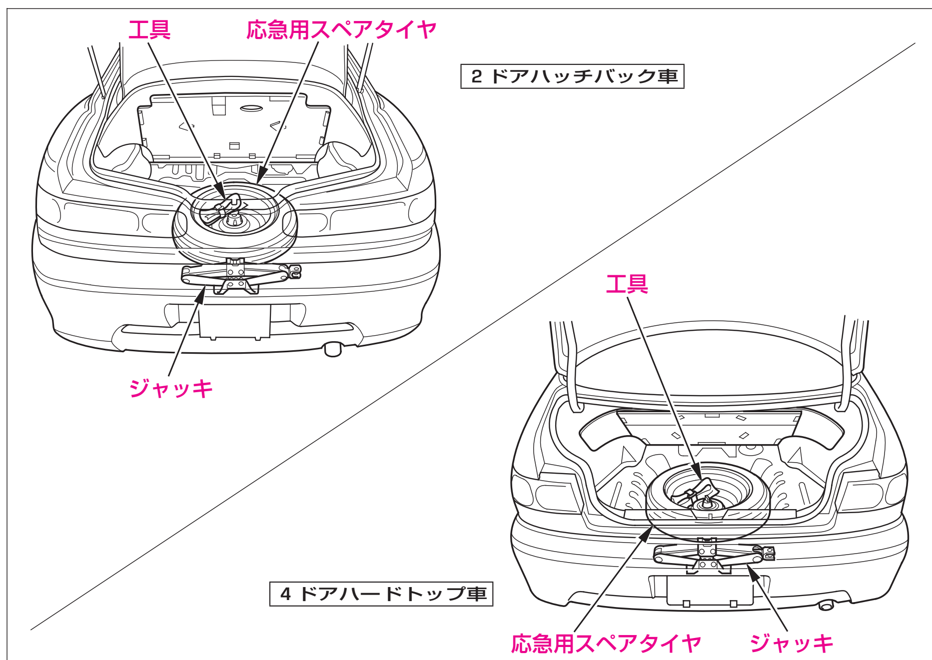
万一のとき

＊全国のホンダ販売店およびJAFの電話番号は別冊の「サービス網一覧」に記載してあります。

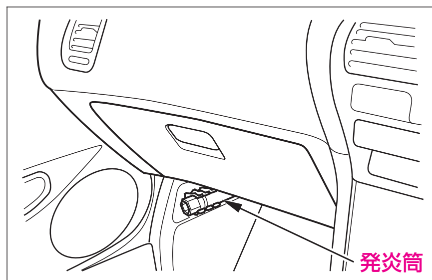
工具・スペアタイヤ・発炎筒

格納場所

●工具・スペアタイヤ



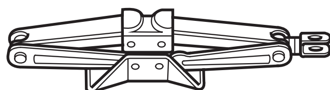
●発炎筒

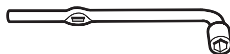


発炎筒は助手席足元にあります。



工具の種類







知　識

- 工具の種類、ジャッキ、発炎筒の使いかたなどは万一のとき困らないようあらかじめ確かめておきましょう。
- スペアタイヤ、ジャッキは走行中動かないように、所定の位置にしっかり固定してください。
- 高速道路で故障などにより停止するときは、停止表示器材による表示義務がありますので、停止表示板などを常時携帯するようにしましょう。

発炎筒について

高速道路、踏切などの危険な場所で故障したときに使います。発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

・使いかた　　・使用上の注意
・発炎時間　　・有効期限

⚠警告

- ガソリンなどの燃えやすいもののそばでは使わないでください。
火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

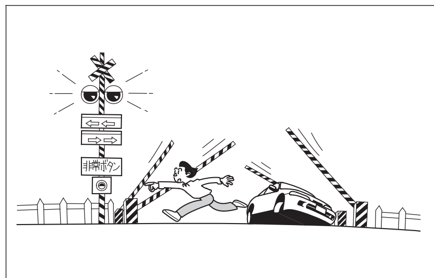
- お子さまにいじらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 発炎筒を使うとき顔やからだに向けるとやけどなどをすることがあるのでおやめください。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。
トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

故障したとき

車を路肩に停め、非常点滅表示灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板（または停止表示灯）、発炎筒を使い、後続する車に故障車とわかるようにします。

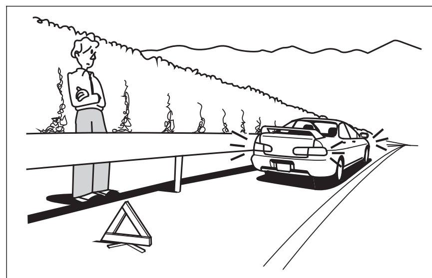
踏切で動けなくなったとき

脱輪などで踏切内で動けなくなったときは、踏切の非常ボタンを押してください。非常ボタンがわからず、緊急を要するときは、発炎筒で合図をしてください。



高速道路で故障したとき

車を路側帯に寄せ、非常点滅表示灯を点滅させ、車両後方に停止表示板（または停止表示灯）を置いて表示してください。法律で義務づけられています。

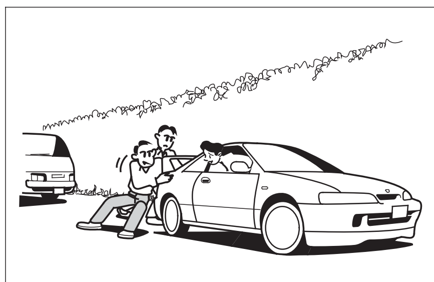


人は車からおりて、安全な場所に避難してください。



道路で動けなくなったとき

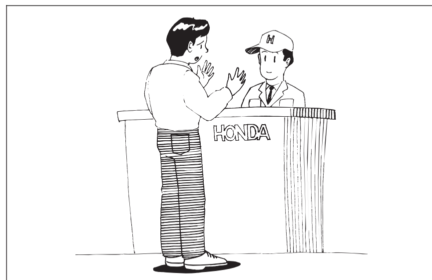
一般道路で動けなくなったときは、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。



または、ギヤを2に入れて、クラッチペダルを踏まずにスターターを回して移動します。

故障の修理について

ホンダベルノ店へお申しつけください。



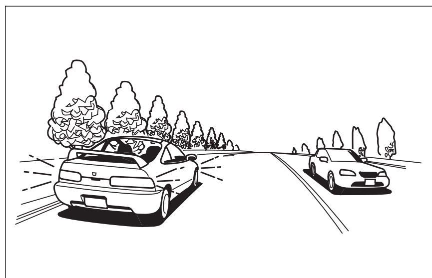
お持ちこみいただければ、簡単なものはその場で修理いたします。長くかかるものは、予定をお知らせします。
お持ちこみのむずかしいときには電話でご連絡ください。
遠出などのときは全国どこでもホンダ販売店へご連絡ください。
ホンダ販売店およびJAFの電話番号については別冊の「サービス網一覧」をご覧ください。

事故が起きたとき

あわてずに次の処置をとります。

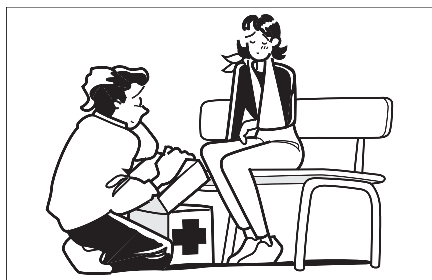
1 **事故の続発を防ぐ。**

他の交通のさまたげにならないような安全な場所（路肩、あき地など）に車を移動させ、エンジンを止めます。



2 **負傷者がいる場合は、応急手当を行う。**

医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行います。
この場合、とくに頭部に傷などがあるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故の心配があるときは安全な場所に移動させます。



知　識

- 外傷がなくても医師の診断を受けましょう。後になってから後遺症が出るおそれがあります。



3警察へ連絡する。

事故が発生した場所、状況、負傷者や負傷の程度などを警察官に報告し、指示を受けます。



4相手方、事故の状況をメモする。

5ご購入された販売店や保険会社へ連絡する。

けん引

けん引は専門業者に依頼し、できるだけ四輪または前輪を持ち上げて行ってください。

アドバイス

- 車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、必ず四輪または前輪を持ち上げてけん引してください。

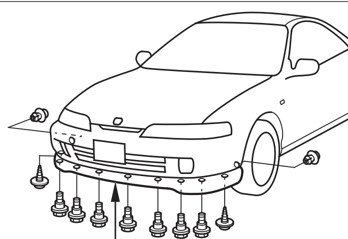
けん引されるとき（ロープによるけん引）

やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合は、次の方法で行ってください。

①フロントアンダースポイラーを外します。

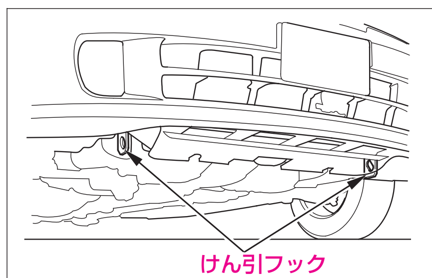
アドバイス

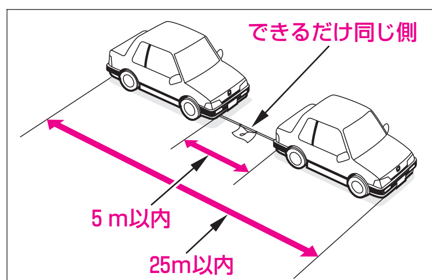
- 外さないでけん引されると、フロントアンダースポイラーに傷をつけるおそれがあります。





②ロープをけん引フックにかけ、ロープ中央部に白い布(0.3m平方以上)を付けます。





③チェンジレバーをN(ニュートラル)に、エンジンスイッチは“Ⅰ”または“Ⅱ”にします。

④パーキングブレーキを解除し、けん引されます。けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。



アドバイス

- けん引フックにロープをかけるときは、車体やフックの破損・変形を防ぐために次のことに気をつけてください。
  - ・けん引フック以外のところにロープをかけないでください。
  - ・けん引時にけん引フックに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。
- ワイヤーロープや金属製のチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体にあたる部分のチェーンに布をまくなどして行ってください。
  そのままけん引されると、バンパーに傷をつけるおそれがあります。



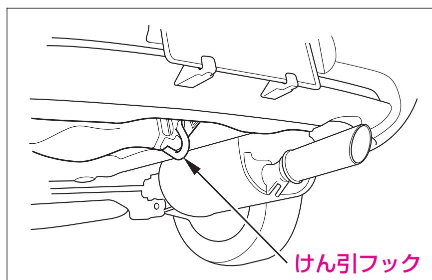
知　識

- エンジンが停止している状態でのけん引は、次のことに気をつけてください。
  - ・ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるので、ブレーキのききが悪くなります。
  - ・パワーステアリング装備車はパワーステアリングのパワー装置がはたらかなくなるので、ハンドル操作が重くなります。
  - ・エンジンスイッチを“0”にするとキーが抜けることがあり、ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、事故につながるおそれがあります。
- 長い下り坂では、ブレーキ部の温度が上がりブレーキがきかなくなるおそれがあります。レッカー車にけん引してもらってください。



故障車をけん引するとき

やむをえず故障車をけん引するときは、自車より重い車のけん引は避けてください。



アドバイス

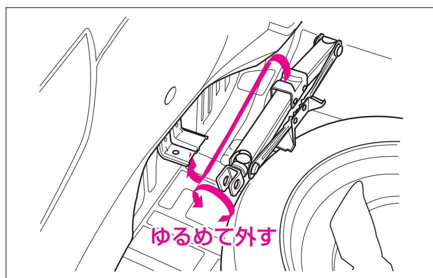
- けん引フックにロープをかけるときは、車体やフックの破損・変形を防ぐために次のことに気をつけてください。
  - ・けん引フック以外のところにロープをかけないでください。
  - ・けん引時にけん引フックに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。
- ワイヤーロープや金属製のチェーンなどを使ってけん引するときは、車体にあたる部分のチェーンに布をまくなどして行ってください。そのままけん引すると、バンパーに傷をつけるおそれがあります。

パンクしたとき

ジャッキの取り扱い

●ジャッキの取り出しかた

ジャッキをゆるめて外します。

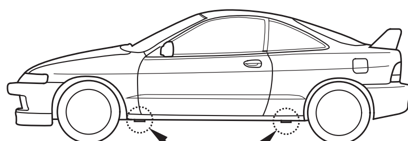


知　識

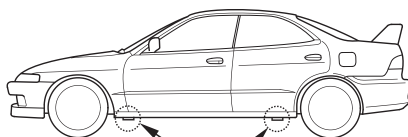
- ジャッキを格納するときはドライバーなどで無理に締めないでください。
  ジャッキ取り付け部が変形するおそれがあります。

●ジャッキをかける位置

2 ドアハッチバック車



4 ドアハードトップ車



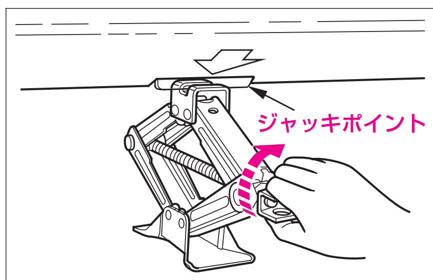


●ジャッキのかけかた

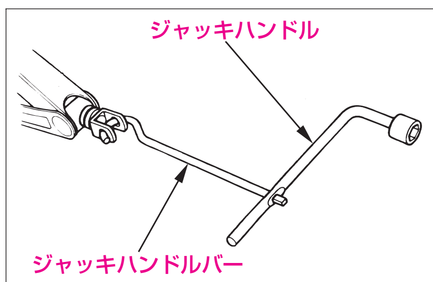
①地面が固い平らなところに車を停めます。

②パーキングブレーキを十分にかけ、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に石などで輪止めをします。

③ジャッキを地面に置き、手で回してジャッキの溝がジャッキポイントに入るまで上げます。



④ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤと地面が少し離れるまで車体を上げます。



⚠警告

- 車がジャッキだけで支えられているときは、不安定な状態にあるので車の下に入ったりしないでください。
  万一、ジャッキが外れると、思わぬ事故につながります。

⚠注意

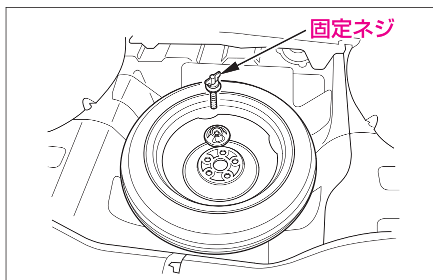
- ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守ってください。
  - ・エンジンをかけたままにしない。
  - ・地面が固い平らなところ以外では使用しない。
  - ・指定された位置以外にかけない。
  - ・人や荷物をのせたままにしない。
  - ・ジャッキの上や下に物をいれたりしない。
  - ・タイヤ交換やタイヤチェーン着脱以外には使用しない。

知　識

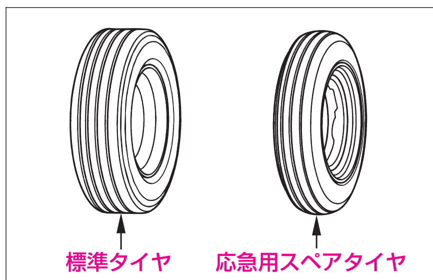
- この車に搭載されているジャッキをお使いください。他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

応急用スペアタイヤ

固定ネジをゆるめて取り出します。



応急用スペアタイヤは、タイヤがパンクしたときの応急用としてのみに使うタイヤです。



お使いになるときは次のことをお守りください。

知　識

- 空気圧はときどき点検し、指定空気圧でお使いください。
  指定空気圧：
  420 kPa (4.2 kgf/cm²)
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、100km/h以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用スペアタイヤを装着しているときは最低地上高が更に低くなるので、床下やマフラーを損傷しないように十分注意して走行してください。
- この応急用スペアタイヤとホイールはこの車の専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使わないでください。
- 応急用スペアタイヤにはタイヤチェーンは装着できません。
  チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に取り付け、これにタイヤチェーンを装着してください。
- 前輪に応急用スペアタイヤを装着しないでください。

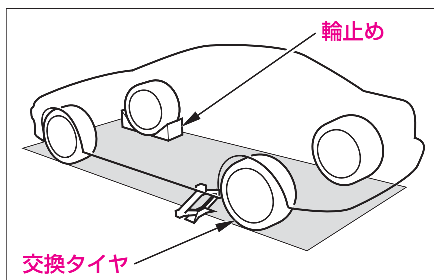


タイヤ交換

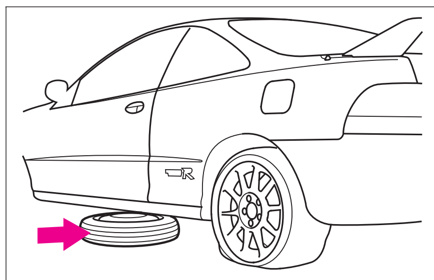
1 はじめに

①車を地面が固く平らで安全な場所に停め、工具類、応急用スペアタイヤを取り出します。

②パーキングブレーキを十分にかけ、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に石などで輪止めをします。



③応急用スペアタイヤは交換するタイヤ近くの車体の下にホイール表面を上にして置きます。

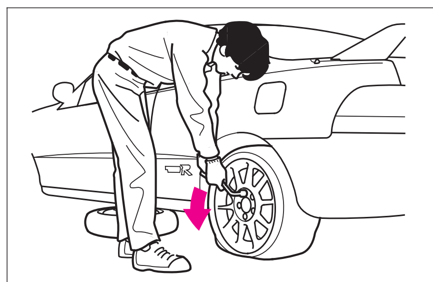


2 ジャッキで車体を上げる

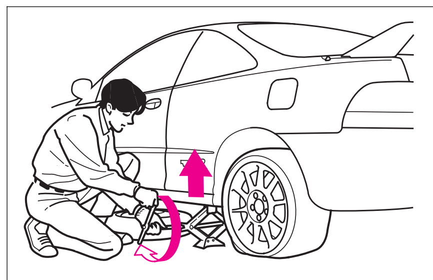
①ジャッキをセットします。

→117ページ

②ホイールナットをホイールナットレンチで少し(約1回転)ゆるめます。

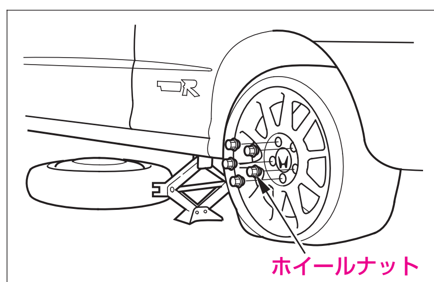


③タイヤと地面が少し離れるまでジャッキで車体を上げます。



3タイヤを交換する

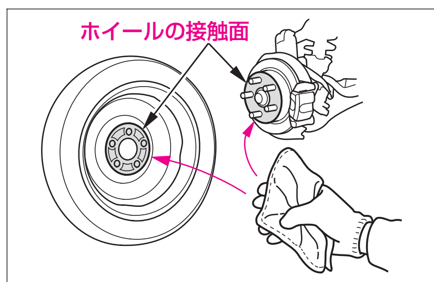
①ホイールナットを外し、タイヤを外します。



知 識

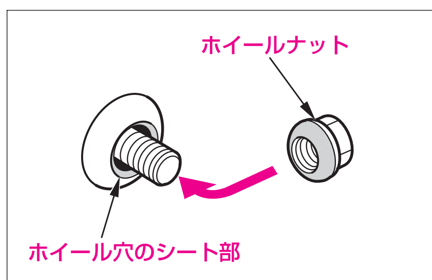
- 標準装着のタイヤを横にして地面に置くときは、下に布などを敷いてその上に置いてください。
  そのまま置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

②応急用スペアタイヤのホイールの接触面のよごれをふき取ります。



③応急用スペアタイヤを取り付けます。

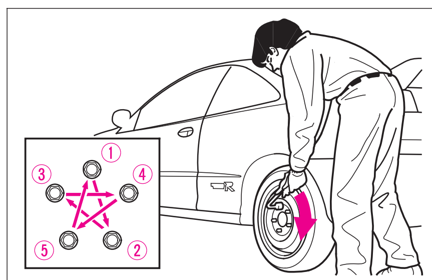
④ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。



⑤ジャッキをおろし、図の番号順に２～３度にわたり、ホイールナットをしっかり締め付けます。

ホイールナット締め付けトルク：

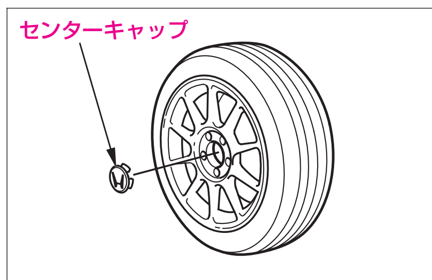




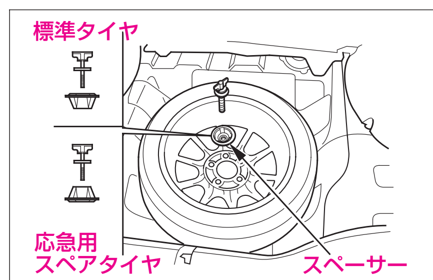


4標準タイヤを収納する

①パンクした標準タイヤはセンターキャップを外します。

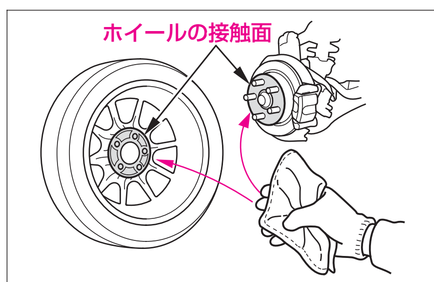


②パンクした標準タイヤをしまい、スペーサーを、応急用スペアタイヤを固定していたときとは逆向きにして固定します。



5標準タイヤを取り付けるときは

①標準タイヤのホイールの接触面のよごれをふき取ります。

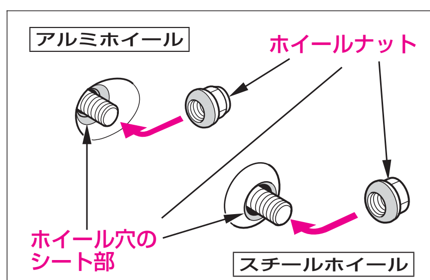


知　識

●標準装着のタイヤを横にして地面に置くときは、下に布などを敷いてその上に置いてください。
そのまま置くとホイールに傷がつくおそれがあります。

②標準タイヤを取り付けます。

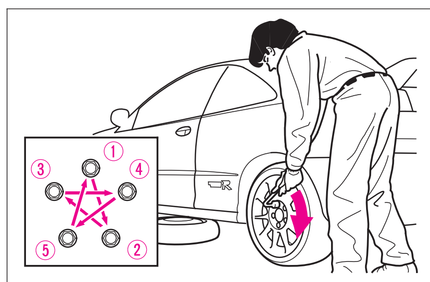
③ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。



④ジャッキをおろし、図の番号順に２～３度にわたり、ホイールナットをしっかり締め付けます。

ホイールナット締め付けトルク：









アドバイス

- 前輪は左右共、同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを混用するとLSDに悪影響をあたえます。



知　識

- この車専用のタイヤ、ホイールをお使いください。
専用以外のタイヤ、ホイールを使うと走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。タイヤ、ホイール交換に際しては、必ずホンダベルノ店にご相談ください。
- レンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め付けないでください。トルクがかかりすぎることがあります。
- パンク修理、タイヤの摩耗、リムの変形などでホイールバランスが狂うことがあります。車体の振動などの異常を感じたらホンダベルノ店で点検を受けてください。
- タイヤ交換は安全のため、地面の硬い平らな場所で、他の交通に十分注意して行ってください。必要に応じて停止表示板、非常点滅表示灯を使ってください。
- 必ず指定サイズ、同一種類のタイヤを使ってください。指定サイズ以外のタイヤや種類の異なるタイヤを使うと安全性を損ないます。
- 応急用スペアタイヤの空気圧は使うときに調整してください。
やむをえず、未調整のまま走る場合は、速度を控えめにしてください。
タイヤの空気圧　→173ページ
- パンク修理などでホイールを取り付け直したときには、念のため1,000km走行時にホイールナットのゆるみの有無を点検してください。

オーバーヒートしたとき

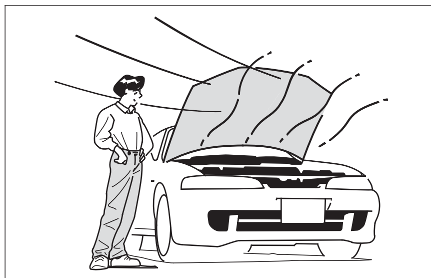
次のようなときは、オーバーヒートです。
・水温計の針が“H”の目盛に入ったり、エンジンの力が急に落ちる。
・エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている。

⚠警告

●エンジンルームから蒸気が出ているときは、ボンネットを開けないでください。
蒸気や熱湯がふき出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

●処置のしかた

①車を安全な場所に停めます。
②エンジンをかけたままボンネットを開けて風通しをよくします。

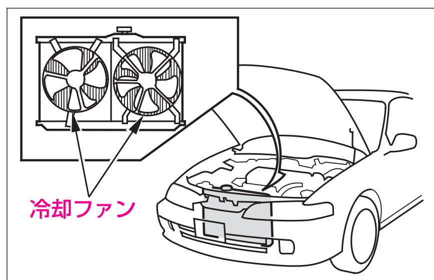


知　識

●エンジンルームから蒸気が出ているときは、エンジンを止めます。
蒸気が出なくなってからボンネットを開け、エンジンをかけてください。



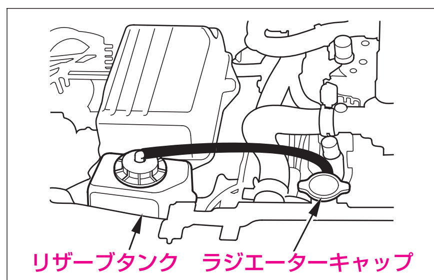
③冷却ファンの作動を確認し、水温計の針が下がってきてからエンジンを止めます。
冷却ファンが作動していないときはすぐにエンジンを止めてください。



アドバイス

- 冷却ファンが作動していない場合は、故障が考えられますので、ホンダベルノ店へご連絡ください。

④エンジンが冷えてから、冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検します。



⑤冷却水量が不足していたらラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

⚠警告

- エンジンが十分に冷え、水温が下がるまでラジエーターキャップを外さないでください。
  冷却水には圧力がかかっているため、蒸気や熱湯がふき出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

アドバイス

- エンジンが熱いときに冷却水を入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。
  冷却水はエンジンが冷えてからゆっくりと入れてください。

⑥なるべく早くホンダベルノ店で点検を受けてください。

電気系統が異常のとき

バッテリーあがりのとき

次のようなときは、バッテリーあがりです。

・スターターが回らないか、回っても回転が弱くエンジンがかからない。
・ライトがいつもより極端に暗かったり、ホーンの音が小さい。

●処置のしかた

安全のため、押しがけはしないでください。

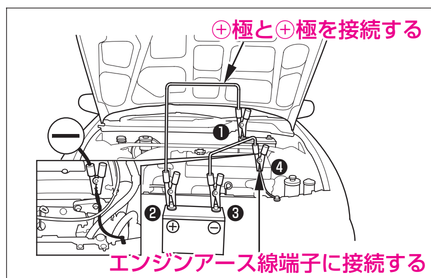
①ブースターケーブルを次の順番でつなぎます。

１本目

❶自車のバッテリーの⊕端子
❷救援車のバッテリーの⊕端子

２本目

❸救援車のバッテリーの⊖端子
❹自車のエンジンのアース線端子



②救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
③自車のエンジンをかけます。
④ブースターケーブルをつないだときと逆の順番で外します。
⑤ホンダ販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。



⚠警告

- バッテリーを取り扱うときは次のことを必ず守ってください。
  バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると爆発のおそれがあります。
  - バッテリー液が不足しているときは、エンジンの始動または充電を行わないでください。
  - 火気を近づけないでください。
  - 帯電した体でバッテリーに触れないでください。
  - 換気に十分注意し、換気の悪い場所では充電を行わないでください。
  - バッテリーを充電するときは、すべてのキャップを外してください。
- ブースターケーブルをつなぐときは次のことを必ず守ってください。火花が出て、バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると爆発のおそれがあります。
  - 自車のバッテリーの㊀端子に直接ケーブルをつながないでください。
  - ㊉端子と㊀端子を間違えないでください。
  - ケーブルの先端どうしを接触させないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに着くとその部分が侵されますので十分注意してください。
  万一、付着したときはすぐに多量の水ですくなくとも 5 分間以上洗浄し、飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

知 識

- バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
  バッテリー内部の劣化の進行が促進するおそれがあります。
- ブースターケーブルのクリップは、エンジン始動時などの振動で外れたりしないように確実に固定してください。
  また、ブースターケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分気をつけてください。
- 救援車には、12 V のバッテリーを装着している車を使用してください。

ライト類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

バッテリーがあがっていないときは、ヒューズ切れや電球(バルブ)切れが考えられます。

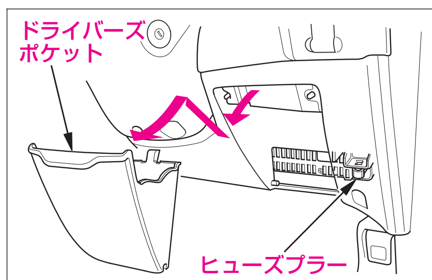
①エンジンスイッチを"0"の位置にします。
②ヒューズが切れていないかを点検します。
・故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスの表示で確認し、点検します。
③必要に応じて、ヒューズや電球を交換します。

●ヒューズの点検、交換

ヒューズボックスの位置

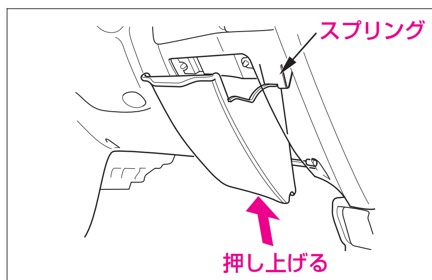
・運転席足元

ドライバーズポケットを開け、持ち上げながら手前に引いて取り外します。

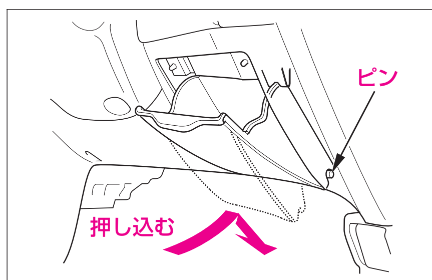


ドライバーズポケットを取り付けるときは、次の手順で行います。

①スプリングにポケットの溝を合わせて全体を押し上げます。



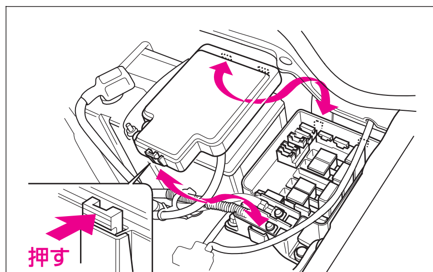
②下側を押し込み、両側のピンをポケットの溝に確実にセットします。



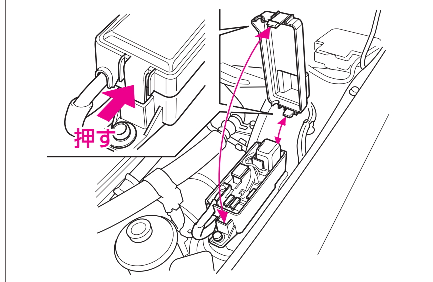
③ドライバーズポケットを閉めます。



・エンジンルーム内

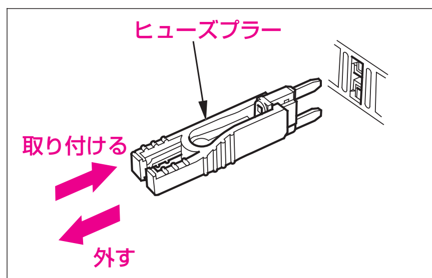


ABS装備車

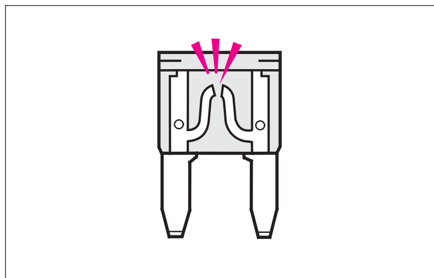


ヒューズの外しかた

備え付けのヒューズプラーでヒューズを外します。



ヒューズが切れているとき



ヒューズボックスの表示に従い規定容量のヒューズに交換します。

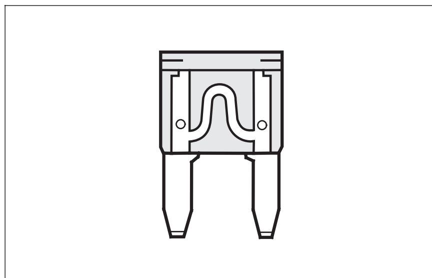

アドバイス

- 規定容量のヒューズ以外のものは絶対に使わないでください。
  配線コードなどを焼損させる原因となります。


知　識

- 交換しても、またヒューズが切れる場合は、電気系統の異常が考えられますので、ホンダベルノ店で点検を受けてください。

ヒューズが切れていないとき



- ライト類が点灯しないときは、電球切れが考えられます。
  電球を点検し、切れているときは交換してください。


知　識

- 電球が切れていない場合は、電気系統の異常が考えられますので、ホンダベルノ店で点検を受けてください。

- ライト類以外の電気装置が作動しないときは、電気系統の異常が考えられますので、ホンダベルノ店で点検を受けてください。

●電球(バルブ)の交換

ヒューズが切れていないのにライト類が点灯しないときは、電球切れが考えられます。
電球を点検し、切れているときは交換してください。

制動灯／尾灯
ハイマウントストップランプ
後退灯
制動灯／尾灯
ヘッドライト(ハイビーム)
室内灯
番号灯
後面方向指示器／
後面非常点滅表示灯
前面方向指示器／
前面非常点滅表示灯
側面方向指示器／
側面非常点滅表示灯
車幅灯
車幅灯
フォグライト
前面方向指示器／
前面非常点滅表示灯

ハイマウントストップランプ
トランクルーム照明灯
制動灯／尾灯
制動灯／尾灯
後退灯
ヘッドライト(ハイビーム)
室内灯
番号灯
後面方向指示器／
後面非常点滅表示灯
前面方向指示器／
前面非常点滅表示灯
側面方向指示器／
側面非常点滅表示灯
車幅灯
車幅灯
フォグライト
前面方向指示器／
前面非常点滅表示灯

知　識

- ランプ本体やレンズを外すときは、ボディに傷を付けないように注意してください。
- 電球を交換するときはワット(W)数の違うものを使わないでください。

電球のワット数　→170ページ

- ハロゲンバルブはガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると破損してガラスがとび散ることがあります。
  取り扱いには十分に注意してください。
  また、ハロゲンバルブの電球の表面に手などが、触れないようにしてください。使用時電球が高温になるため、油などが付着すると寿命が短くなります。触れた場合は、中性洗剤の薄い水溶液を柔らかい布に含ませてよくふき取ってください。
- ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。
  ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、ホンダベルノ店にご相談ください。

ヘッドライト(ロービーム)について

ヘッドライト(ロービーム)の電球切れの点検、交換は必ずホンダベルノ店で行ってください。

⚠注意

- ディスチャージヘッドライトは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いや分解を行うと感電するおそれがあります。

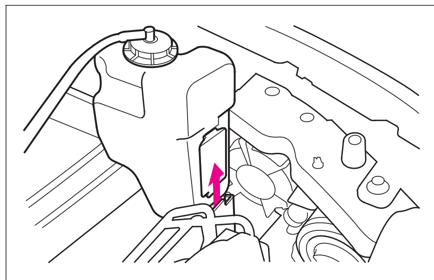


ヘッドライト(ハイビーム)

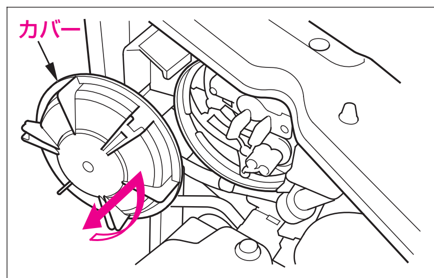
ハロゲンバルブを使用していますので、取り扱いに注意してください。

ハロゲンバルブ　→132ページ

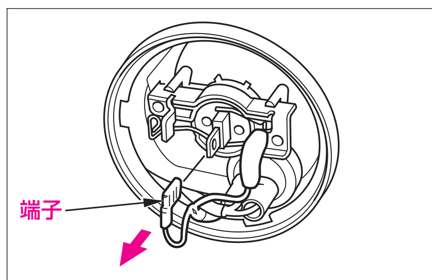
① **右側のみ**
ラジエーターリザーブタンクを引き上げて外します。



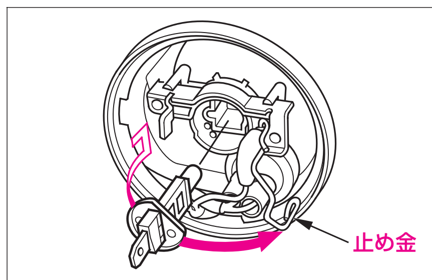
②カバーを左に回して外します。



③端子を外します。



④止め金を外し、電球を外します。

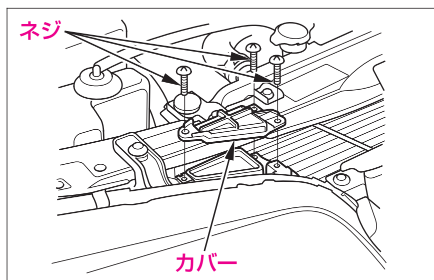


フォグライト

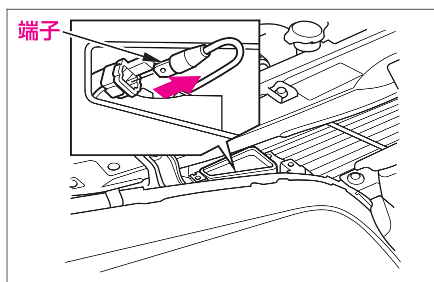
ハロゲンバルブを使用していますので、取り扱いに注意してください。

ハロゲンバルブ　→132ページ

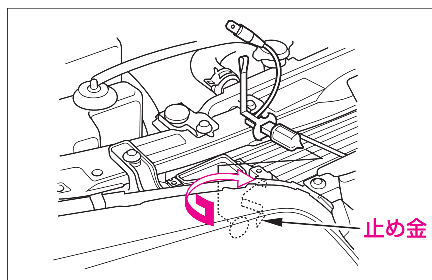
①ネジを外してカバーを外します。



②端子を外します。



③止め金を外し、電球を外します。

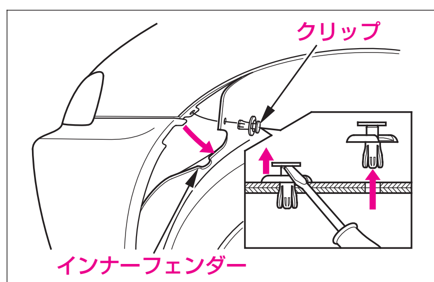




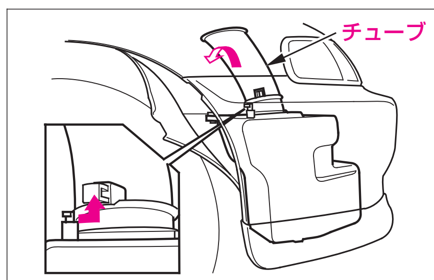
前面方向指示器／前面非常点滅表示灯

①交換する側と反対にハンドルをいっぱいに切ります。

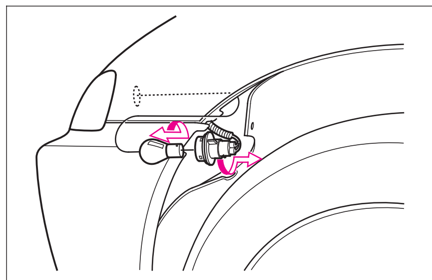
②クリップを外してインナーフェンダーをめくります。



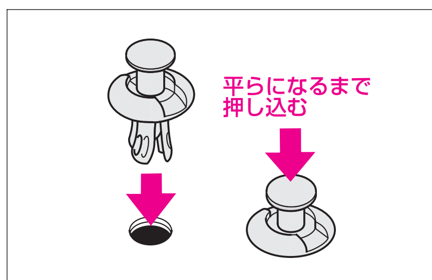
③ 右側のみ
チューブを左へ回してずらします。



④ソケットを左へ回して外し、電球を押しながら左へ回して抜き取ります。



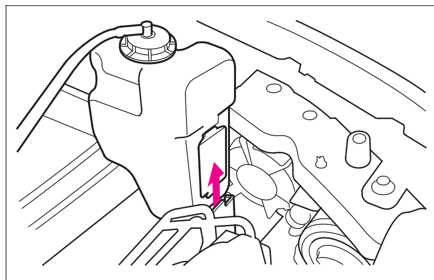
インナーフェンダーを固定するときは、クリップを中央部のピンを起こしたままインナーフェンダーに差し込み、ピンを平らになるまで押し込みます。



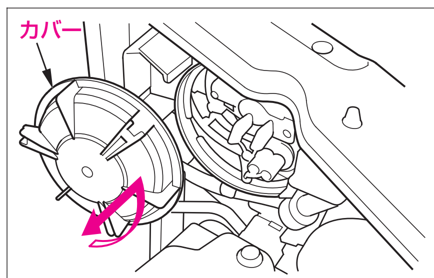
車幅灯

① 右側のみ

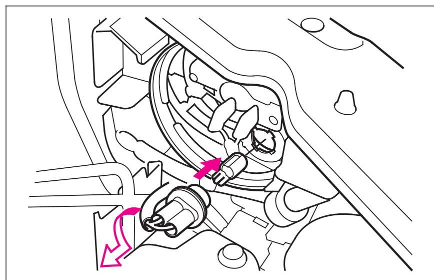
ラジエーターリザーブタンクを引き上げて外します。



②カバーを左に回して外します。



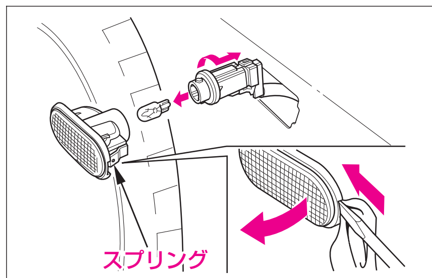
③ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。



側面方向指示器／側面非常点滅表示灯

ドライバーの先端に布などを巻き、後方よりスプリングを押しながらランプ本体を外します。

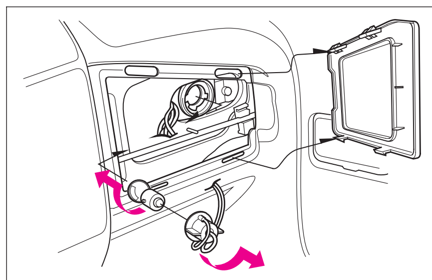
ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。



後面方向指示器／後面非常点滅表示灯

2 ドアハッチバック車

カバーを開け、ソケットを左へ回して外し、電球を押しながら左へ回して抜き取ります。

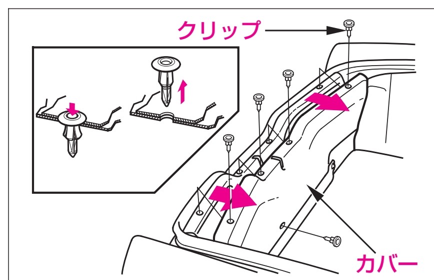




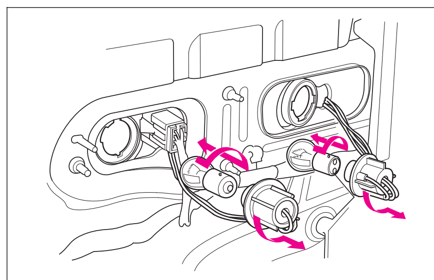
制動灯／尾灯、後退灯

2 ドアハッチバック車

①クリップを引き抜き、カバーをめくります。

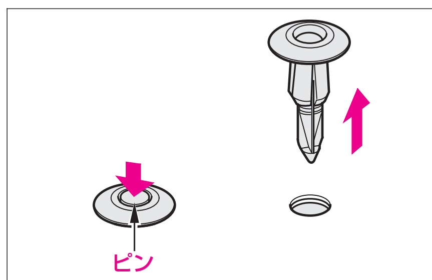


②ソケットを左へ回して外し、電球を押しながら左へ回して抜き取ります。

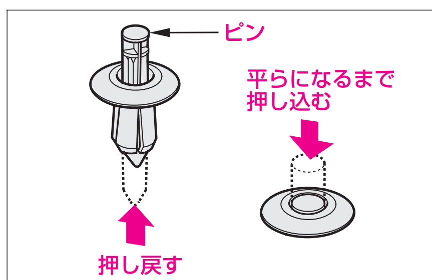


・クリップの脱着のしかた

クリップ中央部のピンを"カチッ"と音がするまで軽く(2 mm程度)押し込んでクリップを引き抜きます。

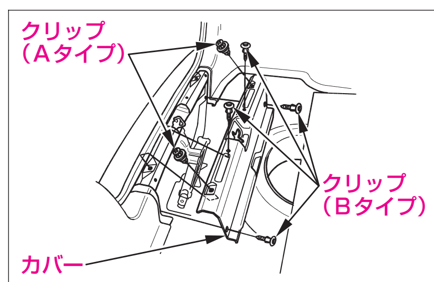


固定するときは、クリップ中央部のピンを押し戻して、取り付けたカバーに差し込み、ピンを平らになるまで押し込みます。

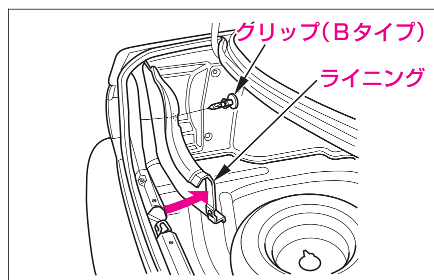


制動灯／尾灯、後面方向指示器／後面非常点滅表示灯 4ドアハードトップ車

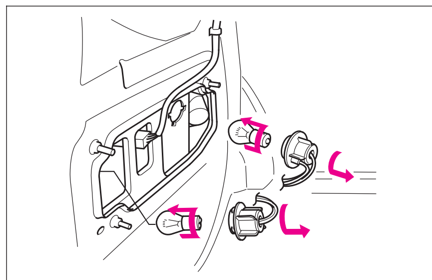
①中央のカバーからクリップ（Aタイプ2個、Bタイプ4個）を引き抜き、カバーを取り外します。



②交換する側のライニングからクリップ（Bタイプ1個）を引き抜き、ライニングをめくります。



③ソケットを左へ回して外し、電球を押しながら左へ回して抜き取ります。

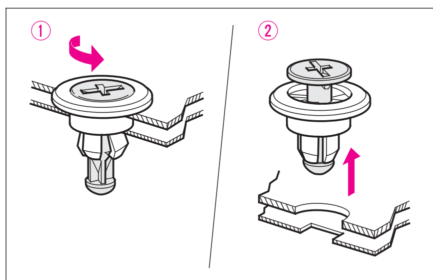




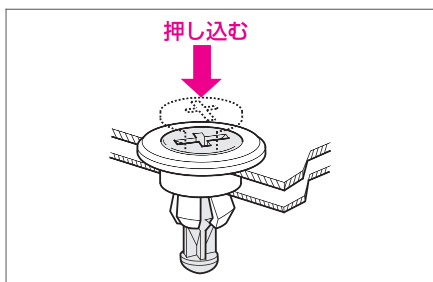
・クリップの脱着のしかた

Aタイプ

クリップの中央部をドライバーなどで左へ約1／4回転させて浮かし、クリップを引き抜きます。

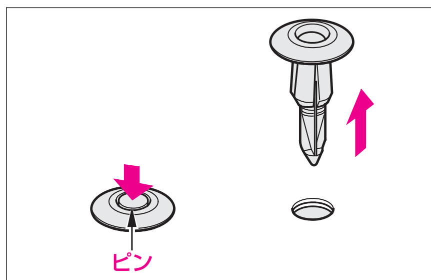


固定するときは、クリップを取り付けたカバーに差し込み、中央部を平らになるまで押し込みます。

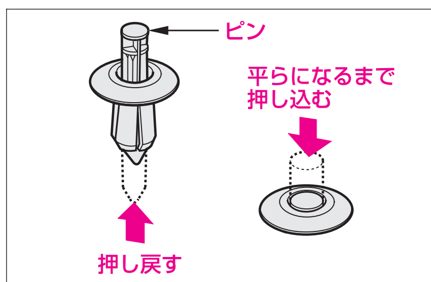


Bタイプ

クリップ中央部のピンを“カチッ”と音がするまで軽く(2 mm程度)押し込んでクリップを引き抜きます。



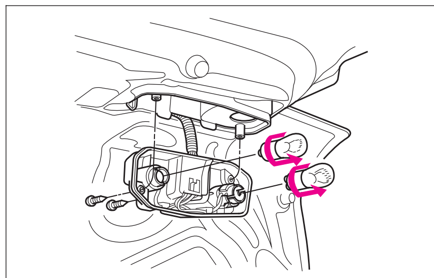
固定するときは、クリップ中央部のピンを押し戻して、取り付けたカバーに差し込み、ピンを平らになるまで押し込みます。



制動灯／尾灯、後退灯

4 ドアハードトップ車

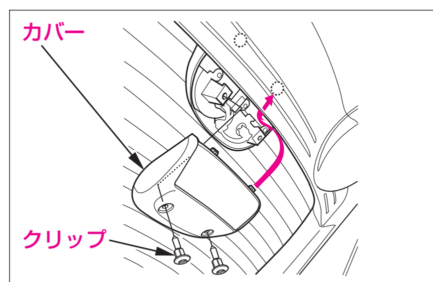
ネジをゆるめてランプ本体を外し、電球を押しながら左へ回し抜き取ります。



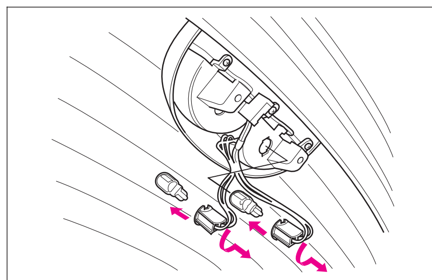
ハイマウントストップランプ 注文装備

2 ドアハッチバック車

①クリップを引き抜き、カバーを外します。



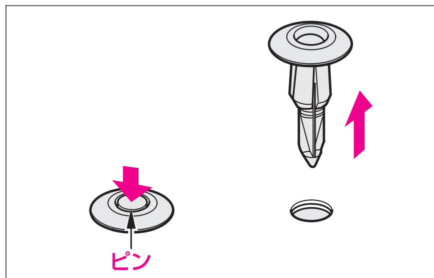
②ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。



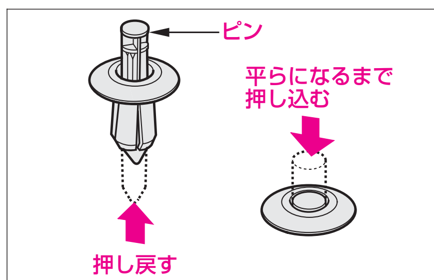


・クリップの脱着のしかた

クリップ中央部のピンを“カチッ”と音がするまで軽く(2 mm程度)押し込んでクリップを引き抜きます。

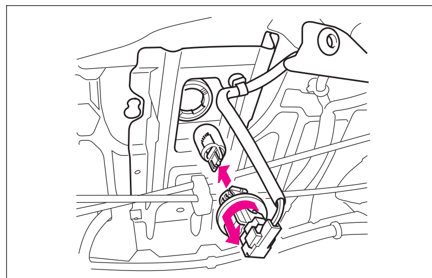


固定するときは、クリップ中央部のピンを押し戻して、取り付けたカバーに差し込み、ピンを平らになるまで押し込みます。



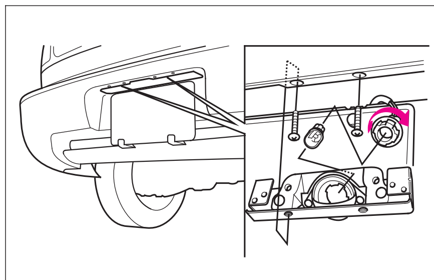
4 ドアハードトップ車

ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。



番号灯

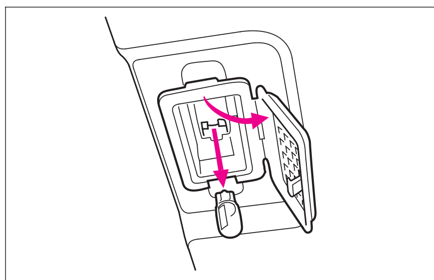
ネジを外し、ランプ本体を外します。
ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。



トランクルーム照明灯

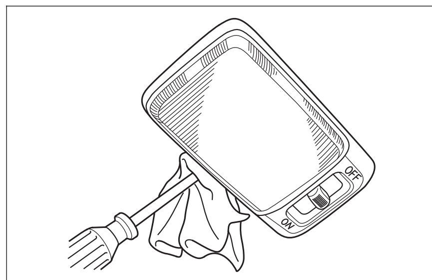
4 ドアハードトップ車

カバーを開け、電球を抜き取ります。

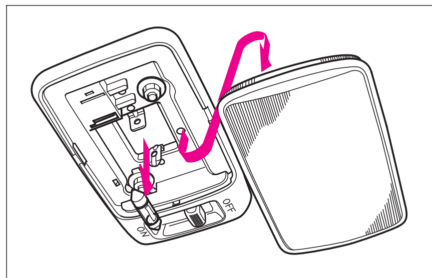


室内灯

①レンズを外します。



②電球を抜き取ります。

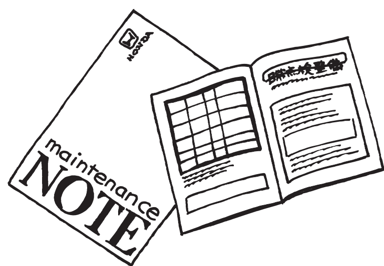




車の手入れ

点検・整備について

車は走行するにしたがい、また時間が経過するとともに部品の劣化や摩耗などが進んでいき、適切な点検整備を行わないと、安全・快適に乗っていただけなくなるばかりか大気汚染や騒音の増加などを引き起こすことがあります。
このようなことから点検整備が必要であり、ドライバー(運転者)は点検整備を実施することが法律でも義務づけられています。

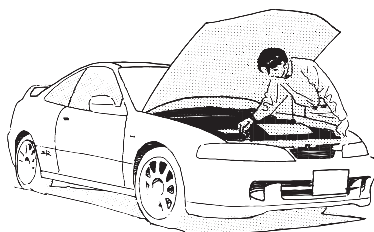


詳しくは、別冊のメンテナンスノートに記載してありますので、よくお読みになり必ず点検整備を行ってください。

●点検整備の種類

日常点検

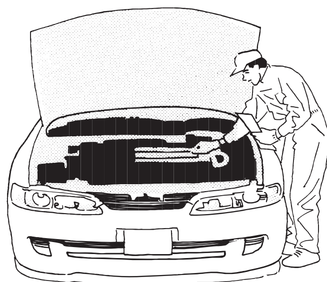
日常の車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検で、お客様自身で実施が可能な項目となっています。
点検時期の目安としては長距離走行前や洗車時、給油時などに実施します。





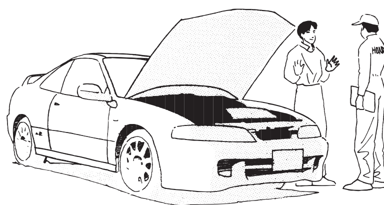
法定定期点検

年間走行距離が10,000km程度の標準的な使用を前提に、12か月および24か月毎に実施する点検です。
法律で定められているものと、ホンダが指定するものがあります。



その他

新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。



日常の手入れ

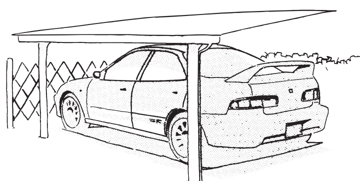
走行後は

- 塗装面に付着したほこりを毛ばたきなどではらい落としましょう。
- とび石などによる塗装面の傷は錆の原因となります。見つけたら早めに補修してください。



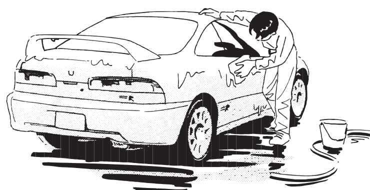
保管、駐車は

- 風通しのよい車庫や、屋根のある場所をおすすめします。



洗車を忘れずに

- 少なくとも月に一度は洗車しましょう。
- 次の場合は、必ず洗車してください。
  - ・凍結防止剤を散布した道路を走行したとき、海岸地帯を走行したとき。
    錆の原因となるので車体の下回り、フェンダーの内側を念入りに洗ってください。
  - ・コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などがついたとき。
    化学変化で塗装面にむらができるので、中性洗剤で洗ってから水で完全に流し、必要に応じてポリシングワックス（ワックス乳液）で磨いてください。
    ポリシングワックスは、ホンダ純正ケミカル用品をお使いください。





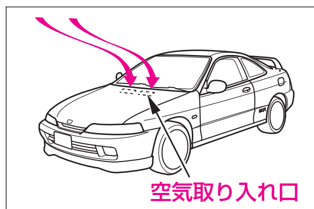
外装の手入れ

●洗車のしかた

・十分に水をかけながら、下回り、足まわりの汚れを落とします。
・塗装面は屋根から順に下のほうへ水をかけながら、スポンジかセーム皮のような柔らかいもので洗います。
・汚れがひどいところは中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とします。
・水が乾かないうちに拭き取ります。

● 4 ドアハードトップ車
ドアガラスまわりには、ホースの先端を絞るなどして水を強くかけないでください。
室内へ水が侵入することがあります。

●故意に空気取り入れ口やエンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください。
故障のもとになります。



自動洗車機を使うとき

・ドアミラーを格納して洗車してください。

●自動洗車機を使うと、ブラシの傷がつき光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。
●大型リヤスポイラーを装備していますので、洗車機によってはひっかかり、洗車できなかったり、車両を傷つけるおそれがあります。

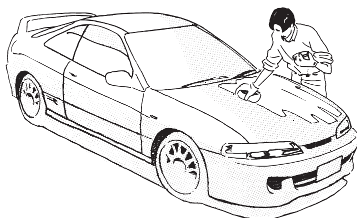
コイン洗車機を使うとき

洗車ノズルと車体の距離を十分に離して洗車してください。
ウィンドーまわりは、特に注意して行ってください。近づけすぎると室内へ水が侵入することがあります。

●ワックスをかけるとき

月に一回程度または水をはじかなくなったときに行います。
洗車したあと、日陰か車体表面が体温以下になっているときにワックスをかけます。

・ワックスはホンダ純正ケミカル用品をお使いください。



●みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは使わないでください。
塗装面に細かい傷が残ることがあります。

●樹脂塗装部品(バンパーなど)の手入れ

ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。
すみやかに柔らかい布で拭き取ってください。

●樹脂塗装部品の傷の補修をする場合は、ホンダベルノ店にご相談ください。不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

●ガラスの手入れ

ガラスの油膜を取るときは、ガラスクリーナーをお使いください。

・ガラスクリーナーはホンダ純正ケミカル用品をお使いください。

リヤガラスの清掃をするとき

リヤガラスの内側に電熱線が装着されていますので、これに沿って柔らかい布で拭いてください。



内装の手入れ

①中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませて、汚れを落とします。
・飲食物などをこぼしたときは、すぐに汚れを落としてください。

②真水を含ませた柔らかい布で、残った洗剤分をきれいに拭き取ります。

③直射日光を避け、風通しのよい日陰で乾燥させます。

- ●ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤は変色、しみなどの原因となるので使わないでください。
- ●室内に水をかけないでください。電気部品に水がかかると故障の原因となります。



●液体芳香剤、レザークリーナーについて

液体芳香剤、レザークリーナーはその成分によっては、樹脂部品、布材の変色、ひび割れを起こすことがあります。
取り扱いには十分にご注意ください。

- ●液体芳香剤はこぼさないように、容器を確実に固定してください。
芳香剤の使用にあたっては固形タイプのものをおすすめします。
- ●レザークリーナーを使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
また、使用した布はそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

タイヤについて

タイヤの異常摩耗、亀裂、損傷および指定外の空気圧は、乗り心地、操縦性、タイヤの寿命を損ないます。
また、摩耗したタイヤは雨天時の高速走行で通常よりもハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

・安全のため、こまめに点検を行ってください。
　また、必ずこの車専用のタイヤをお使いください。
・標準装着のタイヤ／ホイールを、横にしてそのまま地面に置いたり重ねて積むと、ホイールに傷がつくことがあります。
　置くときは布を敷くなどして、ホイールに傷がつかないようにしてください。

⚠警告

●次のようなタイヤは使わないでください。
コントロールを失うことがあり、思わぬ事故につながります。
・摩耗限度を超えたタイヤ
・指定空気圧に調整されていないタイヤ

タイヤの空気圧
→173ページ

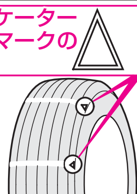
⚠注意

●タイヤの空気圧を調整するときは、規定圧力を守ってください。
空気を入れ過ぎると、タイヤが破裂しけがをするおそれがあります。

●前輪は左右共、同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを混用するとLSDに悪影響を与えます。

摩耗限界表示（ウェアインジケーター）

ウェアインジケーターが表れたらタイヤを交換してください。
・ウェアインジケーターは、タイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mmだけ浅くなっています。





●位置交換（タイヤローテーション）

5,000kmごとにタイヤの位置を交換します。

・同じ位置で長く走ると偏摩耗し、タイヤの寿命を縮めるだけでなく走行性、制動力にまで悪影響を与えます。

●応急用スペアタイヤは、位置交換に使わないでください。

●前輪と後輪でタイヤの空気圧が異なるので、位置交換後は必ず空気圧を調整してください。

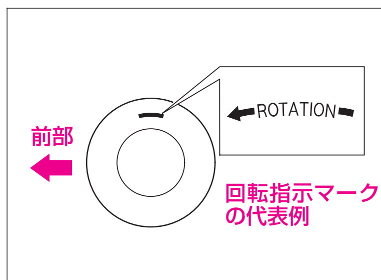
タイヤの空気圧　→173ページ

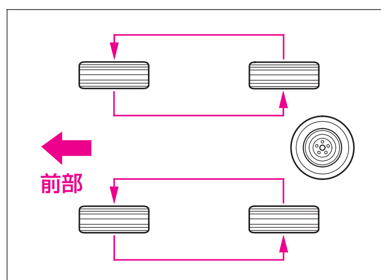
●標準装着のタイヤは、回転方向が指定されています。タイヤの側面に回転方向を指定する矢印がありますので、タイヤを交換する際は回転方向に注意してください。

タイヤ回転指示マーク

タイヤの性能上、回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ側面に回転指示マークがあります。

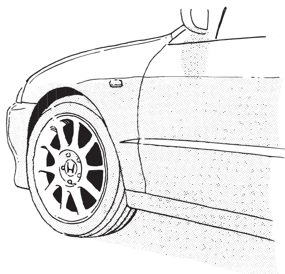
回転指示マークが前部へ向くように取り付けてください。





アルミホイールについて

アルミホイールは一般的なスチールホイールと取り扱いかたが異なります。
アルミホイールの特性を維持するため、必ず次のことをお守りください。



●取り扱い

- この車専用のホイールをお使いください。専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。
  ホイール交換に際しては、必ずホンダベルノ店にご相談ください。
- パンク修理などでホイールを取り付け直した際には、念のため1,000km走行時にホイールナットのゆるみの有無を点検してください。
- アルミホイールは傷つきやすいので歩道の縁石などに乗り上げたり、すり当てたりすることを避けてください。
- バランスウェイトやバルブはホンダ純正のアルミホイール専用品をお使いください。ホイールに傷をつけたり、機能を損なうことがあります。
- タイヤチェーンを装着するときは、正しく装着してください。ホイールに対して片寄ったり、ゆるかったりするとホイールに傷をつけるおそれがありますので注意して装着してください。
- 標準装着のタイヤ／ホイールを、横にしてそのまま地面に置いたり重ねて積むと、ホイールに傷がつくことがあります。
  置くときは布を敷くなどして、ホイールに傷がつかないようにしてください。



●手入れ

- アルミホイールは、塩分や汚れを嫌いますので、海水や道路凍結防止剤などが付いたときには、スポンジに中性洗剤を含ませ、汚れを早めに落としてください。
- ホイールの光沢を維持するため、時々ワックスがけをしてください。
- アルミホイールは傷つきやすいので、砂入り石鹸や硬いブラシを使わないでください。高速洗車機（ホイール専用ブラシ付きのもの）によるホイールの洗浄は避けてください。
- スチーム洗浄などで、熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。
  光沢を失うおそれがあります。

車にあった部品の使用

車の性能、品質を維持するために、ホンダ車に最も適したホンダ純正部品をお使いください。
純正部品は厳しい検査を実施し、ホンダ車に適合するように作られています。
お求め、装着に際しては、ホンダベルノ店にご相談ください。

・純正部品には下のマークがついています。



・ホンダ純正部品以外の車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりすることがあります。

・車の改造はしないでください。
不正改造は、法律に触れることはもちろん思わぬ事故を起こす場合があります。

7

車との上手なつきあいかた

●積雪・寒冷時の取り扱い

●こんなときは

積雪・寒冷時の取り扱い

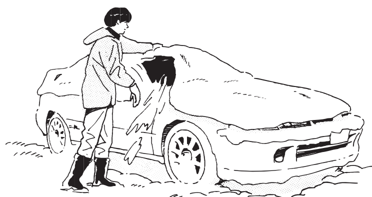
運転するまえ

●車に積もった雪や着氷は取り除く

屋根に積もった雪

走行時にガラス面に落ちた雪が視界のさまたげとなり危険です。走行するまえに取り除いてください。

・氷結している部分を無理に取り除くと塗装などを傷めます。氷が溶けてから取り除いてください。



ガラス面の雪や霜

プラスチックの板などを使うとガラスに傷をつけずに落とすことができます。

足まわりの着氷

足まわりなどに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。

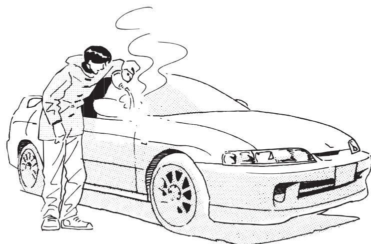


●凍結しているとき

ドアの凍結

無理に開けるとドアまわりのゴムがはがれたりするので、お湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。

・ドアキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結すると、キーが差し込めなくなります。



お湯をかけたあとは、凍結防止のために水分をよく拭き取ってください。

ワイパーの凍結(ガラス面が着氷、積雪しているとき)

ワイパーブレード(ゴム部)を損傷したり、モーターの故障となりますので、氷や雪を取り除いてから動かしてください。

●乗車するとき

靴にこびりついた雪をよく落としてから、乗車してください。

・ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。

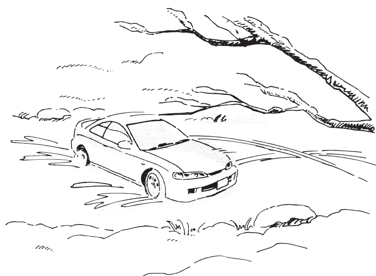


運転するまえに

ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうか確認してください。

運転するとき

- 雪道や凍結路では、たいへん滑りやすくなっているので、速度を落とし車間距離を十分とって運転しましょう。
  また、ハンドルやブレーキの操作は特に慎重にしてください。
  - ・急加速、急減速、急ブレーキや急ハンドルは横すべりを起こして方向性を失います。

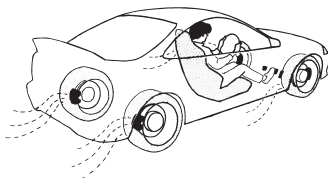


- 冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着して走行してください。
  タイヤチェーンについて
  →159ページ
  - ・冬用タイヤを装着するときは、四輪とも同じ種類のものに交換してください。
  - ・地区条例により違いがありますので、その地区の条例に従ってください。

- 冬用タイヤを装着したときには、安全のため高速走行は避けてください。

●ブレーキのききについて

ブレーキ装置に付着した雪や水が凍結し、ブレーキのききが悪くなることがあります。
その際には、前後の車に十分注意して、ブレーキペダルを軽く踏みながら低速で走行し、ブレーキのしめりを乾かしてください。



- ブレーキのききが回復しないときは、ブレーキ系統に異常が考えられますので、ただちにホンダベルノ店で点検を受けてください。

●ウォッシャー液を噴射するとき

先にヒーターを使ってフロントガラスを暖めてからウォッシャー液を噴射します。

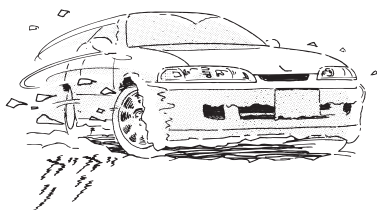
⚠注意

- 寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射しないでください。
  ウォッシャー液が凍りついて視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



●ハンドルのきれについて
（タイヤまわりの着氷）

フェンダー裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルのきれが悪くなることがあります。
ときどき確認し、着氷が大きくなる前に取り除いてください。



●パンクしたとき
（タイヤチェーン装着時）

前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に付け、外した後輪タイヤを前輪につけてタイヤチェーンを装着します。
・応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンは装着できません。



●タイヤチェーンについて

推奨タイヤチェーン

この車は、一般の車に比べタイヤとフェンダーの間がせまくなっています。また、標準装着されているタイヤは、偏平率が小さく側面がせまくなっています。そのため、タイヤサイズにあったタイヤチェーンであっても、取り付けられないことやホイールなどに傷がつくことがあります。
チェーンはホンダ純正スーパーグリップチェーンをお使いください。
ご購入、ご使用に際しては、ホンダベルノ店にご相談ください。

- タイヤチェーンはタイヤに合った適正なものをお使いください。
  推奨タイヤチェーン以外のものを使うと、ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。

標準的なタイヤチェーンの取り付けかた

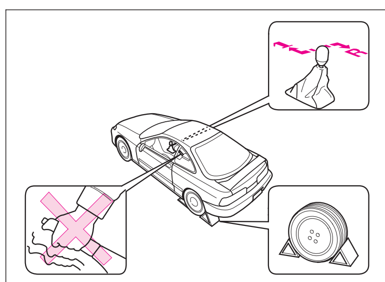
タイヤチェーンは、駆動輪の前輪に装着してください。
タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従って、正しく取り付けてください。
後輪には、タイヤチェーンは装着できません。

- タイヤチェーンは平らな所で他の交通に十分注意して取り付けてください。
  必要に応じて非常点滅表示灯などを使ってください。
- 応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンは装着できません。
  チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に取り付け、これに標準タイヤ用のタイヤチェーンを装着してください。
- タイヤチェーンを取り付けたときには、安全のため雪道、凍結路では30km/h以下の速度で運転してください。
  なお乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したままで走行するのは避けてください。チェーンの摩耗を早めます。



駐車するとき

パーキングブレーキの凍結を防ぐために、パーキングブレーキは使わないでください。
ギヤをＲ（後退）か１に入れます。
石などで輪止めをしておきます。



●屋外に駐車するとき

- エンジンの冷えすぎを防ぐために、車の前部を風下や日の当たる方向に向けて停めてください。
  - ・エンジンが冷えすぎると始動しにくくなることがあります。
- 落雪や積雪を避けるために、軒下や樹木の下などには停めないでください。
  - ・車の屋根などがへこむことがあります。
- ワイパーアームは起こしてください。
  - ・雪の重みでアームの取り付け部がこわれることがあります。

●長期間使わないで屋外におくとき

塗装面の保護とドアまわりの凍結を防ぐために、ボディカバーを使ってください。

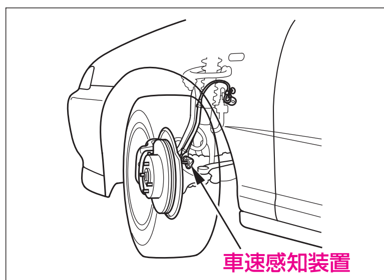
⚠注意

- 格納するとき、エンジン部を毛布で覆ったり、ラジエーターのまわりに段ボールや新聞紙をはさみ込んだりしないでください。
  そのまま走行すると、火災のおそれがあります。

冬期の手入れ

●雪道走行後の手入れ

・フェンダー裏側や足まわりに付着した泥、雪は周囲の部品を損傷しないように取り除いてください。ABS装備車は、足まわり（前、後輪の 4 か所）に車速感知装置が取り付けてありますので、傷をつけないように特に注意してください。



・積雪時には道路に凍結防止剤がまかれていることがあります。錆の原因になりますので、走行後はすぐに洗車してください。特に下回りは念入りに行ってください。

●点検・整備

バッテリーについて

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

エンジンオイルについて

冬期はオイルの劣化が激しくなります。
冬期に主として短距離、または市街地を運転される方は、早めに交換してください。



冷却水について

冷却水の凍結を防ぐために点検してください。

ウォッシャー液について

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

- 点検方法はメンテナンスノートを参照し、交換はホンダベルノ店にご相談ください。

こんなときは

雨の日の運転

雨の日は視界が悪くなるうえ、窓ガラスが曇ったり、路面が滑りやすくなるなど悪条件が重なるので通常より注意深い運転が必要です。

- 急加速、急ブレーキや急ハンドルを避け、晴れの日よりも速度を落とし、車間距離を十分にとって運転しましょう。
- ハイドロプレーニング現象に注意しましょう。
- 雨の降り始めの舗装道路は滑りやすいので特に気を付けましょう。

⚠警告

- 滑りやすい路面では、急加速、急ブレーキや急ハンドルは避けてください。
  車のコントロールを失い思わぬ事故につながります。

ハイドロプレーニング現象とは

路面が水でおおわれているところを高速で走行しようとしたときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることをいいます。

- このような状態になると、ハンドルやブレーキがきかなくなり、非常に危険です。



●ガラスの曇りをとりたいとき

ガラスが曇って外が見にくいときは、エアコンのデフロスターを使って曇りをとります。

リヤガラスの曇りは

リヤデフロスタースイッチを押して、曇りをとります。

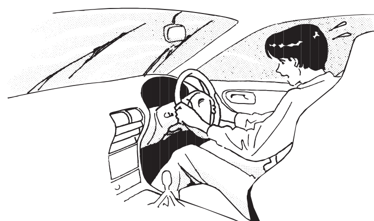
●ガラスの油膜をとりたいとき

油膜があると、雨の夜は対向車のライトなどが乱反射します。
ガラスクリーナーを使ってガラスの表面をきれいにします。

・ガラスクリーナーはホンダ純正ケミカル用品をお使いください。

●ワイパーのふきむらがあるとき

ワイパーブレードのラバーが傷んでいると、ふきむらが出て視界のさまたげとなります。また、ガラス面を傷つけることがありますので、早めに交換してください。



夏場の取り扱い

●エアコンの上手な使いかた

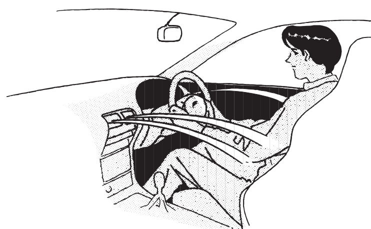
エアコン装備車

・冷媒(ガス)が不足していると、冷房性能が低下します。
夏になる前に点検、補充をしておきましょう。

・室内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンをかけましょう。

・エアコンの冷やしすぎは健康上良くありません。

●この車の冷媒は、環境保護のため、新冷媒HFC-134a（R-134a)を使用しています。
補充・交換が必要な場合は、ホンダベルノ店にご相談ください。



●炎天下に駐車するときは

・ボディーに覆いをかけたり、ハンドルやシートにタオルなどをかけて、室内温度の上昇を抑えましょう。

・フロントガラスにアルミ光沢性の日除けバイザーを使うと、反射光が集光し、インストルメントパネルなどが変色、変形することがあります。

●海から帰ってきたときは

海に出かけた後は車も塩分を浴びています。錆の原因になりますので早めに洗車してください。下回りも念入りに洗いましょう。

●オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量が不足しないように、こまめに点検します。

・走行中、水温計の針が“H”の目盛に入った場合は、オーバーヒートのおそれがあります。安全な場所に停車してエンジンを冷やしてください。

オーバーヒートしたとき
→124ページ



経済走行のために

- 不必要な急加速、急減速などアクセルペダルをバタつかせるような運転をしないでください。

- 変速位置の選択は、走行速度に応じて適切に行ってください。

- チェンジレバーの操作は、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んでから確実に行ってください。
  - ・クラッチペダルの足のせ運転、半クラッチの連続使用はしないでください。

- 点検整備をきちんとし、タイヤの空気圧を適正にしましょう。

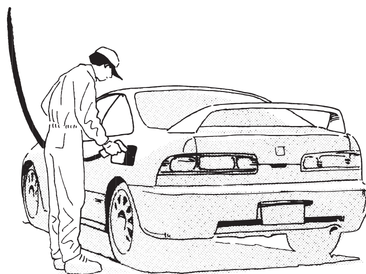
- 長すぎる暖機運転をしないようにしましょう。

- 駐車時にはエンジンを止めましょう。

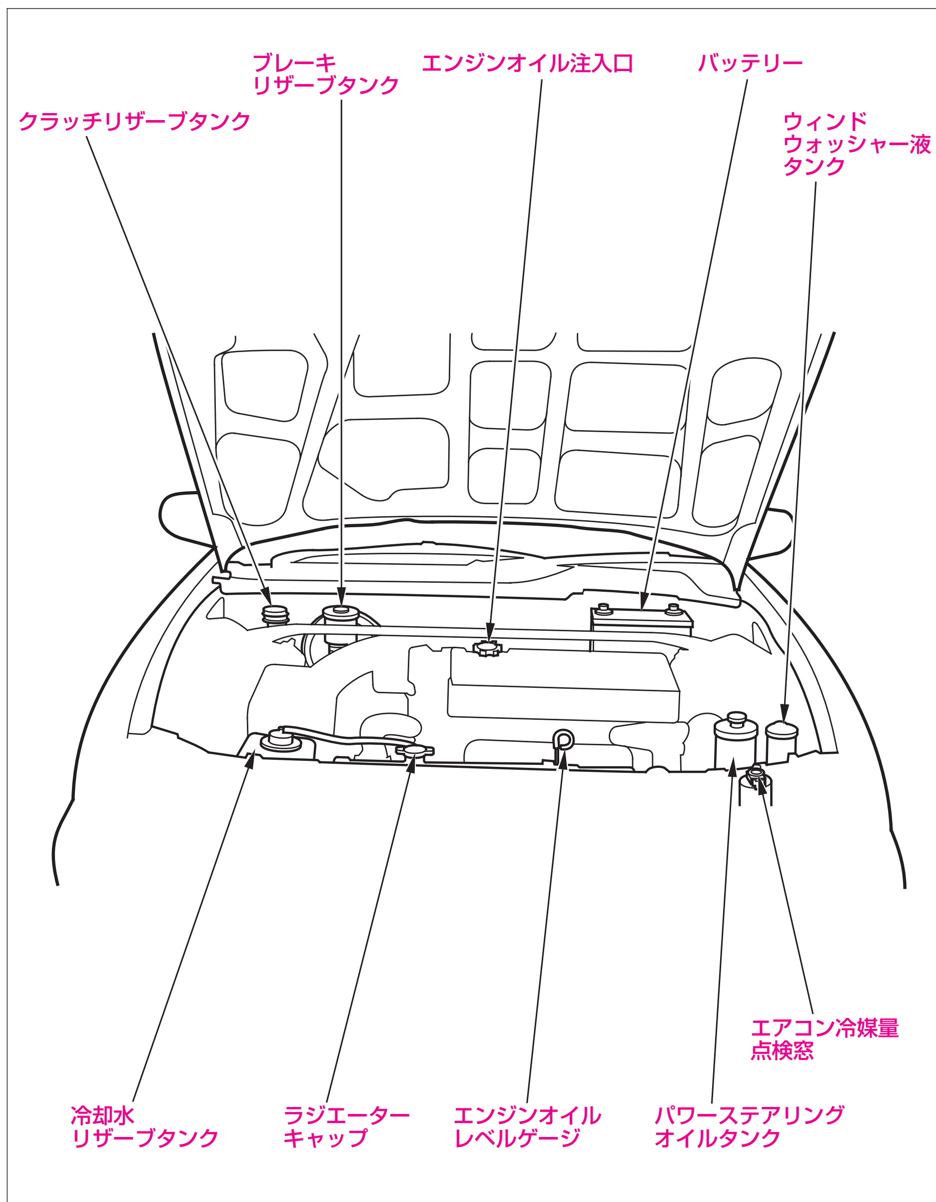
- 高速道路でも不必要な高速走行は避けましょう。

- 車間距離は十分にとり、不必要なブレーキをかけないようにしましょう。

- トランクルームには不必要な荷物は載せないようにしましょう。



サービスデータ



ブレーキ
リザーブタンク
エンジンオイル注入口
バッテリー
クラッチリザーブタンク
ウィンド
ウォッシャー液
タンク
エアコン冷媒量
点検窓
冷却水
リザーブタンク
ラジエーター
キャップ
エンジンオイル
レベルゲージ
パワーステアリング
オイルタンク

点検整備については「メンテナンスノート」も合せてご覧ください。

項目		サービスデータ	
ベルトのたわみ量	Ⓐ:発電機ベルト Ⓑ:パワーステアリングベルト Ⓒ:エアコンディショナーベルト （エアコン装備車）		
	発電機ベルト	9.0－11.0 mm（約10kgの力）	
	パワーステアリングベルト	11.5－13.5 mm（約10kgの力）	
	エアコンディショナーベルト	7.5－9.5 mm（約10kgの力）	
点火プラグ※	タイプ	NGK	PFR7G-11
		DENSO	PK22PR-L11
	電極のすき間	1.0－1.1 mm（限度値1.3mm）	

※：ISO（国際標準化機構）規格品を使用しています。SHORT TYPE のマークがついています。
白金プラグを使用していますので、次のことに注意してください。
・白金チップの微粒子膜を損傷するおそれがあるので、ワイヤーブラシ等による清掃は行わないでください。
・プラグギャップは調整できません。限度値をこえているものは交換してください。
（清掃はクリーナーにて20秒以下で行ってください。）

項　　目		サ ー ビ ス デ ー タ
ブレーキペダル	遊　　び	1－5 mm
	床板とのすき間	113 mm 以上（約20kgの力）
	カーペットとのすき間（参考値）	78 mm 以上（約20kgの力）
クラッチペダル	遊　　び	12－21 mm
	床板とのすき間	83 mm以上（クラッチが切れたとき）
	カーペットとのすき間（参考値）	55 mm以上（クラッチが切れたとき）
パーキングブレーキ	引きしろ	6－10回（約20kgの力）
バッテリー	容量／タイプ	28AH(5)／38B20R
電球（バルブ）	W（ワット）数	ヘッドライト（外側）……………… 12V－35W※1 （内側）……………… 12V－55W※2 フォグライト（ハロゲンバルブ）…… 12V－55W 前面方向指示器／前面非常点滅表示灯 ‥ 12V－21W 車幅灯………………………… 12V－5W 側面方向指示器／側面非常点滅表示灯 ‥ 12V－5W 後面方向指示器／後面非常点滅表示灯 ‥ 12V－21W 番号灯………………………… 12V－8W 制動灯／尾灯……………………… 12V－27/5W ハイマウントストップランプ （2ドアハッチバック車）……… 12V－18W （4ドアハードトップ車）……… 12V－21W 後退灯………………………… 12V－21W 室内灯………………………… 12V－5W トランクルーム照明灯 （4ドアハードトップ車）……… 12V－5W

※1：ディスチャージヘッドライト
※2：ハロゲンヘッドライト

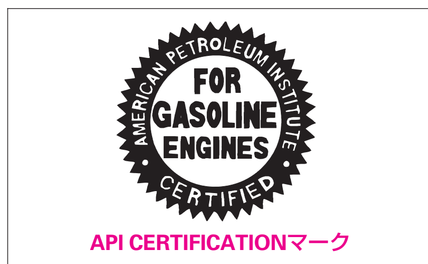
⚠注意

- ディスチャージヘッドライトのバルブを交換する場合は、必ずホンダベルノ店で行ってください。
  ディスチャージヘッドライトは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いや分解を行うと感電するおそれがあります。

<table>
<tr><th colspan="2">項　目</th><th colspan="2">サ ー ビ ス デ ー タ</th></tr>
<tr><td>エアクリーナーエレメント</td><td>タイプ</td><td colspan="2">湿式</td></tr>
<tr><td rowspan="3">エンジンオイル</td><td>推奨オイル</td><td colspan="2">ホンダ純正オイル（4サイクル四輪車用）
ウルトラSG（SG級SAE 10W-30）
ウルトラSUPER MILD SJ（API SJ/GF-2級SAE 10W-30）
ウルトラGOLD XJ（API SJ級SAE 5W-40）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">規定量</td><td>オイル交換時</td><td>3.7 ℓ</td></tr>
<tr><td>オイル、オイルフィルター同時交換時</td><td>4.0 ℓ</td></tr>
</table>

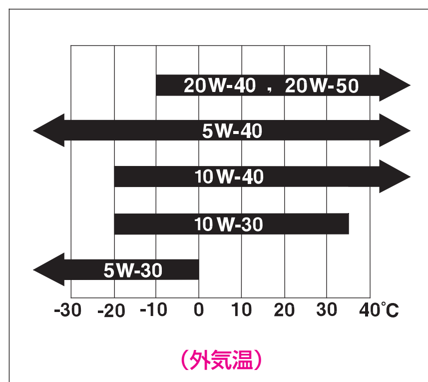
推奨エンジンオイル

ホンダ純正エンジンオイルまたはAPI SG級以上か、オイル缶にAPI CERTIFICATION（エーピーアイ　サーティフィケーション）マークの入ったエンジンオイルをお使いください。



API CERTIFICATIONマーク

市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。

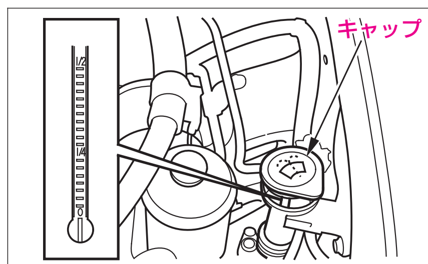


（外気温）

項　　目		サービスデータ
燃料	使用燃料	無鉛プレミアムガソリン(無鉛ハイオク)
	タンク容量	50 ℓ
トランスミッションオイル	指定オイル	ホンダ純正オイルウルトラMTF-II
	規定量	2.2 ℓ
冷却水	指定液	ホンダ純正ウルトララジエーター液
	規定濃度	50%
	規定量（交換時リザーブタンク0.6ℓ含む）	4.5 ℓ
ブレーキ液	指定液	ホンダ純正ウルトラブレーキフルードDOT 3 またはDOT 4
クラッチ液	指定液	ホンダ純正ウルトラブレーキフルードDOT 3 またはDOT 4
パワーステアリング液	指定液	ホンダ純正ウルトラパワーステアリングフルード-Vまたは-II
ウォッシャー液	タンク容量	2.5 ℓ

ウォッシャー液の量の点検

ウォッシャー液の量は、キャップに付いているウォッシャー液レベルゲージにより確認します。



タイヤサイズ ＼ 項目		タイヤ空気圧 kPa（kgf/cm²）		リムサイズ※	
		前輪	後輪	スチールホイール	アルミホイール
標準タイヤ	215/45ZR16	210 (2.1)	190 (1.9)		16×7JJ
応急用スペアタイヤ	T125/70D15 95M	420 (4.2)		15×4T	

タイヤの溝の深さ	1.6 mm以上
位置交換時期（タイヤローテーション）	5,000 kmごと

※：この車専用のタイヤ、ホイールをお使いください。
専用以外のタイヤ、ホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。
タイヤ、ホイール交換に際しては、必ずホンダベルノ店にご相談ください。

名称	排気量（cm³）	車体形状	乗車定員（人）	タイプ
インテグラ	1,797	2ドア ハッチバック	4	TYPE R
		4ドア ハードトップ	5	

さくいん

ア

イ

ウ

エ

オ

ヒ

フ

ヘ

ホ



お問い合わせ、ご相談は、お買い求めのベルノ店もしくは全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターがお受け致します。

フリーダイヤル	0120-112010（イイフレアイオ）
FAXインフォメーション	03-5412-2388

本田技研工業株式会社　お客様相談センター
受付時間　9：00～12：00　13：00～17：00
〒107-8556　東京都港区南青山２－１－１

・所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

販売店のご案内、カタログのご注文、車の手続き、税金、保険、車種別主要諸元、装備、価格についてはホンダ24時間FAXインフォメーションをご用意しておりますのでご利用ください。

こんなことでお困りのとき

●キーが回せない

"0"から"I"に回らないとき

・ハンドルを左右に動かしながらキーを回してください。

エンジンスイッチ　→64ページ

●エンジンがかからない

・ガソリンが入っていますか。（メーター内の燃料計で確認してください。）
・バッテリーがあがっていませんか。

バッテリーあがりのとき　→126ページ

●ドアを開けるとブザーが鳴る

・キーをエンジンスイッチに差し込んだままになっていませんか。

キー抜き忘れ警告ブザー　→65ページ

・ライトを消し忘れたままになっていませんか。

ライト消し忘れ警告ブザー　→66ページ

●キーを閉じ込めてしまった

・ホンダ販売店またはJAFへご連絡ください。

●水温計の針が"H"の目盛に入った
●エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

・オーバーヒートのおそれがあります。
（安全な場所に停車して、エンジンを冷やしてください）

オーバーヒートしたとき　→124ページ

●走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする

・ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。
（ホンダベルノ店で点検を行ってください。）